

2

RESEARCH

アンケート調査分析 ①

地域の希望に関する調査

橋口理文（はしごち・まさふみ）

株式会社ディ・プラス 代表取締役

東京大学経済学部卒業後、(株)リクルートに入社。主に新規事業関連企業のマーケティングリサーチを担当。マーケティングリサーチ・エージェンシー取締役を経て、2019年に住生活、高等教育、観光・地方創生を中心とするリサーチ＆コンサルティング企業(株)ディ・プラスを設立。(現・取締役)。

吉永奈央子（よしなが・なおこ）

リサーチャー／株式会社ディ・プラス フェロー

上智大学文学部卒業後、インターネットリサーチ会社に入社。リサーチャーとして様々な調査に関わり、退社後もフリーリサーチャー、(株)ディ・プラス フェローとして調査業に従事。また、東京学芸大学大学院を修了、公認心理師、臨床心理士として心理発達支援にも携わる。

株式会社マーケティングリサーチシステム

2015年1月設立。アンケート集計・データ処理、分析・多変量解析をはじめ、調査企画業務やレポート、実査などマーケティング・リサーチ業務全般を行っている。特に自社開発のアンケート集計システムによるデータ処理、アンケート集計・分析とレポート作成を主力業務としている。

アンケート調査分析 ②

地域の希望とウェルビーイング

有馬雄祐（ありま・ゆうすけ）

九州大学大学院 人間環境学研究院 都市・建築学部門 助教

地域の希望に関する調査 目次

調査概要	055
回収状況	056
回答者プロフィール	057

I. 地域の希望

地域の将来の直観的な見通し	061
地域の未来を拓けるか	062
地域の課題に対処できるか	063
地域の将来の生活は満足できそうか	064
地域の将来を考えることは楽しいか	065
地域の未来の大きな方向感	066
地域の希望の総合指標	067

II. 地域の希望は何をもたらすか

① 地域の希望と個人の幸福度

この地域に住むことの満足度	068
生活満足度の詳細	069
人生の幸福度【現在】	070
人生の幸福度【将来】	071
協調的幸福	072
利己的空気・利他的空気	073

② 地方創生への関与

地域へのコミットメント意向	074
挑戦意欲	075
定住意向	076
離脱意向	077
シビックプライド	078

III. 地域の希望はどこから生まれるか

① 変わるもの／変わらないもの

分析の手続き	079
ひとの動き	080
まちの動き	081
社会の動き	082
地域の固有性	083
地域ブランド評価	084

② 地域の“空気”

政治・行政へのスタンス：関心	085
政治・行政へのスタンス：信頼	085
政治・行政へのスタンス：評価	086
人の関係性：一般的信頼	087
人の関係性：頼れる人の有無	087
人の関係性：弱い紐帯（出会い）の有無	088
人の関係性 ロールモデル①：「面白い人」の存在	089
人の関係性 ロールモデル②：「目標、憧れる人」の存在	089
寛容性指標	090
凝集性	091
同調圧力	092
生活領域別満足度	093
現在の格差認識	094
10年後の格差予想	095
地域の希望とその“源泉”との相関	096
地域の希望・モデル仮説と相関係数	098

IV. 人口減でも希望を見出すには

視座と手続き	100
地域の固有性	102
ひとの動き	103
まちの動き	104
社会の動き	105
政治・行政へのスタンス：関心・信頼・評価	106
人の関係性：一般的信頼・頼れる人・弱い紐帯（出会い）	108
人への信頼：ロールモデルの有無	109
寛容性指標	110
凝集性・同調圧力	111
生活領域別満足度	112
現在の格差認識・10年後の格差予想	113
地域へのコミットメント意向	114
挑戦意欲	115
定住意向	116
シビックプライド	117
本章のまとめ	118

調査概要

▶ 調査方法：インターネットリサーチ

- 株式会社クロス・マーケティング保有のパネルモニターに調査実施。

▶ 調査時期

- 2023年5月19日(金)～6月1日(木)

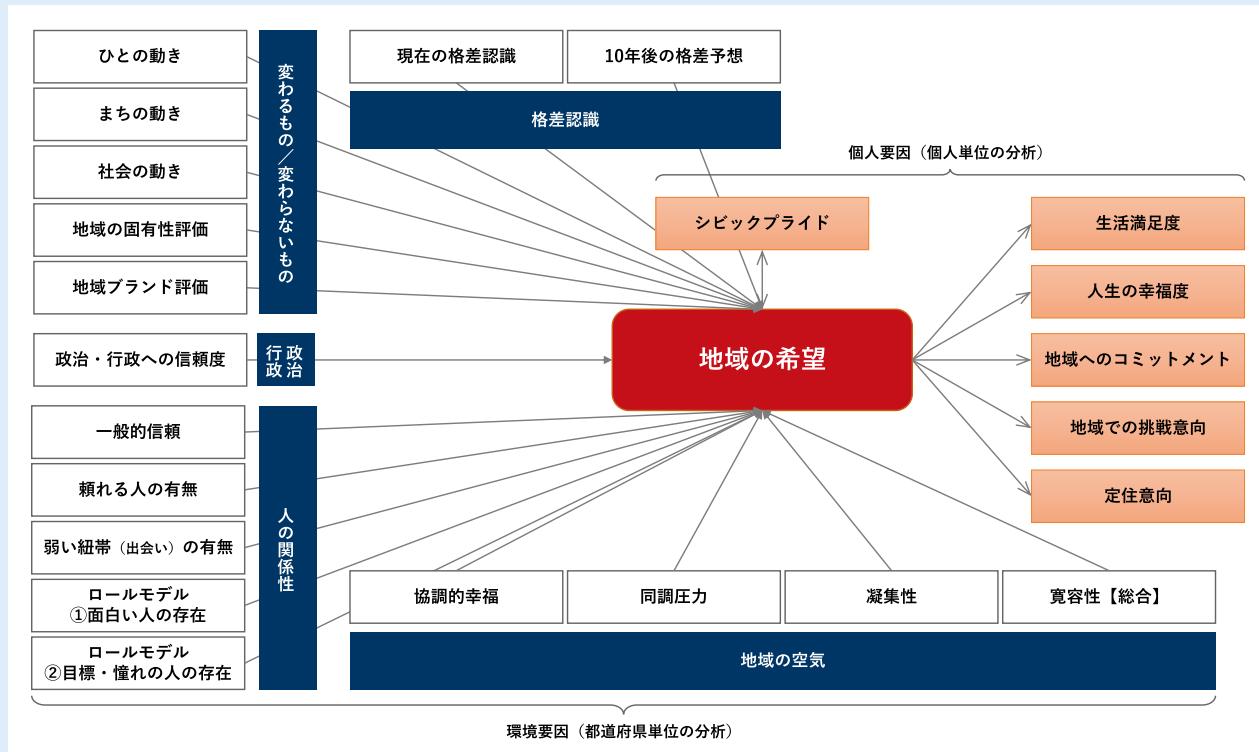
▶ 調査対象

- 各都道府県在住の18歳以上の男女(学生含む)。
- 都道府県別に400サンプルずつ、合計18,800サンプル回収を目標とした。

※ 各都道府県内の性・年代別の割付目標を下記表の通りとした。
※ 各セルで不足する分については同性内のより若い層から補填することとし、各都道府県の回収合計値が400サンプルとなるように設定した。
※ 実際の回収状況は次ページ参照。

	18～34歳	35～49歳	50～64歳	64歳以上	合計
男性	50	50	50	50	200
女性	50	50	50	50	200
合計	100	100	100	100	400

▶ 主要設問の構造



回収状況

● 都道府県・性年代別回収数

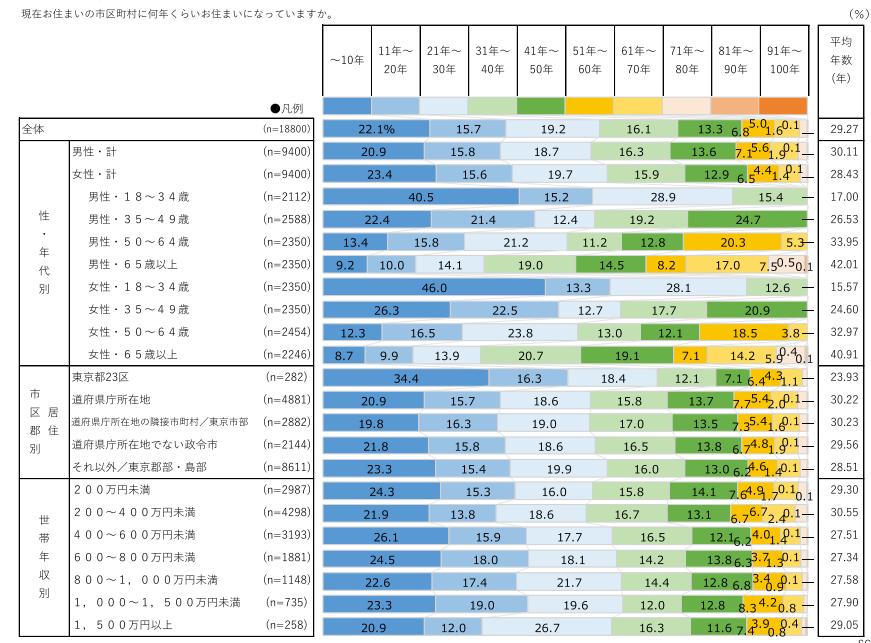
	合計	男性					女性				
		男性・計	18~34歳	35~49歳	50~64歳	65歳以上	女性・計	18~34歳	35~49歳	50~64歳	65歳以上
全国	18,800	9,400	2,112	2,588	2,350	2,350	9,400	2,350	2,350	2,454	2,246
北海道	400	200	50	50	50	50	200	50	50	50	50
青森県	400	200	50	50	50	50	200	50	50	50	50
岩手県	400	200	50	50	50	50	200	50	50	50	50
宮城県	400	200	50	50	50	50	200	50	50	50	50
秋田県	400	200	32	68	50	50	200	50	50	50	50
山形県	400	200	50	50	50	50	200	50	50	54	46
福島県	400	200	50	50	50	50	200	50	50	50	50
茨城県	400	200	50	50	50	50	200	50	50	50	50
栃木県	400	200	50	50	50	50	200	50	50	50	50
群馬県	400	200	50	50	50	50	200	50	50	50	50
埼玉県	400	200	50	50	50	50	200	50	50	50	50
千葉県	400	200	50	50	50	50	200	50	50	50	50
東京都	400	200	50	50	50	50	200	50	50	50	50
神奈川県	400	200	50	50	50	50	200	50	50	50	50
新潟県	400	200	50	50	50	50	200	50	50	50	50
富山県	400	200	44	56	50	50	200	50	50	50	50
石川県	400	200	46	54	50	50	200	50	50	50	50
福井県	400	200	26	74	50	50	200	50	50	65	35
山梨県	400	200	25	75	50	50	200	50	50	50	50
長野県	400	200	50	50	50	50	200	50	50	50	50
岐阜県	400	200	50	50	50	50	200	50	50	50	50
静岡県	400	200	50	50	50	50	200	50	50	50	50
愛知県	400	200	50	50	50	50	200	50	50	50	50
三重県	400	200	50	50	50	50	200	50	50	50	50
滋賀県	400	200	50	50	50	50	200	50	50	50	50
京都府	400	200	50	50	50	50	200	50	50	50	50
大阪府	400	200	50	50	50	50	200	50	50	50	50
兵庫県	400	200	50	50	50	50	200	50	50	50	50
奈良県	400	200	45	55	50	50	200	50	50	50	50
和歌山県	400	200	41	59	50	50	200	50	50	50	50
鳥取県	400	200	24	76	50	50	200	50	50	57	43
島根県	400	200	45	55	50	50	200	50	50	68	32
岡山県	400	200	50	50	50	50	200	50	50	50	50
広島県	400	200	50	50	50	50	200	50	50	50	50
山口県	400	200	48	52	50	50	200	50	50	50	50
徳島県	400	200	21	79	50	50	200	50	50	58	42
香川県	400	200	39	61	50	50	200	50	50	50	50
愛媛県	400	200	50	50	50	50	200	50	50	50	50
高知県	400	200	35	65	50	50	200	50	50	61	39
福岡県	400	200	50	50	50	50	200	50	50	50	50
佐賀県	400	200	30	70	50	50	200	50	50	64	36
長崎県	400	200	46	54	50	50	200	50	50	50	50
熊本県	400	200	46	54	50	50	200	50	50	50	50
大分県	400	200	43	57	50	50	200	50	50	50	50
宮崎県	400	200	27	73	50	50	200	50	50	58	42
鹿児島県	400	200	50	50	50	50	200	50	50	50	50
沖縄県	400	200	49	51	50	50	200	50	50	69	31

回答者プロフィール

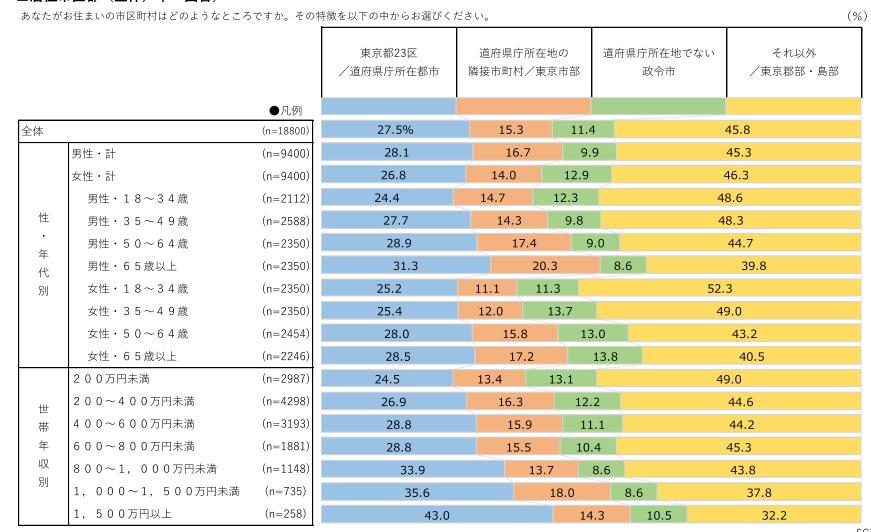
■性・年代 (全体／単一回答、実数回答)



■居住年数 (全体／実数回答)



■居住市郡 (全体／単一回答)



回答者プロフィール

■出身地（全体／単一回答）

あなたが高校を卒業した時（17～18歳ごろ）、どこに住んでいましたか。

		いま住んでいる市区町村	同じ都道府県内の別の市区町村	別の都道府県	海外	(%)
●凡例		49.7%	22.5	27.4	0.4	
全体		(n=18800)				
性 ・ 年 代 別	男性・計	(n=9400)	52.3	19.7	27.7	0.4
	女性・計	(n=9400)	47.1	25.3	27.1	0.4
	男性・18～34歳	(n=2112)	58.6	18.8	22.1	0.5
	男性・35～49歳	(n=2588)	56.2	18.7	24.4	0.7
	男性・50～64歳	(n=2350)	50.1	20.8	29.0	0.2
	男性・65歳以上	(n=2350)	44.4	20.5	35.0	0.1
	女性・18～34歳	(n=2350)	55.7	22.1	21.6	0.6
	女性・35～49歳	(n=2350)	49.5	24.6	25.2	0.7
	女性・50～64歳	(n=2454)	45.2	26.3	28.3	0.2
	女性・65歳以上	(n=2246)	37.7	28.2	33.8	0.3
市区部 ・ 住 別		(n=282)	36.9	22.7	39.7	0.7
世 帯 年 収 別	道府県内所在地	(n=4881)	52.4	20.4	27.1	0.1
	道府県内所在地の隣接市町村／東京都市部	(n=2882)	45.2	25.4	29.2	0.1
	道府県外所在地の政令市	(n=2144)	50.0	24.3	25.2	0.4
	それ以外／東京都部・島部	(n=8611)	50.0	22.2	27.1	0.6
2 0 0 万円未満	2 0 0 ～ 4 0 0 万円未満	(n=2987)	52.5	21.0	25.5	1.0
	4 0 0 ～ 6 0 0 万円未満	(n=4298)	47.8	24.0	27.9	0.2
	6 0 0 ～ 8 0 0 万円未満	(n=1881)	45.5	25.0	29.3	0.2
	8 0 0 ～ 1, 0 0 0 万円未満	(n=1148)	46.3	22.2	31.4	0.1
	1, 0 0 0 ～ 1, 5 0 0 万円未満	(n=735)	44.1	22.9	32.5	0.5
	1, 5 0 0 万円以上	(n=258)	53.9	12.8	32.6	0.8

SC4

■居住エリアの人口増減（全体／単一回答）

あなたがお住まいの市区町村の人口はどのような状態ですか。正確でなくとも、あなたがお感じになっている実感でお答えください。

		人口は大幅に増えている	人口は緩やかに増えている	人口は横ばいである	人口は緩やかに減っている	人口は大幅に減っている	(%)
●凡例		3.4%	16.9	32.4	34.8	12.3	
全体		(n=18800)					
性 ・ 年 代 別	男性・計	(n=9400)	2.9	16.4	31.2	36.4	13.1
	女性・計	(n=9400)	4.0	17.5	33.7	33.2	11.6
	男性・18～34歳	(n=2112)	3.0	15.4	40.1	31.6	9.8
	男性・35～49歳	(n=2588)	2.7	14.9	30.4	37.0	15.1
	男性・50～64歳	(n=2350)	2.8	17.1	28.5	37.6	14.0
	男性・65歳以上	(n=2350)	3.0	18.2	26.8	38.9	13.1
	女性・18～34歳	(n=2350)	4.3	18.3	40.0	27.7	9.8
	女性・35～49歳	(n=2350)	4.3	16.9	34.3	33.1	11.4
	女性・50～64歳	(n=2454)	3.8	17.5	31.3	34.8	12.6
	女性・65歳以上	(n=2246)	3.9	17.4	29.0	37.4	12.3
市区部 ・ 住 別		(n=282)	8.5	38.7	46.5	5.7	0.7
世 帯 年 収 別	道府県内所在地	(n=4881)	3.9	16.7	33.5	38.1	7.8
	道府県内所在地の隣接市町村／東京都市部	(n=2882)	3.6	23.6	33.8	30.4	8.6
	道府県外所在地の政令市	(n=2144)	5.5	20.7	36.2	29.4	8.2
	それ以外／東京都部・島部	(n=8611)	2.5	13.2	30.0	36.8	17.6
2 0 0 万円未満	2 0 0 ～ 4 0 0 万円未満	(n=2987)	4.4	14.3	33.1	32.4	15.8
	4 0 0 ～ 6 0 0 万円未満	(n=4298)	2.9	16.9	31.2	35.9	13.0
	6 0 0 ～ 8 0 0 万円未満	(n=1881)	3.3	18.0	33.4	35.8	9.5
	8 0 0 ～ 1, 0 0 0 万円未満	(n=1148)	3.3	18.4	31.0	36.3	11.0
	1, 0 0 0 ～ 1, 5 0 0 万円未満	(n=735)	3.9	20.4	30.5	34.1	10.8
	1, 5 0 0 万円以上	(n=258)	7.4	20.5	31.4	27.5	13.2

SC5

■職業（全体／単一回答）

あなたの職業はどれにあてはまりますか。

		有社員・計	無社員・計	正社員	パート・アルバイト	嘱託社員	嘱託社員	嘱託社員	嘱託社員	嘱託社員	嘱託社員	(%)	
●凡例		1.6	4.4	29.1	4.4	16.1	4.5	2.3	2.2	14.4	1.7	19.3	
全体		(n=18800)											
性 ・ 年 代 別	有社員・計	(n=9400)	2.7	6.2	38.5	4.9	9.1	6.7	2.9	2.5	0.9	1.5	24.1
	正社員	(n=9400)	0.5	2.6	19.7	4.0	23.0	2.2	1.7	1.9	28.0	1.9	14.5
	パート・アルバイト	(n=9400)											
	嘱託社員	(n=9400)											
	嘱託社員	(n=9400)											
	嘱託社員	(n=9400)											
	嘱託社員	(n=9400)											
	嘱託社員	(n=9400)											
	嘱託社員	(n=9400)											
	嘱託社員	(n=9400)											
市区部 ・ 住 別		(n=282)	3.5	14	40.1	6.4	12.1	2.8	7.1	1.4	10.3	1.8	13.1
世 帯 年 収 別	道府県内所在地	(n=4881)	2.0	5.2	28.6	4.8	14.2	4.1	2.3	2.2	14.6	2.1	19.8
	道府県内所在地の隣接市町村／東京都市部	(n=2882)	2.0	4.4	27.7	5.1	15.5	4.5	2.6	1.7	14.4	1.5	20.5
	道府県外所在地の政令市	(n=2144)	1.6	2.5	29.1	3.6	19.5	4.5	2.0	2.0	17.7	1.5	16.0
	それ以外／東京都部・島部	(n=8611)	1.2	4.5	29.4	4.1	16.6	4.7	2.1	2.5	13.7	1.7	19.5
2 0 0 万円未満	2 0 0 ～ 4 0 0 万円未満	(n=2987)	0.7	0.4	6.7	3.3	22.8	3.9	1.9	3.0	13.7	5.6	37.9
	4 0 0 ～ 6 0 0 万円未満	(n=4298)	0.9	2.3	28.3	6.1	16.3	4.8	2.4	1.7	15.3	0.4	21.5
	6 0 0 ～ 8 0 0 万円未満	(n=1881)	1.3	5.8	38.8	5.0	14.6	5.0	1.5	1.0	15.0	0.5	11.4
	8 0 0 ～ 1, 0 0 0 万円未満	(n=1148)	2.3	13.2	45.5	3.6	11.0	4.4	1.7	1.4	11.1	1.0	5.1
	1, 0 0 0 ～ 1, 5 0 0 万円未満	(n=735)	6.8	11.6	47.9	2.3	7.2	4.4	3.1	1.5	11.0	1.4	2.9
	1, 5 0 0 万円以上	(n=258)	17.1	6.6	34.9	2.3	6.2	6.2	7.4	3.1	9.3	1.9	5.0

SC6

回答者プロフィール

■結婚＆子どもの有無（全体／単一回答）

あなたは結婚されていますか。またお子さんはいらっしゃいますか。

●凡例

		既婚・計		未婚・計		既婚・計	未婚・計
		結婚している・子どもがいる	結婚している・子どもはない	結婚していない・子どもがいる	結婚していない・子どもはない		
性別	男性・計	46.4%	10.6	5.8	33.3	4.0	56.9
	女性・計	46.1	9.1	4.0	36.9	4.0	55.1
	男性・18～34歳	46.7	12.1	7.7	29.7	3.9	58.7
年齢別	男性・35～49歳	15.7	8.8	1.1	67.0	7.3	24.5
	男性・50～64歳	37.8	9.3	3.3	45.7	3.9	47.1
	男性・65歳以上	53.5	10.0	5.1	28.4	2.9	63.6
	女性・18～34歳	75.0	11.7	2.2	54.4	4.2	83.1
	女性・35～49歳	27.4	13.8	7.5	35.7	3.6	39.1
	女性・50～64歳	39.3	14.7	10.9	20.7	3.6	53.1
	女性・65歳以上	50.1	7.7	10.1	7.2	4.3	64.8
市別	東京都23区	70.8	36.2	15.6	3.9	40.1	78.5
区別	道府県府所在地	47.6	11.0	5.8	33.3	2.4	51.8
都別	道府県府所在地の隣接市町村／東京都市部	50.2	10.5	6.5	29.4	3.3	58.6
	道府県府所在地でない政令市	44.5	12.1	7.0	32.0	4.3	60.8
	それ以外／東京都部・島部	45.2	9.8	5.4	34.6	5.0	56.7
世帯年収別	2,000万円未満	25.2	8.0	9.7	49.5	7.5	33.3
	2,000～4,000万円未満	44.4	9.6	7.5	35.9	2.6	54.0
	4,000～6,000万円未満	54.5	12.5	4.8	27.2	1.0	67.0
	6,000～8,000万円未満	58.9	14.0	3.6	22.4	1.1	72.9
	8,000～10,000万円未満	63.6	13.6	3.0	19.3	0.5	77.2
	10,000～15,000万円未満	67.6	11.7	2.9	17.1	0.7	79.3
	15,000万円以上	60.9	12.8	3.5	21.7	1.2	73.6

※全体値より10pt以上高い数値■5pt以上高い数値■/5pt以上低い数値■/10pt以上低い数値■で統括

SC7

■同居の家族形態（全体／単一回答）

あなたはどなたと同居されていますか。

●凡例

		ひとり暮らし		夫婦のみ		夫婦と子ども		ひとり親と子ども		二世帯同居		その他
		ひとり暮らし	夫婦のみ	夫婦のみ	夫婦と子ども	夫婦と子ども	ひとり親と子ども	ひとり親と子ども	二世帯同居	二世帯同居	その他	
性別	男性・計	19.2%	25.6	21.9	3.1	20.8	9.3	8.9	22.7	8.9	8.9	
	女性・計	21.1	24.5	21.6	1.2	22.7	18.9	9.7	14.4	12.5	12.5	
	男性・18～34歳	17.2	26.8	22.2	5.1	18.9	9.7	10.8	29.3	10.8	10.8	
年齢別	男性・35～49歳	29.2	8.4	13.7	0.7	35.5	15.2	14.4	53.8	17.8	17.8	
	男性・50～64歳	20.1	9.2	29.7	0.9	29.3	10.6	19.1	24.1	18.9	18.9	
	男性・65歳以上	21.6	26.4	24.7	1.5	18.9	7.0	14.1	31.8	7.8	7.8	
	女性・18～34歳	14.4	53.8	16.9	1.7	7.8	5.4	19.1	11.1	15.2	15.2	
	女性・35～49歳	19.1	24.1	1.7	28.8	1.7	14.1	14.3	5.4	23.8	10.6	
	女性・50～64歳	16.7	31.8	6.0	16.4	7.6	19.1	33.4	19.9	12.6	7.4	
	女性・65歳以上	19.1	49.0	12.6	6.3	5.5	33.7	25.9	21.6	2.5	9.6	
市別	東京都23区	33.7	25.9	21.6	2.5	9.6	6.7	20.9	28.6	19.1	7.0	
区別	道府県府所在地	20.9	28.6	21.8	2.6	19.1	7.0	17.3	28.1	20.2	8.4	
都別	道府県府所在地の隣接市町村／東京都市部	17.3	22.3	3.7	20.2	8.4	21.6	26.4	21.3	4.2	18.2	
	道府県府所在地でない政令市	17.7	22.1	3.0	23.0	11.3	40.6	17.2	8.9	4.5	19.2	
	それ以外／東京都部・島部	17.7	22.9	3.0	23.0	11.3	25.3	32.3	13.8	3.5	17.8	
世帯年収別	2,000万円未満	40.6	17.2	8.9	4.5	9.6	14.7	28.3	29.3	2.5	18.7	
	2,000～4,000万円未満	25.3	32.3	13.8	3.5	7.3	9.4	25.4	36.6	2.2	19.2	
	4,000～6,000万円未満	14.7	28.3	2.5	18.7	6.5	4.8	22.6	42.2	1.7	19.9	
	6,000～8,000万円未満	9.4	25.4	2.2	19.2	7.2	4.6	24.1	39.3	1.8	22.7	
	8,000～10,000万円未満	4.8	24.1	1.7	19.9	8.8	6.6	23.3	31.8	1.9	26.0	
	10,000～15,000万円未満	4.6	24.1	1.8	22.7	7.5	1.5	16.7	7.9	8.7	10.5	
	15,000万円以上	6.6	23.3	1.9	26.0	10.5						

SC8

■最終学歴（全体／単一回答）

あなたの最終学歴を教えてください。

●凡例

		小中学校		高校		専修・各種学校（専門学校）		短期大学・高等専修学校		大学・大学院・計		大学・大学院・計
		小中学校	高校	高校	専修・各種学校（専門学校）	短期大学・高等専修学校	大学	大学院	その他／答えたくない	大学	大学院	
性別	男性・計	2.8%	33.7	11.5	11.3	34.8	3.7	2.1	38.6	5.6	2.1	49.3
	女性・計	3.1	31.2	9.9	4.4	43.7	1.8	2.2	27.8	5.5	1.4	46.9
	男性・18～34歳	3.3	30.3	11.6	4.1	41.3	5.5	3.8	46.9	6.7	2.5	46.1
年齢別	男性・35～49歳	3.9	29.6	13.8	4.2	39.4	6.7	2.5	49.8	5.5	1.5	47.0
	男性・50～64歳	2.3	31.6	10.0	4.7	44.3	3.7	1.9	36.0	5.1	2.3	31.3
	男性・65歳以上	2.7	33.4	3.9	4.6	49.9	4.7	0.9	36.0	4.7	0.9	54.6
	女性・18～34歳	3.3	29.3	15.4	12.2	34.0	2.0	3.7	36.0	5.5	1.5	31.3
	女性・35～49歳	2.7	30.2	14.9	18.6	28.8	2.6	2.3	31.3	5.1	2.3	46.9
	女性・50～64歳	1.4	39.2	13.0	22.2	21.3	1.5	1.4	22.8	3.6	0.7	20.9
	女性・65歳以上	3.0	46.1	8.6	20.2	19.7	1.2	1.2	20.9	4.6	1.1	61.0
市別	東京都23区	1.4	17.7	10.3	8.5	56.4	5.5	1.4	47.7	5.5	1.4	47.7
区別	道府県府所在地	1.8	28.1	10.0	11.1	42.2	4.5	1.5	29.2	4.5	1.5	41.8
都別	道府県府所在地の隣接市町村／東京都市部	2.5	32.2	10.0	12.0	37.3	3.7	1.5	29.2	3.7	1.5	33.9
	道府県府所在地でない政令市	3.7	39.9	12.5	12.3	27.7	3.0	2.8	33.9	3.0	2.8	33.9
	それ以外／東京都部・島部	3.3	36.3	12.6	11.1	30.9	3.0	2.8	33.9	3.0	2.8	33.9
世帯年収別	2,000万円未満	6.1	41.3	11.4	11.4	24.8	1.6	3.3	26.4	5.0	1.4	46.9
	2,000～4,000万円未満	3.2	39.3	11.8	11.1	31.8	2.3	0.7	34.0	3.9	0.6	43.3
	4,000～6,000万円未満	1.5	30.6	12.0	12.1	39.3	3.9	0.6	46.9	5.1	0.4	46.9
	6,000～8,000万円未満	1.3	28.5	12.3	10.6	41.8	5.1	0.4	46.9	6.9	0.7	55.9
	8,000～10,000万円未満	0.8	22.6	9.1	10.8	49.0	6.9	0.1	55.9	11.3	0.1	65.9
	10,000～15,000万円未満	0.7	16.7	7.9	8.7	54.6	5.5	0.1	69.0	15.5	1.9	69.0
	15,000万円以上	1.9	12.4	6.2	8.5	53.5	1.5	0.1	69.0			

※全体値より10pt以上高い数値■5pt以上高い数値■/5pt以上低い数値■/10pt以上低い数値■で統括

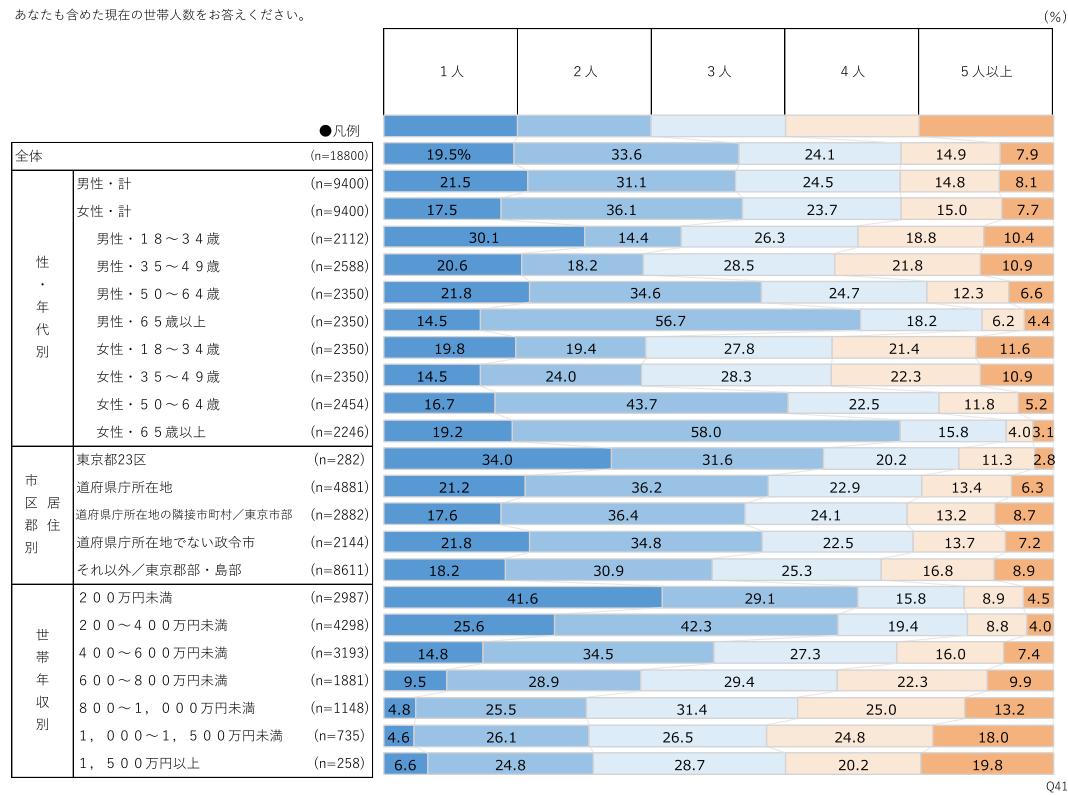
Q40

※ 高齢者層の最終学歴が実際よりも高くなっている点に注意のうえ、本レポートをお読みいただきたい。

回答者プロフィール

■世帯人数（全体／実数回答）

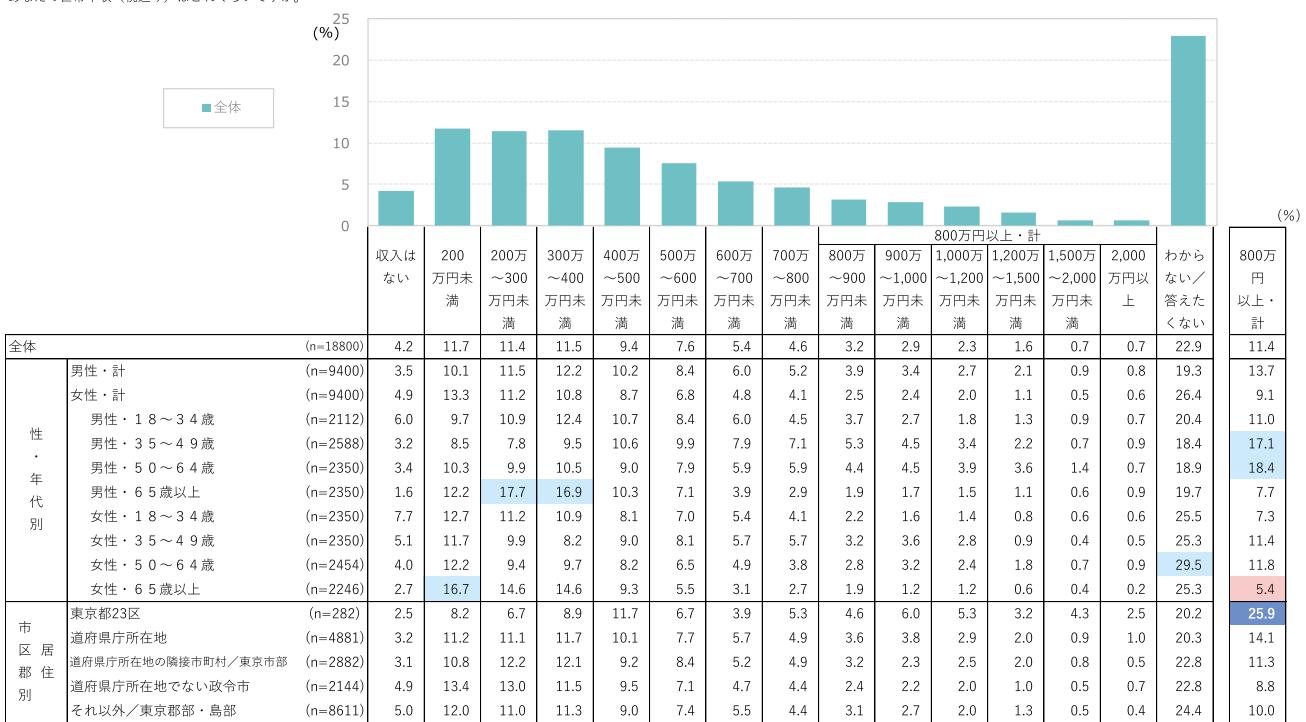
あなたも含めた現在の世帯人数をお答えください。



Q41

■世帯年収（全体／単一回答）

あなたの世帯年収（税込み）はどれくらいですか。



Q42

※全体値より10pt以上高い数値■／5pt以上高い数値■／5pt以上低い数値■／10pt以上低い数値■で網掛け

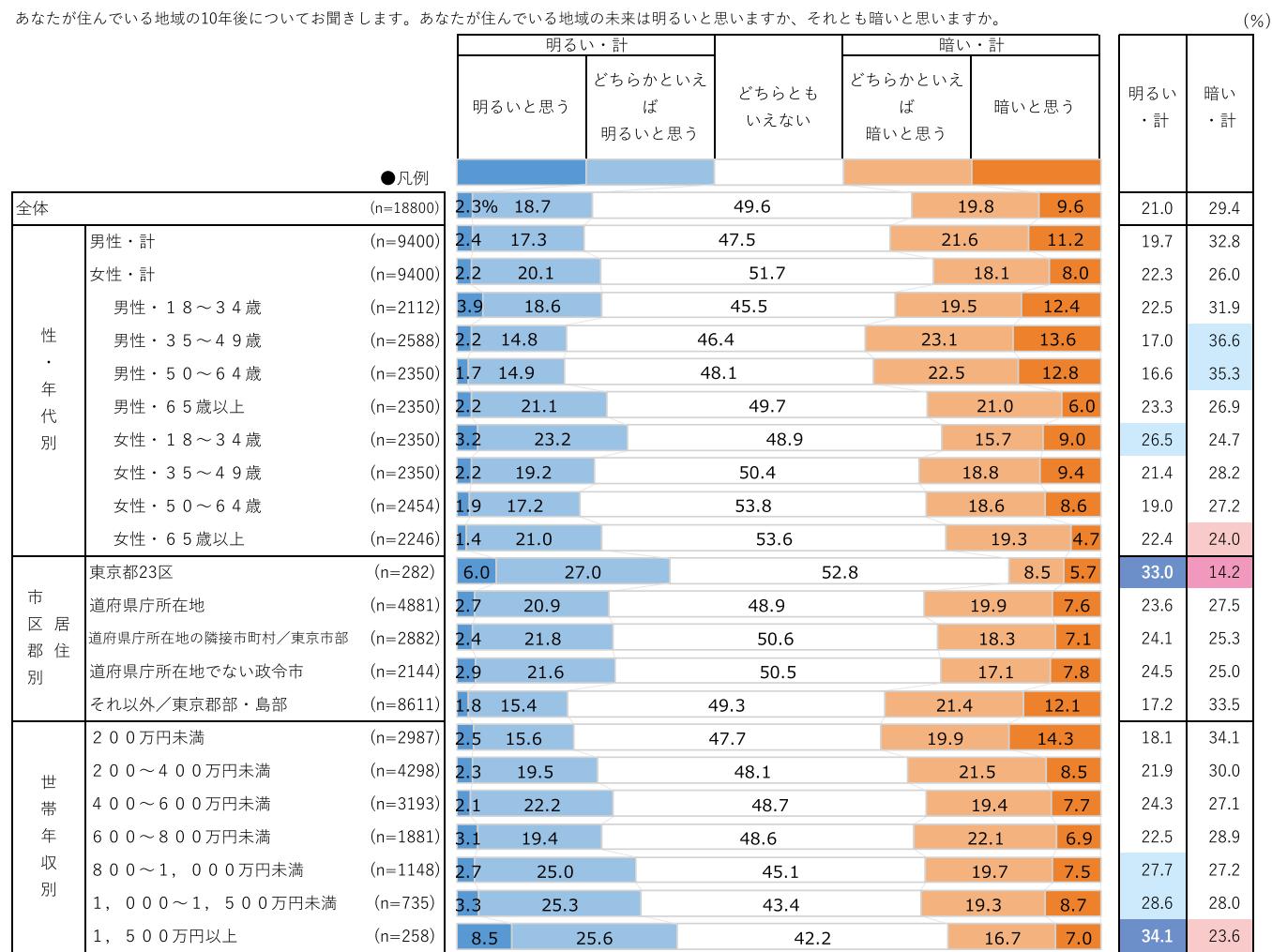
地域の将来の直観的な見通し

▶ 地域の未来を「明るい」と評価するのは、若年層と高齢層。東京都23区居住者と世帯年収が高い層の比率も高い

- ・「住んでいる地域の未来」について、明るいと思うか暗いと思うかを聞いた。
- 住んでいる地域の未来について、「明るい・計」は21%、「暗い・計」は29%。
- 性・年代別には、女性の方が若干ポジティブにとらえているが、男女とも35～49歳、50～64歳のポジティブな評価が低く、若年層と高齢層の評価が高い。「明るい・計」が最も高いのは「女性・18～34歳」である。
- 居住市区郡別では、「東京都23区」の「明るい・計」が最も高く、「それ以外／東京都部・島部」が最も低くなっている。
- 世帯年収別にみると、おおよそ年収が高くなるにつれて「明るい・計」の比率が高くなる傾向がみられる。

■ 地域の将来の直観的見通し（全体／単一回答）

あなたが住んでいる地域の10年後についてお聞きします。あなたが住んでいる地域の未来は明るいと思いますか、それとも暗いと思いますか。



※全体値より10pt以上高い数値■／5pt以上高い数値■／5pt以上低い数値■／10t以上低い数値■で網掛け

Q26

地域の未来を拓けるか

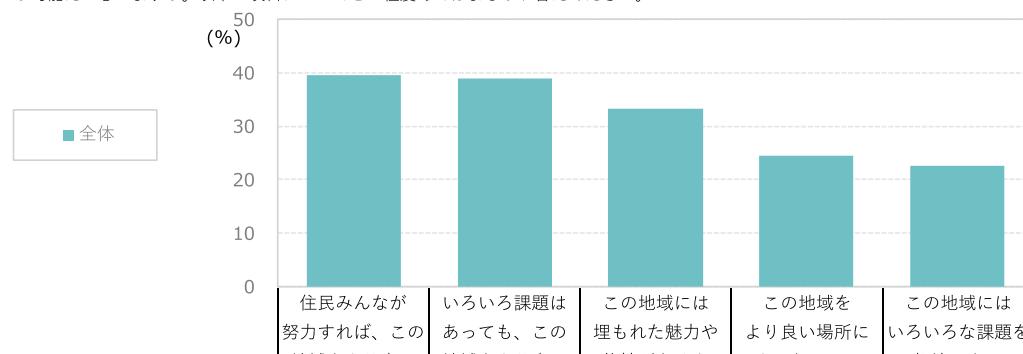
▶ 地域の展望を有用に感じているのは、高齢層。道府県庁所在地居住者と世帯年収が高い層の比率も高い

- ・「住んでいる地域の未来への展望」について、有用感を聞いた。
- 住んでいる地域の展望（有用感）について、「住民みんなが努力すれば、この地域をより良い場所にすることができる」が40%と最も高く、「いろいろ課題はあっても、この地域をより良い場所にするための方法はある」も39%と約4割で続く。
- 性・年代別には、男女とも高齢層で「住民みんなが努力すれば、この地域をより良い場所にすることができる」「いろいろ課題はあっても、この地域をより良い場所にするための方法はある」が高い。男性・35～49歳、50～64歳は他の層に比べて有用感が若干低い。
- 居住市区別では「道府県庁所在地」で「いろいろ課題はあっても、この地域をより良い場所にするための方法はある」「この地域には埋もれた魅力や可能性がたくさんある」が他の層に比べて高い。
- 世帯年収別にみると、年収が高い層は全般的に比率が高くなっている。

■地域の展望（有用感）／そう思う・計（全体／各単一回答）

現在、あなたが住んでいる地域にもいろいろな課題があると思いますが、

地域の未来を良くすることが可能だと思いますか。以下の項目についてどの程度あてはまるかお答えください。



全体		(n=18800)	39.5	38.9	33.3	24.4	22.6
性 年 代 別	男性・計	(n=9400)	37.7	37.1	32.1	24.3	21.1
	女性・計	(n=9400)	41.4	40.6	34.5	24.5	24.2
	男性・18～34歳	(n=2112)	35.5	37.9	34.7	27.7	25.8
	男性・35～49歳	(n=2588)	33.0	33.3	31.0	23.5	20.5
	男性・50～64歳	(n=2350)	35.0	33.6	29.1	20.7	17.5
	男性・65歳以上	(n=2350)	47.4	43.9	34.1	25.6	21.2
	女性・18～34歳	(n=2350)	37.6	39.5	36.0	26.8	25.6
	女性・35～49歳	(n=2350)	37.2	37.3	32.5	23.2	23.0
	女性・50～64歳	(n=2454)	41.0	38.6	32.8	23.1	22.6
	女性・65歳以上	(n=2246)	50.1	47.5	37.0	25.0	25.6
市 区 居 郡 住 別	東京都23区	(n=282)	39.4	36.9	33.0	26.6	27.3
	道府県庁所在地	(n=4881)	44.3	44.3	39.0	27.2	26.5
	道府県庁所在地の隣接市町村／東京都市部	(n=2882)	42.6	41.3	33.9	25.0	24.3
	道府県庁所在地でない政令市	(n=2144)	38.2	37.3	32.0	25.5	24.2
	それ以外／東京都部・島部	(n=8611)	36.2	35.4	30.3	22.2	19.3
世 帯 年 収 別	200万円未満	(n=2987)	34.4	34.2	28.8	20.6	19.7
	200～400万円未満	(n=4298)	42.4	41.5	35.2	24.0	22.8
	400～600万円未満	(n=3193)	43.5	44.2	36.5	27.5	25.2
	600～800万円未満	(n=1881)	43.5	41.3	37.1	28.8	26.3
	800～1,000万円未満	(n=1148)	43.6	40.5	38.4	31.8	27.2
	1,000～1,500万円未満	(n=735)	50.6	49.5	42.9	36.1	33.1
	1,500万円以上	(n=258)	44.2	47.7	47.7	38.0	32.9

※全体値より10pt以上高い数値■／5pt以上高い数値■／5pt以上低い数値■／10pt以上低い数値■で網掛け

※全体値の降順ソート

Q24

地域の課題に対処できるか

▶ 課題を「対処可能だと思う」と評価するのは、若年層と高齢層。

東京都23区居住者、道府県庁所在地居住者と世帯年収が高い層の比率も高い

- ・「住んでいる地域の課題」について、対処可能性を聞いた。

- 課題の対処可能性について、「ITなどテクノロジーを活用して地域の暮らしを便利にできる」が27%と最も高い。「若者のUターンや移住者を増やすことができる」が23%、「この地域の人口減少は歯止めがかけられる」が22%、「地域の経済を活性化させ、安心して働く雇用環境が作れる」が21%と、人口と経済・雇用に関する課題が僅差で続いている。
- 性・年代別には、男女とも若年層と高齢層は中年層に比べて若干高く、地域の課題についてポジティブにとらえている。
- 居住市区別では「東京都23区」で「この地域の人口減少は歯止めがかけられる」「地域の経済を活性化させ、安心して働く雇用環境が作れる」、「道府県庁所在地」で「ITなどテクノロジーを活用して地域の暮らしを便利にできる」が他の層に比べて高い。
- 世帯年収別にみると、年収が高い層は全般的に高くなっている。

■課題の対処可能性／そう思う・計（全体／各単一回答）

以下のような地域の課題について、あなたが住んでいる地域は対処が可能だと思いますか。



※全体値より10pt以上高い数値 ■/5pt以上高い数値 ▲/5pt以下低い数値 △/10pt以上低い数値 ■/網掛け

※全体値の降順ソート

Q25

地域の将来の生活は満足できそうか

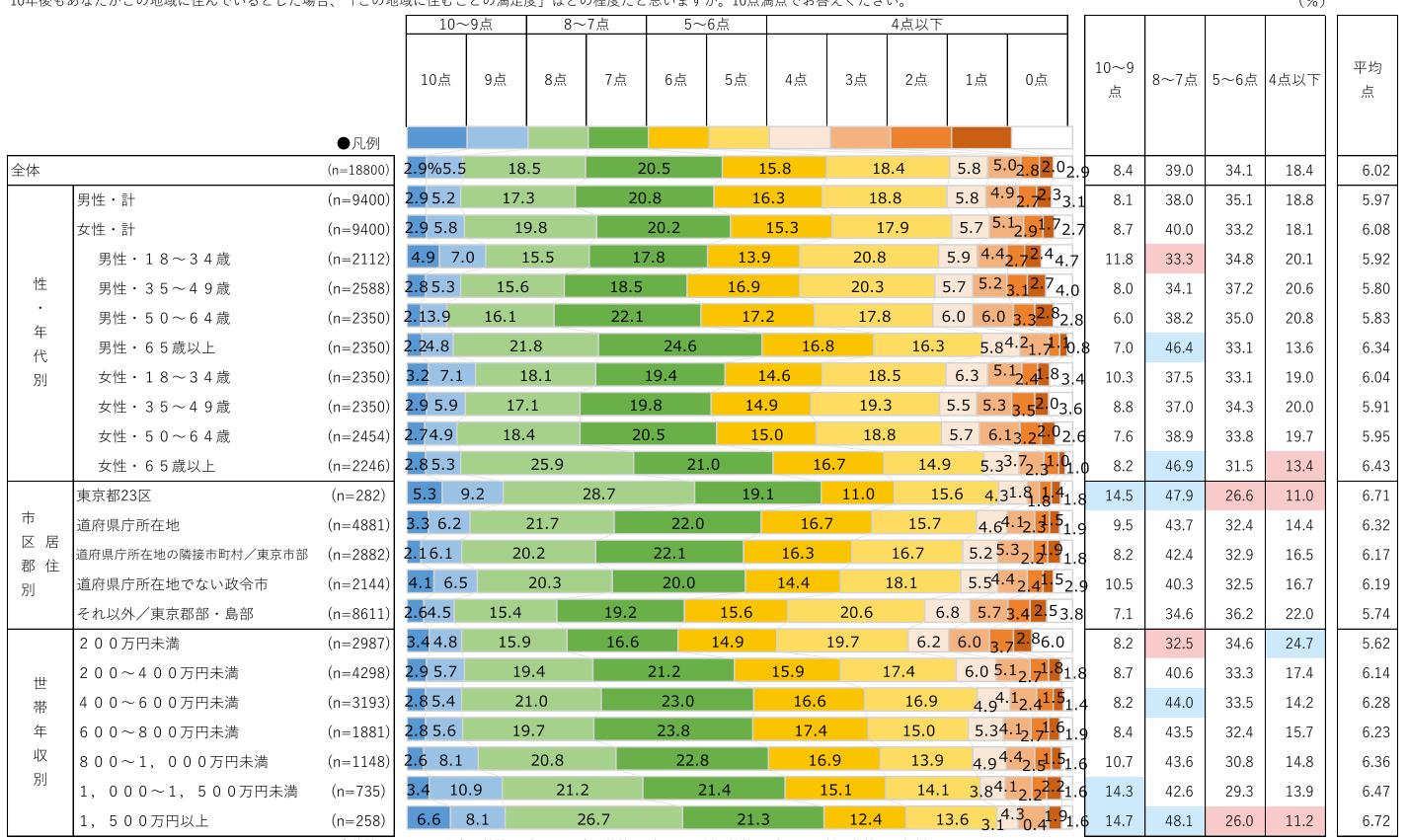
▶ 地域の将来の生活の満足度は、若年層と高齢層の平均点が高い。

東京都23区居住者と世帯年収が高い層の平均点も高い

- 「10年後の地域の満足度」について、0点～10点で聞いた。
- 住んでいる地域の満足度【10年後予測】について、「10～9点」は8%、「8～7点」は39%、「5～6点」は34%、「4点以下」が18%。平均点は6.02点となっている。
- 性・年代別には女性の方が若干ポジティブにとらえているが、男女とも35～49歳、50～64歳の平均点が低く、若年層と高齢層の平均点が高い。平均点が最も高いのは「女性・65歳以上」である。
- 居住市区別では「東京都23区」の平均点が最も高く、「それ以外／東京都部・島部」が最も低くなっている。
- 世帯年収別にみると、おおよそ年収が高くなるにつれて平均点が高くなる傾向がみられる。

■地域の満足度【10年後予測】（全体／単一回答）

10年後もあなたがこの地域に住んでいるとした場合、「この地域に住むことの満足度」はどの程度だと思いますか。10点満点でお答えください。



※全体値より10pt以上高い数値 ■/5pt以上高い数値 ▲/5pt以上低い数値 △/10pt以上低い数値 ■/網掛け

Q27

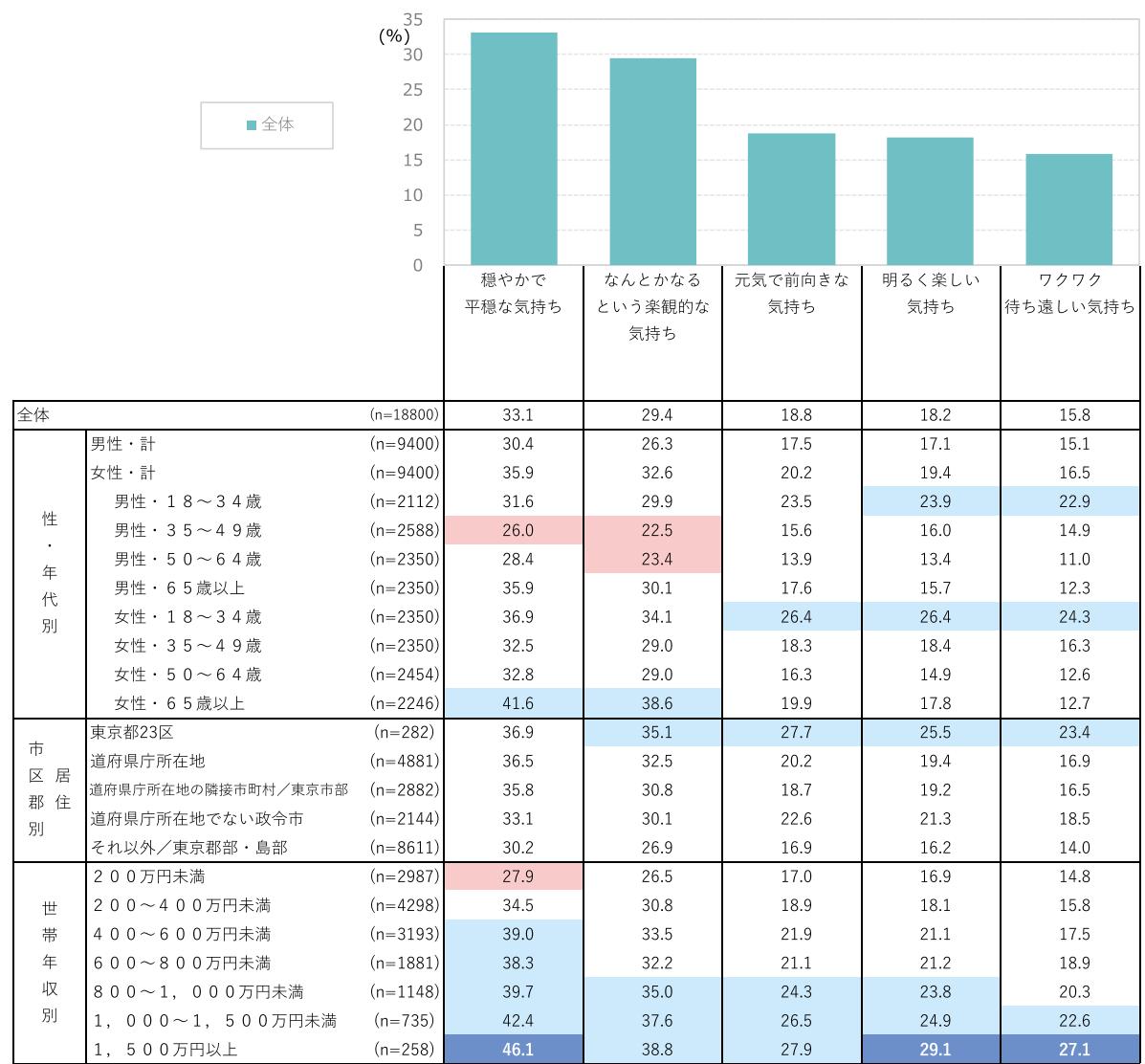
地域の将来を考えることは楽しいか

▶ 地域の将来について、女性高齢者は「穏やかで平穏」「楽観的」な気持ち。若年層は「元気で前向き」「明るく楽しい」「ワクワク待ち遠しい」気持ち。東京都23区居住者と世帯年収が高い層もポジティブな感情の比率が高い

- ・「地域の10年後の未来」を想像するときの感情について聞いた。
- 地域の将来に対する感情について、「穏やかで平穏な気持ち」が33%、「なんとかなるという楽観的な気持ち」が29%と、平穏で楽観的な感情が上位。特にポジティブな「元気で前向きな気持ち」「明るく楽しい気持ち」「ワクワク待ち遠しい気持ち」はそれぞれ1割台後半となっている。
- 性・年代別には、女性の方が全般的に高い。「穏やかで平穏な気持ち」「なんとかなるという楽観的な気持ち」は「女性・65歳以上」で高く、「元気で前向きな気持ち」「明るく楽しい気持ち」「ワクワク待ち遠しい気持ち」は男女とも若年層で高くなっている。
- 居住市区郡別では「東京都23区」で全般的に他の層に比べて高い。
- 世帯年収別にみると、年収が高い層は全般的に高くなっている。年収が高くなるにつれて「穏やかで平穏な気持ち」の比率が高くなる傾向がみられる。

■地域の希望：感情／感じる・計（全体／各单一回答）

あなたが住んでいる地域の10年後の未来を想像するとき、あなたはどういう気持ちになりますか。



※全体値より10pt以上高い数値 ■／5pt以上高い数値 □／5pt以上低い数値 ■／10pt以上低い数値 ■で網掛け

※全体値の降順ソート

Q28

地域の未来の大きな方向感

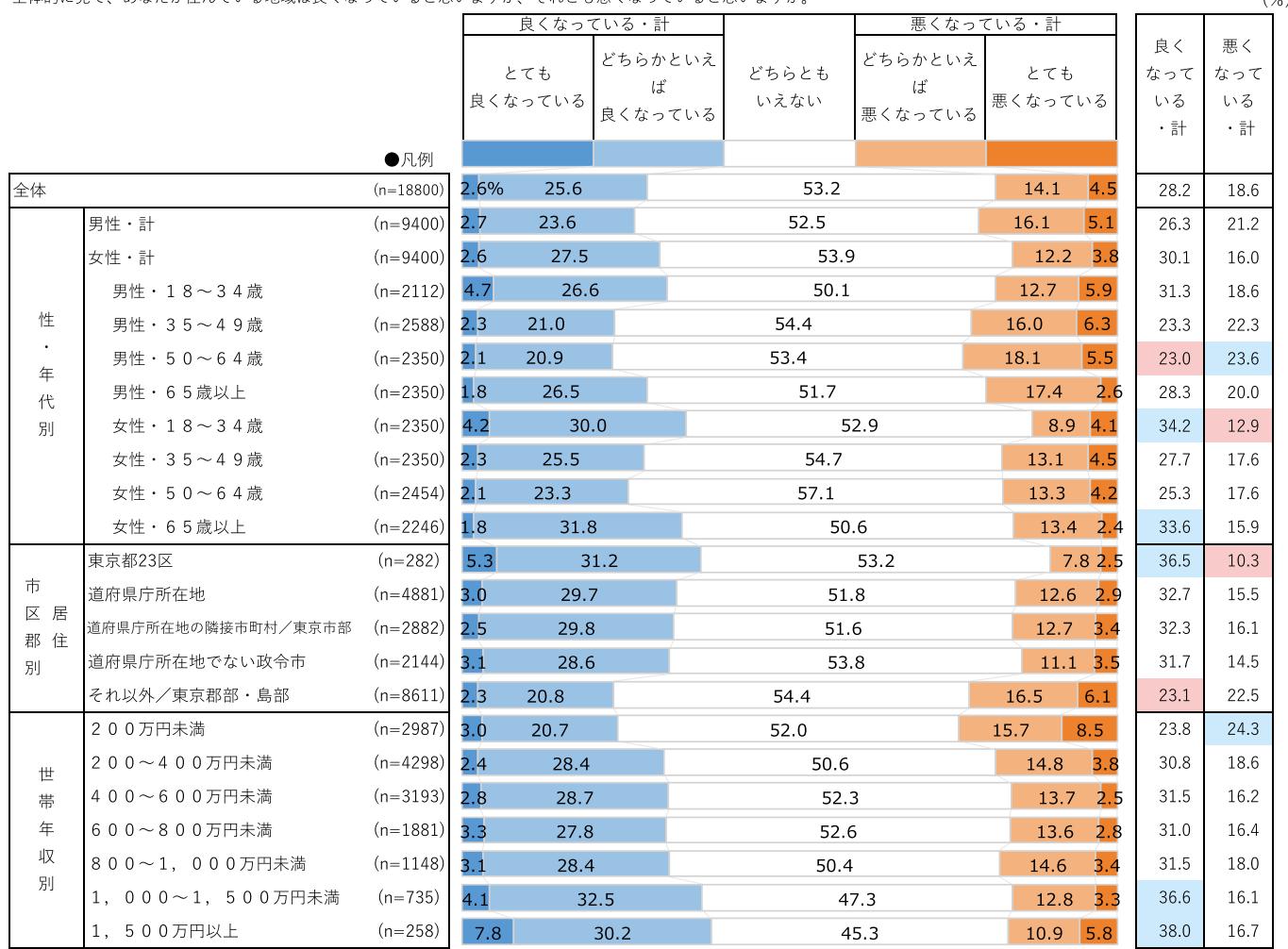
▶ 地域の方向感を「良くなっている」と評価するのは、若年層と高齢層。

東京都23区居住者と世帯年収が高い層の比率も高い

- ・「住んでいる地域」について、良くなっていると思うか悪くなっていると思うかを聞いた。
- 住んでいる地域の方向感について、「良くなっている・計」は28%、「悪くなっている・計」は19%。
- 男女別には女性の方が若干ポジティブにとらえているが、男女とも35~49歳、50~64歳のポジティブな評価が低く、若年層と高齢層の評価が高い。「良くなっている・計」が最も高いのは「女性・18~34歳」である。
- 居住市区別では「東京都23区」の「良くなっている・計」が最も高く、「それ以外／東京都部・島部」が最も低くなっている。
- 世帯年収別にみると、おおよそ年収が高くなるにつれて「良くなっている・計」の比率が高くなる傾向がみられる。

■地域の方向感評価（全体／單一回答）

全体的に見て、あなたが住んでいる地域は良くなっていると思いますか、それとも悪くなっていると思いますか。



※全体値より10pt以上高い数値 ■ / 5pt以上高い数値 ▲ / 5pt以上低い数値 ▲ / 10pt以上低い数値 ■ で網掛け

Q6

地域の希望の総合指標

▶ 総合指標化の手続き

- 地域の将来の直観的な見通し(明るいか暗いか)、地域の展望(地域を良くすることは可能か)など、地域の希望に関する複数のデータをみてきた。
- ここではそれらをひとつにまとめ、『地域の希望』として総合指標化する。
- 具体的には以下の手続きをとる。

I. 以下の4問のデータを用いる。

- ① 地域の将来の直観的な見通し(明るいか暗いか) 1項目
- ② 地域の展望(地域を良くすることは可能か) 5項目
- ③ 課題の対処可能性(地域の課題に対処可能か) 5項目
- ④ 地域の希望:感情(10年後の地域を考えた時のポジティブな気持ち) 5項目

II. 上記①～④(いずれも5段階評価)について、それぞれ加重平均値を求める。

選択肢 1 → 5点、選択肢 2 → 4点、選択肢 3 → 3点、選択肢 4 → 2点、選択肢 5 → 1点の通り傾斜配分する。

※選択肢は若い番号ほどポジティブな意味合いを持たせている。

III. それぞれの設問ごとに加重平均値を求める。

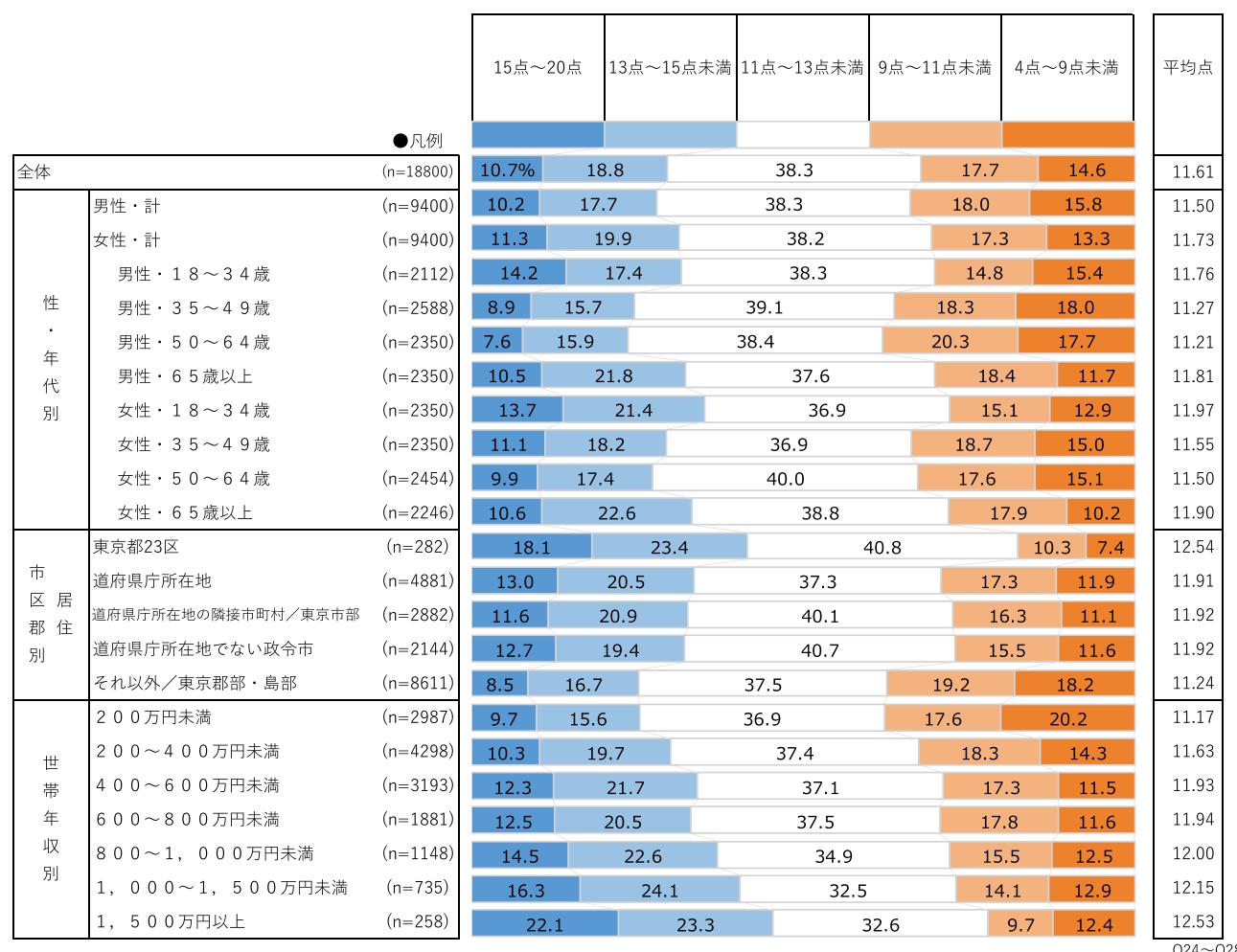
IV. それぞれの設問の加重平均値を合算し、『地域の希望』総合指標のスコアとする。

★この指標を、「地域の希望【総合指標】」と呼ぶ。

▶ 地域の希望【総合指標】の分布

- 性別では男性より女性のスコアが高いが、どちらも18～34歳の若年層と65歳以上の高齢層の平均点が高く、いわゆるUカーブを示している。
- 世帯年収別が高くなるほど総合指標が高くなる傾向にある。

■ 地方の希望の総合指標



① 地域の希望と個人の幸福度

- ▶ 本章の目的は、地域の希望が高いことの“効果”を見出すことである。
- ▶ その際、希望の高い都道府県ベースの分析ではなく、個人ベースの分析を行う。
個々の行動や意識がどのように異なるかを分析するため、個人が地域の希望をどう感じているかがカギになるためである。
- ▶ 本章では、以下の3セグメントを設定し、その差異を中心にみていく。
 - 希望[高]：地域の希望【総合指標】が13点よりも高く20点以下である個人
 - 希望[中]：地域の希望【総合指標】が10点よりも高く13点以下である個人
 - 希望[低]：地域の希望【総合指標】が10点以下である個人

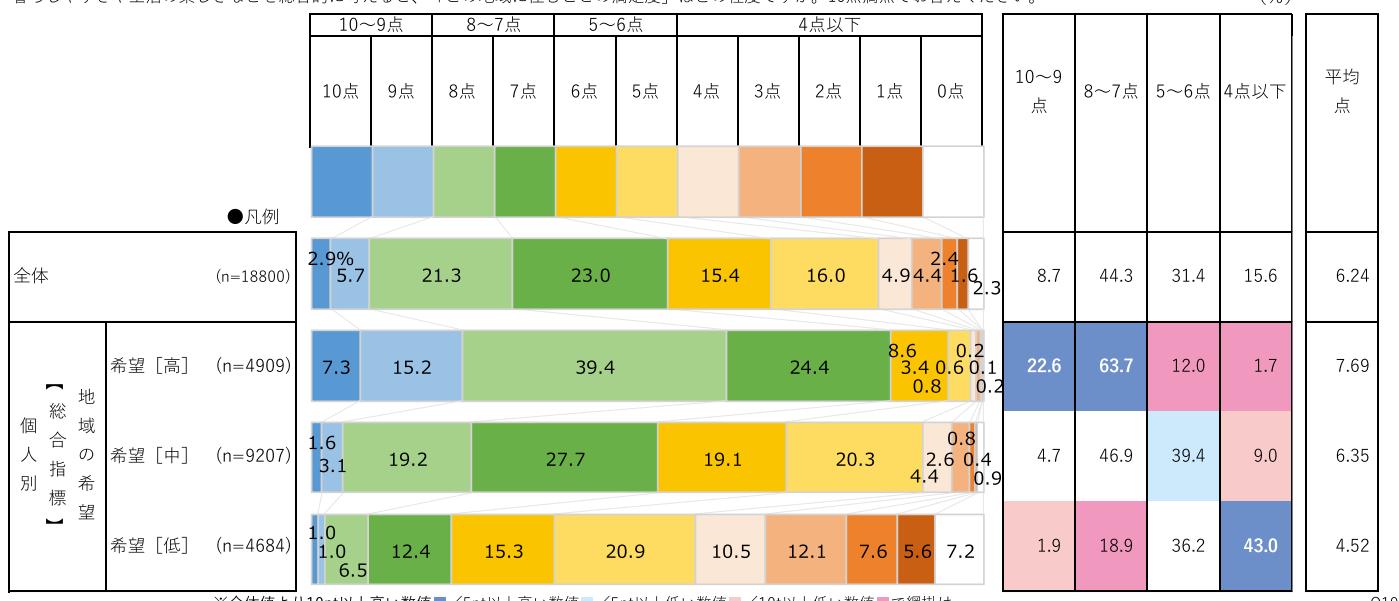
この地域に住むことの満足度

- ▶ この地域に住むことの満足度【現状】は、平均6.24点。地域の希望が高いほど満足度が高く、高い層と低い層とでは平均に3点以上の差
 - ・「この地域に住むことの満足度」について、0点～10点で聞いた。
- この地域に住むことの満足度【現状】について、「10～9点」は9%、「8～7点」は44%、「5～6点」は31%、「4点以下」が16%。平均点は6.24点となっている。
- 総合指標別には、地域の希望が高くなるにつれて満足度が高くなる傾向がみられる。高い層では「10～9点」「8～7点」が8割半ばを占めているのに対し、低い層では「5～6点」「4点以下」が約8割を占めている。平均点についても高い層と低い層とでは3.00点以上満足度に差があることがわかる。

■ 地域の評価【現状】（全体／単一回答）

暮らしやすさや生活の楽しさなどを総合的に考えると、「この地域に住むことの満足度」はどの程度ですか。10点満点でお答えください。

(%)



Q19

生活満足度の詳細

▶ 生活満足度について、最も高い項目は「住居」。「余暇生活」「友人や親族との関係」も僅差で続いている。

地域の希望が高いほど生活満足度も高い

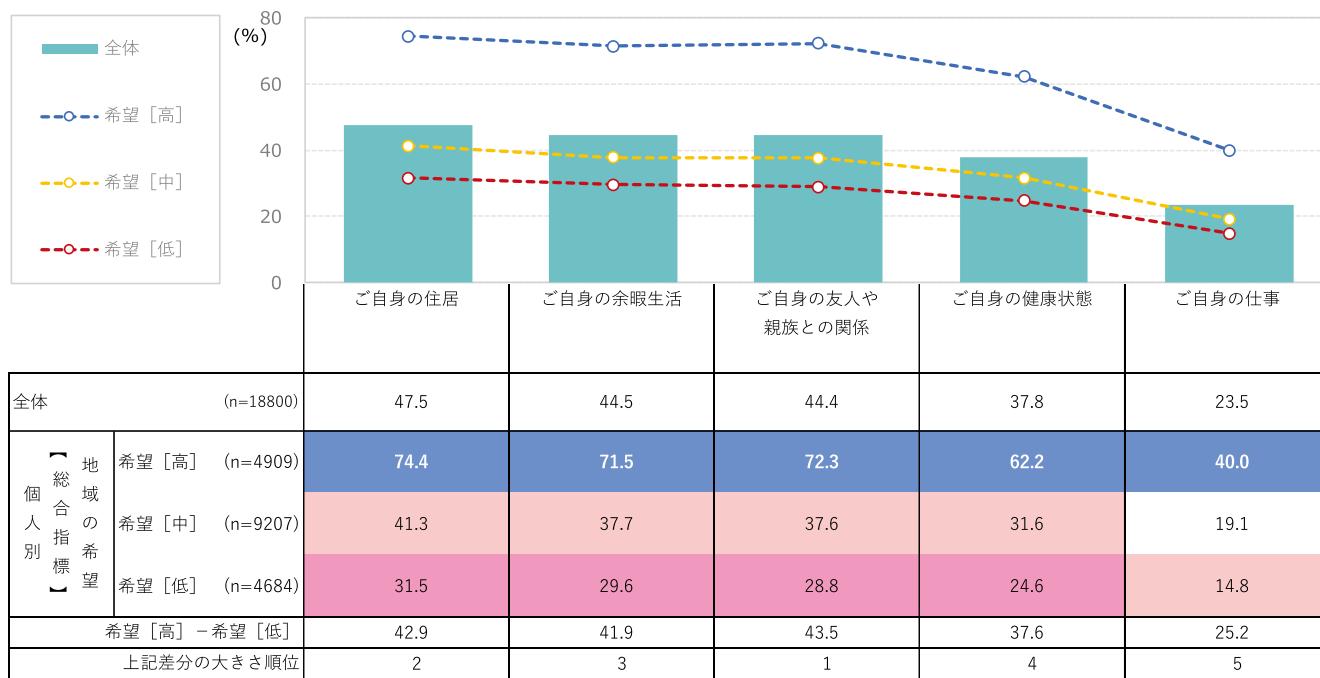
- ・「生活満足度」について聞いた。

● 生活満足度について、「ご自身の住居」が48%と最も高い。次いで「ご自身の余暇生活」が45%、「ご自身の友人や親族との関係」が44%と続いている。

● 総合指標別には、地域の希望が高いほど生活満足度が高い傾向がみられる。特に地域の希望が高い層では「ご自身の住居」「ご自身の余暇生活」「ご自身の友人や親族との関係」の比率が他の層に比べて高い。

■生活満足度／満足・計（全体／各單一回答）

以下にあげる、あなたの生活について、あなたはどの程度満足していますか。



※全体値の降順ソート

Q35

人生の幸福度【現在】

▶ 人生の幸福度【現在】は、平均 5.84 点。地域の希望が高いほど幸福度が高く、高い層と低い層とでは平均で 2.5 点以上の差

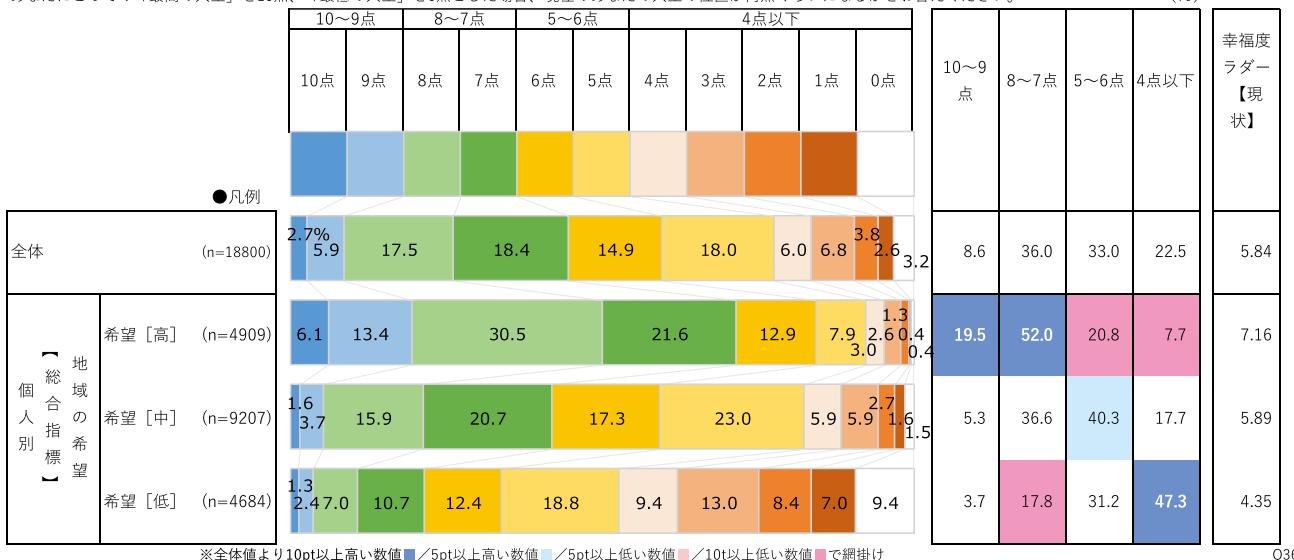
- ・「人生の幸福度」について、0点～10点で聞いた。
- 人生の幸福度【現在】について、「10～9点」は9%、「8～7点」は36%、「5～6点」は33%、「4点以下」が23%。平均点は5.84点となっている。
- 総合指標別には、地域の希望が高くなるにつれて幸福度が高くなる傾向がみられる。高い層では「10～9点」「8～7点」が7割以上を占めているのに対し、低い層では「5～6点」「4点以下」が8割弱を占めている。平均点についても高い層と低い層とでは2.5点以上幸福度に差があることがわかる。

■人生の幸福度【現在】（全体／單一回答）

考える最高の人生と最低の人生があるとして、あなたの人生は現在どの位置にありますか。

あなたにとっての「最高の人生」を10点、「最低の人生」を0点とした場合、現在のあなたの人生の位置が何点くらいになるかをお答えください。

（%）



人生の幸福度【将来】

▶ 人生の幸福度【将来】は、「良くなっている・計」「悪くなっている・計」とともに約3割。

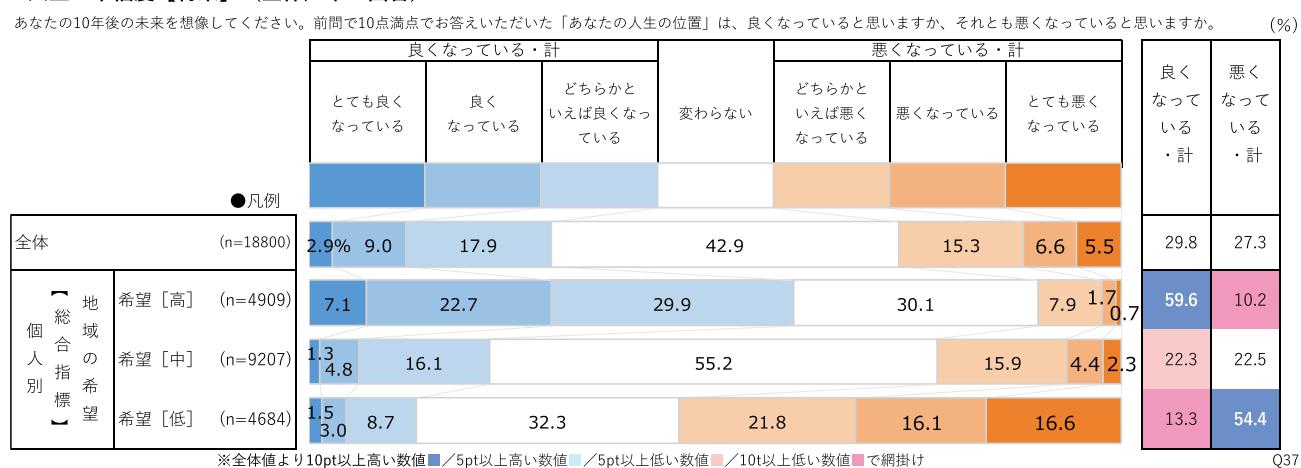
地域の希望が高いほど将来の幸福度をポジティブにとらえている傾向

・10年後の未来の「人生の幸福度」について、良くなっているか悪くなっているかを聞いた。

● 人生の幸福度【将来】について、「良くなっている・計」は30%、「悪くなっている・計」は27%。

● 総合指標別には、地域の希望が高いほど「良くなっている・計」が高くなり、「悪くなっている・計」が低くなっている。地域の希望が中程度の層では「変わらない」が半数以上を占めている。

■人生の幸福度【将来】（全体／單一回答）



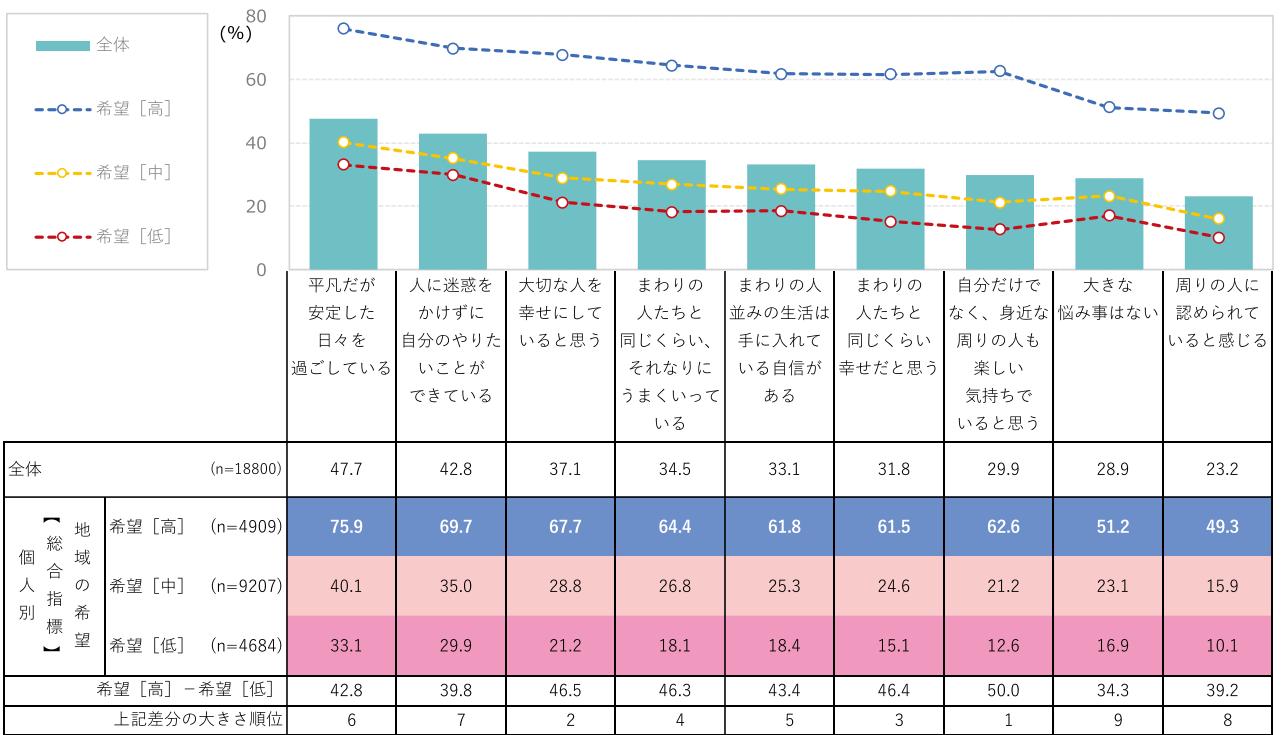
協調的幸福

▶ 地域の希望が高いほど協調的幸福も高い

- 「協調的幸福」について聞いた。
 - 協調的幸福感尺度は、京都大学教授の内田由紀子氏が中心となって開発した幸福度の測定指標のひとつである。従来の幸福度やウェルビーイングの測定指標が、個人的達成・成功や獲得に基づく幸福感のみを取り扱っていることを批判的に検討し、他者との調和的な幸せや、他者を幸せにしているかどうかを測定すべく開発された。
 - 具体的には、下記グラフ・表に記載した9つの選択肢によって測定、各項目の総合計で数値化される。先行研究において、総合的な幸福感の尺度と協調的幸福感とが相関する程度は、アジア>欧米であり、さらに日本においても地方部>都市部である、などの知見が得られている。
- 総合指標別には、地域の希望が高いほど協調的幸福も高い。希望が高い層と、中程度の層および低層の比率差は極めて大きい。
- 特に「自分だけでなく、身近な周りの人も楽しい気持ちでいると思う」は、希望【高】と希望【低】とで50ポイントの開きがある。

■協調的幸福／あてはまる・計（全体／各単一回答）

あなたの現状は、以下にあげることについてどの程度あてはまりますか。



※全体値より10pt以上高い数値■/5pt以上高い数値■/5pt以上低い数値■/10pt以上低い数値■で網掛け

Q38

利己的空氣・利他的空氣

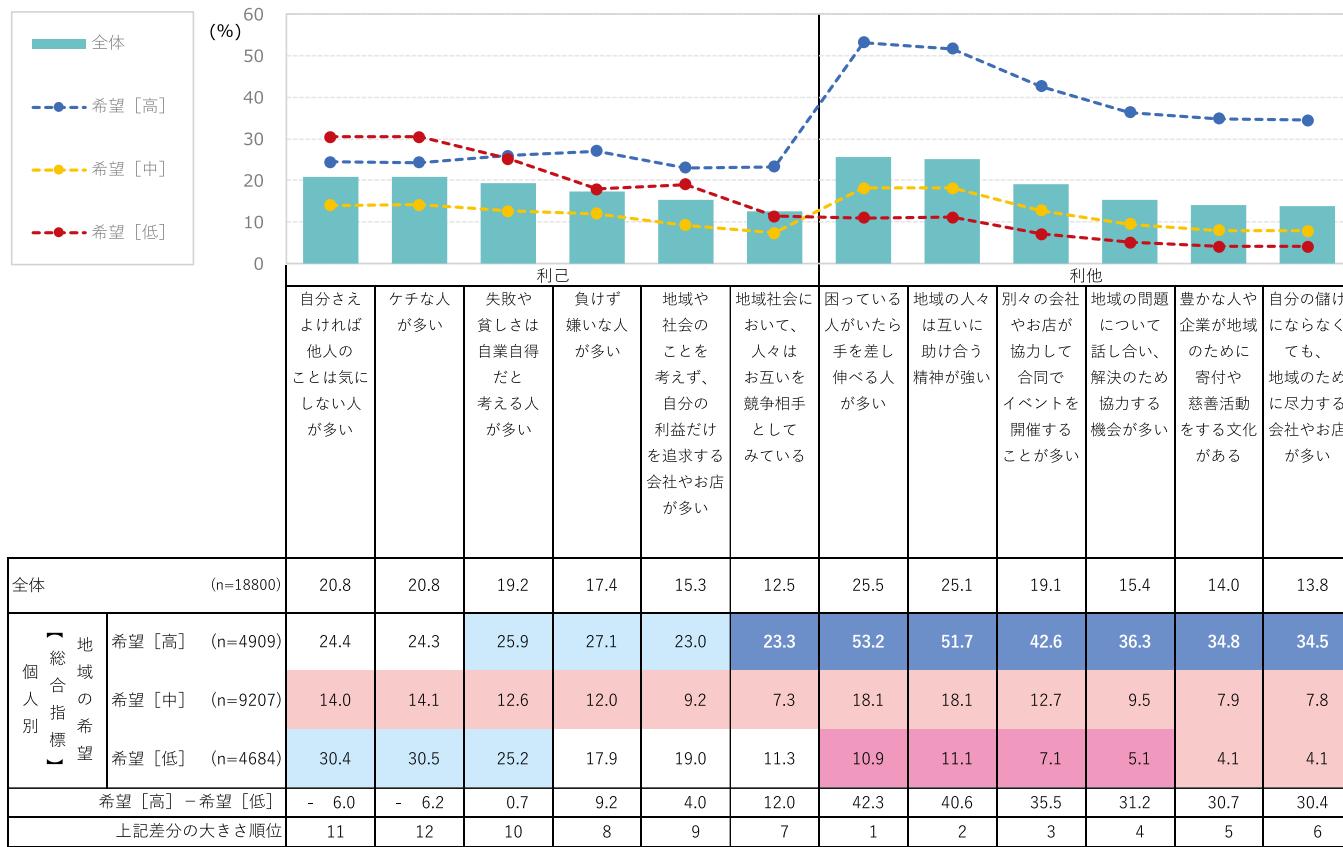
▶ 地域に希望を強く持っている層は、周囲を「競争的」だと感じると同時に、「利他的」でもあると考えている

- ・居住する地域の「利己的空気・利他的空気」について聞いた。
 - ・具体的には下記グラフ・表に記載する12項目について各5段階であてはまり度を測定し、因子分析を経て各選択肢が「利己的空気」と「利他的空気」に二分されることを確認した。

- 地域の希望が高い層（希望[高]）と、低い層（希望[低]）は、周囲を「利己的」だと思う比率が高い。
 - 地域の希望が高い層は、同時に周囲を「利他的」だと考える人が多い。
 - ・特に希望[高]の「地域社会において、人々はお互いを競争相手としてみている」は、利己的選択肢の中で希望[低]との差が最も大きく、より“競争的”であると認識している人が多い。
 - 一方、地域の希望が低い層は周囲を「利他的」だと思っている比率が低い。ここが両者を分けるポイントである。
 - ・なお、地域の希望と利己的空気・利他的空気との関係は、どちらが原因でどちらが結果であるか想定しづらい。どちらも解決の手段が様々にある「状態の記述」であるため、モデル化しづらい。したがって（後頁でまとめる）地域の希望の要因関連図からは除外する。
 - ・ただし、地域の希望が高いと感じる人が、その地域を利己的・競争的だと感じると同時に、利他的・協調的でもあると感じる状態であること、地域の希望が低いと感じる人は、その地域を利己的・競争的だとだけ感じる状態であることは確かである。

■利己的空氣・利他的空氣／そう思う・計（全体／各单一回答）

あなたが住んでいる地域についてお聞きします。あなたの地域の人々は、大体において、どのような状態にあると思いますか。以下の項目についてどの程度あてはまるかお答えください。



※全体値より10pt以上高い数値■/5pt以上高い数値■/5pt以上低い数値■/10pt以上低い数値■で網掛け

② 地方創生への関与

地域へのコミットメント意向

▶ 地域へのコミットメント意向について、「買い物や飲食はできるだけ地元のお店」「困っている人がいれば手助け」が高い。地域の希望が高いほどコミットメント意向も高い傾向がみられる

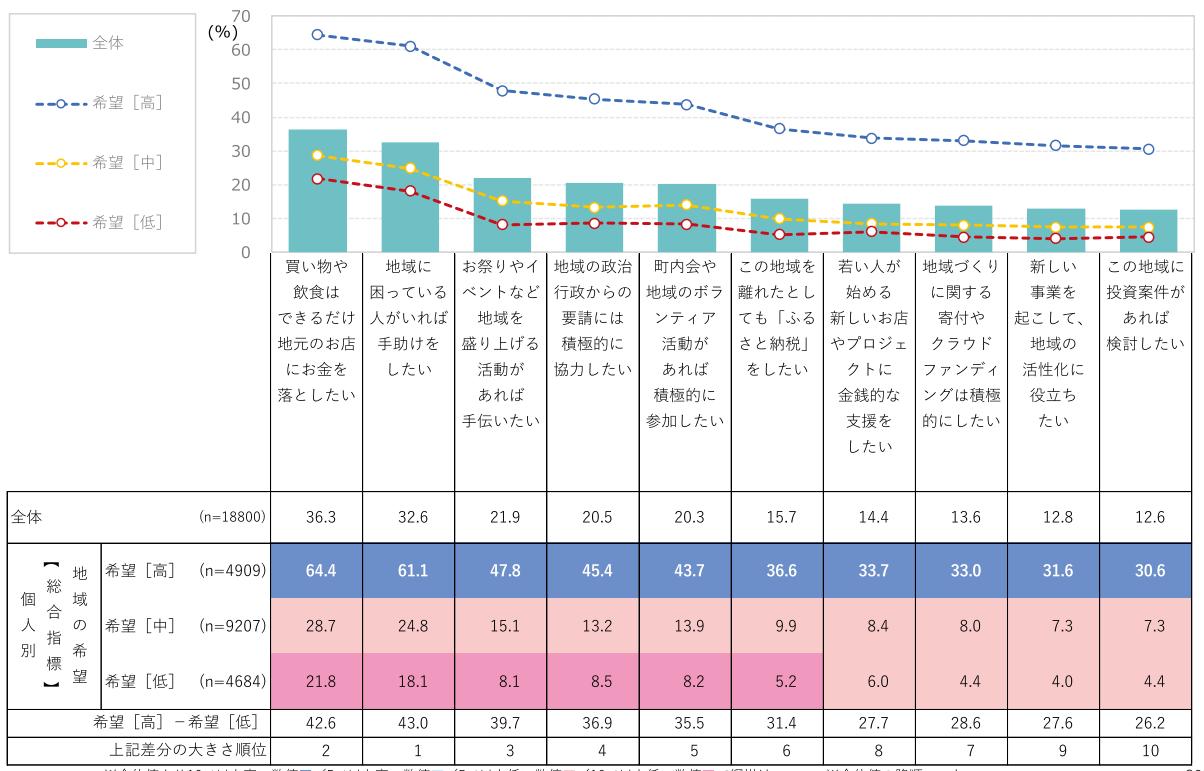
- ・「地域へのコミットメント意向」について聞いた。

● 地域へのコミットメント意向について、「買い物や飲食はできるだけ地元のお店にお金を落としたい」が36%と最も高い。次いで「地域に困っている人がいれば手助けをしたい」が33%、「お祭りやイベントなど地域を盛り上げる活動があれば手伝いたい」が22%、「地域の政治・行政からの要請には積極的に協力したい」が21%、「町内会や地域のボランティア活動があれば積極的に参加したい」が20%と続いている。

● 総合指標別には、地域の希望が高いほどコミットメント意向も高い傾向がみられる。地域の希望が高い層では「買い物や飲食はできるだけ地元のお店にお金を落としたい」「地域に困っている人がいれば手助けをしたい」がそれぞれ6割以上と特に高くなっているが、中程度の層や低い層においても他の項目に比べてコミットメント意向が高くなっている。

■ 地域へのコミットメント意向／あてはまる・計（全体／各単一回答）

あなた自身は現在お住まいの地域への関わりについて、どのように考えていますか。



※全体値より10pt以上高い数値■／5pt以上高い数値■／5pt以上低い数値■／10pt以上低い数値■で網掛け

※全体値の順位ソート

Q29

挑戦意欲

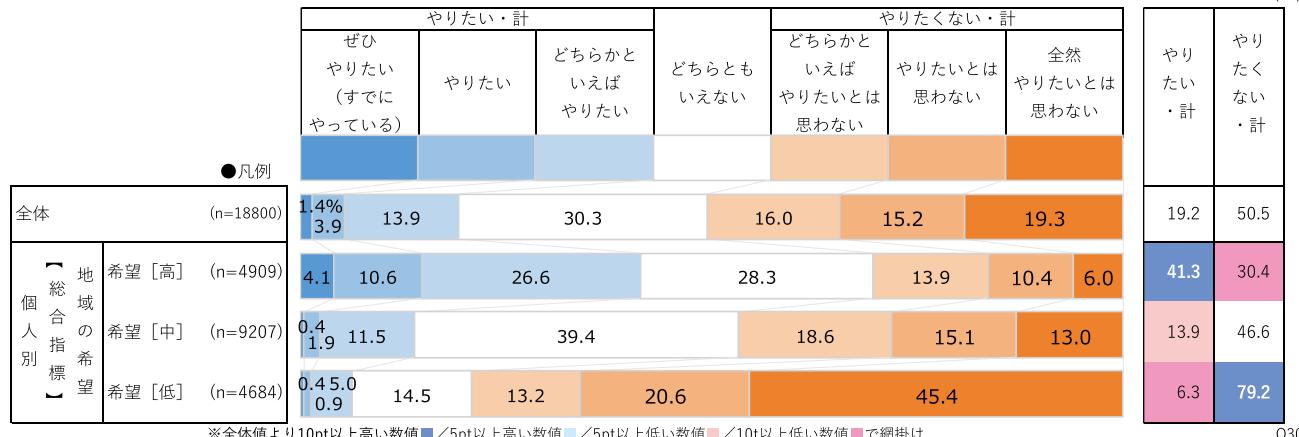
▶ まちおこし・まちづくりへの挑戦意欲は、「やりたい・計」が約2割、「やりたくない・計」が約5割。
地域の希望が高いほど挑戦意欲も高い傾向となっており、地域の希望が高い層では「やりたい・計」が4割

- ・地域の「まちおこし・まちづくり」に関する活動への挑戦意欲について、やりたい（すでにやっている）かやりたくないかを聞いた。
- 挑戦意欲について、「やりたい・計」は19%、「やりたくない・計」は51%。
- 地域の希望が高いほど「やりたい・計」が高くなり、「やりたくない・計」が低くなっている。特に、地域の希望が高い層では「やりたい・計」の比率が4割を超え、「やりたくない・計」の比率を上回っている。

■挑戦意欲（全体／単一回答）

あなた自身は、お住まいの地域の「まちおこし・まちづくり」に関する何か新しい活動を自ら始めるつもりがありますか。

(%)



Q30

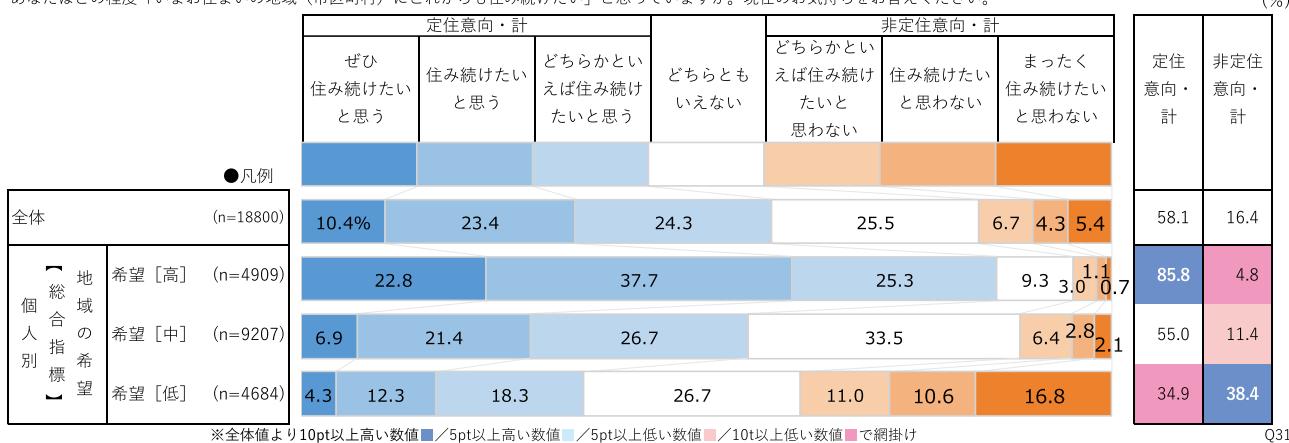
定住意向

▶ 地域の希望が高い層ほど定住意向も高い傾向。地域の希望が高い層では「定住意向・計」が8割半ばを占める

- ・地域への定住意向について、住み続けたいか住み続けたくないかを聞いた。
- 定住意向について、「定住意向・計」は58%、「非定住意向・計」は16%。
- 総合指標別には、地域の希望が高いほど「定住意向・計」が高くなり、「非定住意向・計」が低くなっている。地域の希望が低い層では「非定住意向・計」の比率が「定住意向・計」の比率を若干上回っている。

■定住意向【現在】（全体／單一回答）

あなたはどの程度「いまお住まいの地域（市区町村）にこれからも住み続けたい」と思っていますか。現在のお気持ちをお答えください。



離脱意向

▶ 非定住意向者における移住意向エリアは、「別の都道府県」が最多。

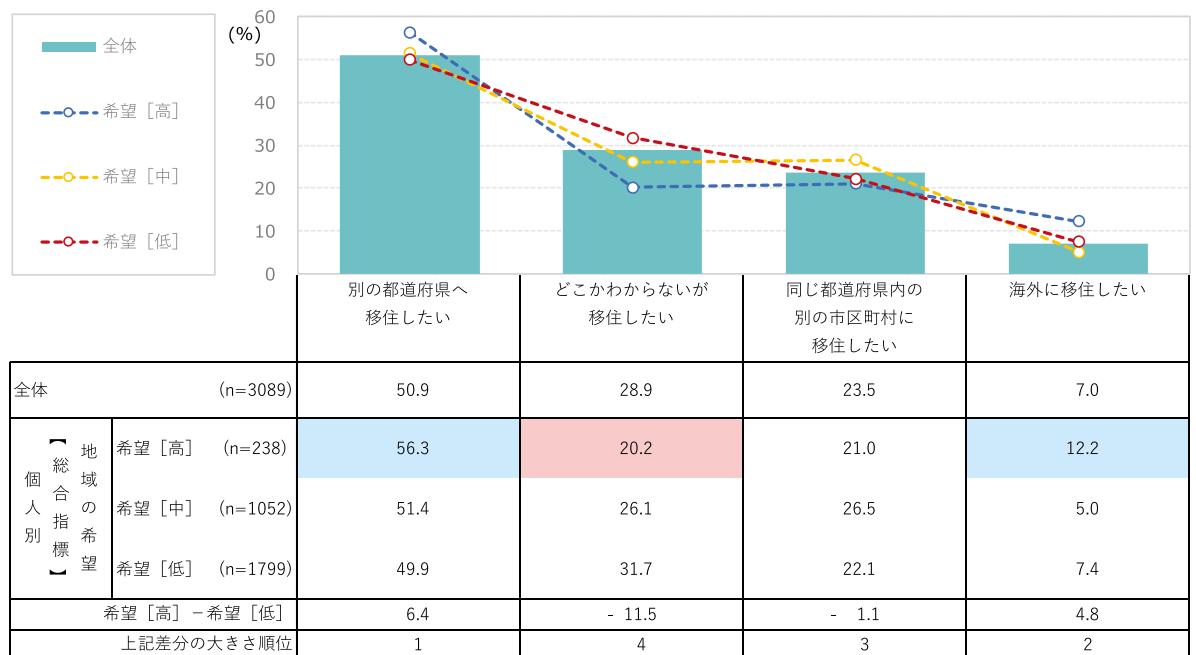
地域の希望が高い層では長距離、中程度の層では近距離の移住意向がみられる

- ・非定住意向者に対し、離脱意向のあるエリアについて聞いた。
- 移住意向エリアについて、「別の都道府県へ移住したい」が51%と最も高い。次いで「どこかわからないが移住したい」が29%、「同じ都道府県内の別の市区町村に移住したい」が24%、「海外に移住したい」が7%と続いている。
- 総合指標別には、地域の希望が高いほど「別の都道府県へ移住したい」「海外に移住したい」が高く、「どこかわからないが移住したい」が低い傾向がみられる。希望[中]では「同じ都道府県内の別の市区町村に移住したい」が最も高い。

■離脱意向（全体／複数回答）

前回で「どちらかといえば住み続けたいと思わない」「住み続けたいと思わない」「まったく住み続けたいと思わない」を選んだ方にお聞きします。

あなたがこの地域を出る（移住する）場合、どこに出たい（移住したい）と思いますか。



※全体値より10pt以上高い数値■／5pt以上高い数値■／5pt以上低い数値■／10pt以上低い数値■で網掛け

※全体値の降順ソート

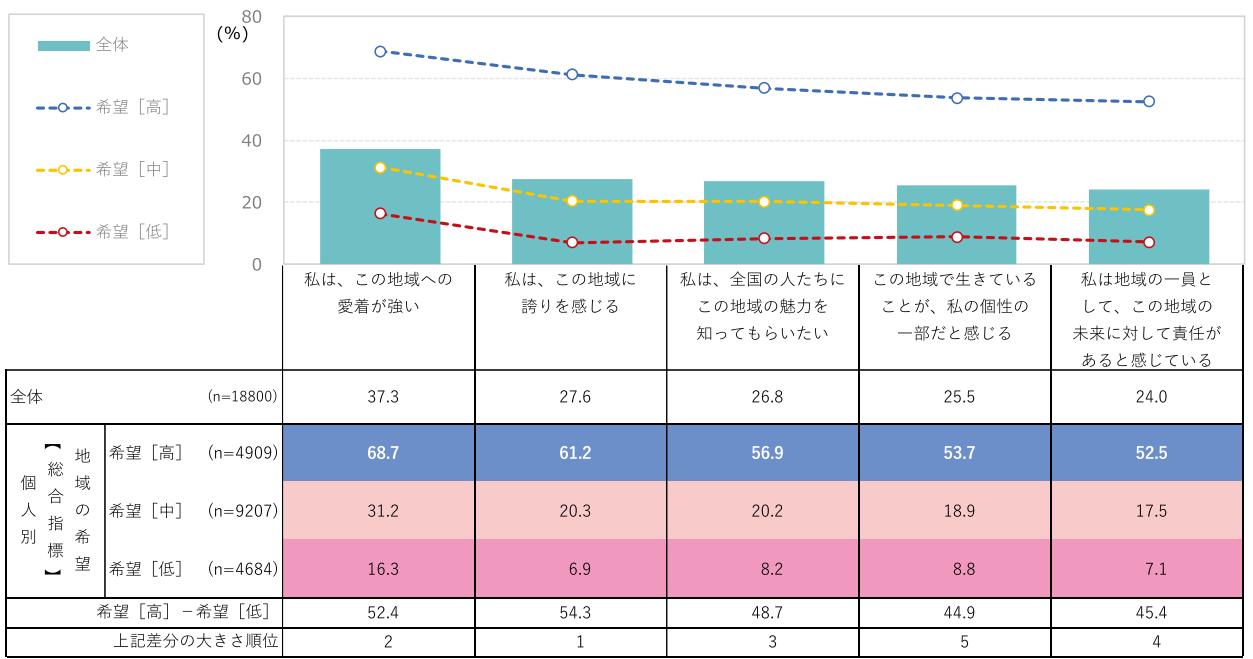
シビックプライド

▶ 地域の希望が高い層ほどシビックプライドの比率も高い

- ・地域に対する「シビックプライド」について聞いた。
- シビックプライドについて、「私は、この地域への愛着が強い」が37%と最も高い。次いで「私は、この地域に誇りを感じる」「私は、全国の人たちにこの地域の魅力を知ってもらいたい」「この地域で生きていることが、私の個性の一部だと感じる」「私は地域の一員として、この地域の未来に対して責任があると感じている」が25%前後で続く。
- 総合指標別には、地域の希望が高いほどシビックプライドも高い傾向がみられる。地域の希望が高い層と中程度の層では「私は、この地域に誇りを感じる」の比率が2番目に高くなっているが、低い層では最も低い項目となっている。

■シビックプライド／あてはまる・計（全体／各単一回答）

あなたの自身は現在お住まいの地域について、どのように考えていますか。



① 変わるもの／変わらないもの

分析の手続き

- ▶ 地域の希望はどこから生まれるかについて、都道府県別のクロス分析を行うにあたって、
都道府県単位で希望が高いグループとそうでないグループとに分けてクロス分析を行うことが妥当
● 地域の希望の“源泉”はどこか？という視点での分析を行うには、地域環境に即してデータ分析を行う必要がある。

- ▶ 第Ⅰ章末尾で、地域の希望の総合指標化を行ったが、その地域の希望【総合指標】を
都道府県単位で算出した結果が以下表である

- 地域の希望【総合指標】トップは沖縄県。2位は福岡県。以下、東京都、神奈川県と続く。
- 最下位は秋田県。東北地方は宮城県（7位）が高いが、青森県（45位）、山形県（44位）をはじめ、総じて順位が低い。
- 関西地方は、和歌山県（39位）を除き、総じて高順位。
- 四国地方は順位の低い県が多く、徳島県は46位。

希望【高】都道府県			希望【中】都道府県			希望【低】都道府県		
1位	沖縄県	13.12	12位	京都府	11.94	37位	岐阜県	11.33
2位	福岡県	12.53	13位	石川県	11.89	38位	山梨県	11.29
3位	東京都	12.41	14位	熊本県	11.87	39位	和歌山県	11.25
4位	神奈川県	12.40	15位	鹿児島県	11.80	40位	山口県	11.13
5位	愛知県	12.21	16位	静岡県	11.79	41位	鳥取県	11.12
6位	大阪府	12.17	17位	千葉県	11.77	42位	高知県	11.10
7位	宮城県	12.12	18位	長野県	11.68	43位	新潟県	10.94
8位	兵庫県	12.11	19位	奈良県	11.67	44位	山形県	10.90
9位	滋賀県	12.10	20位	福島県	11.64	45位	青森県	10.72
10位	埼玉県	12.08	21位	栃木県	11.61	46位	徳島県	10.70
11位	広島県	11.97	21位	岡山県	11.61	47位	秋田県	10.29
			21位	宮崎県	11.61			
			24位	群馬県	11.57			
			25位	北海道	11.56			
			25位	香川県	11.56			
			27位	三重県	11.53			
			28位	大分県	11.51			
			29位	茨城県	11.47			
			30位	佐賀県	11.44			
			31位	富山県	11.41			
			31位	愛媛県	11.41			
			33位	島根県	11.40			
			33位	長崎県	11.40			
			35位	岩手県	11.39			
			36位	福井県	11.34			

- ▶ 以降の分析では、上記の3つのセグメントの差異を中心に分析していく

ひとの動き

▶ ひとの動きについて、地域の希望が高い都道府県であるほど

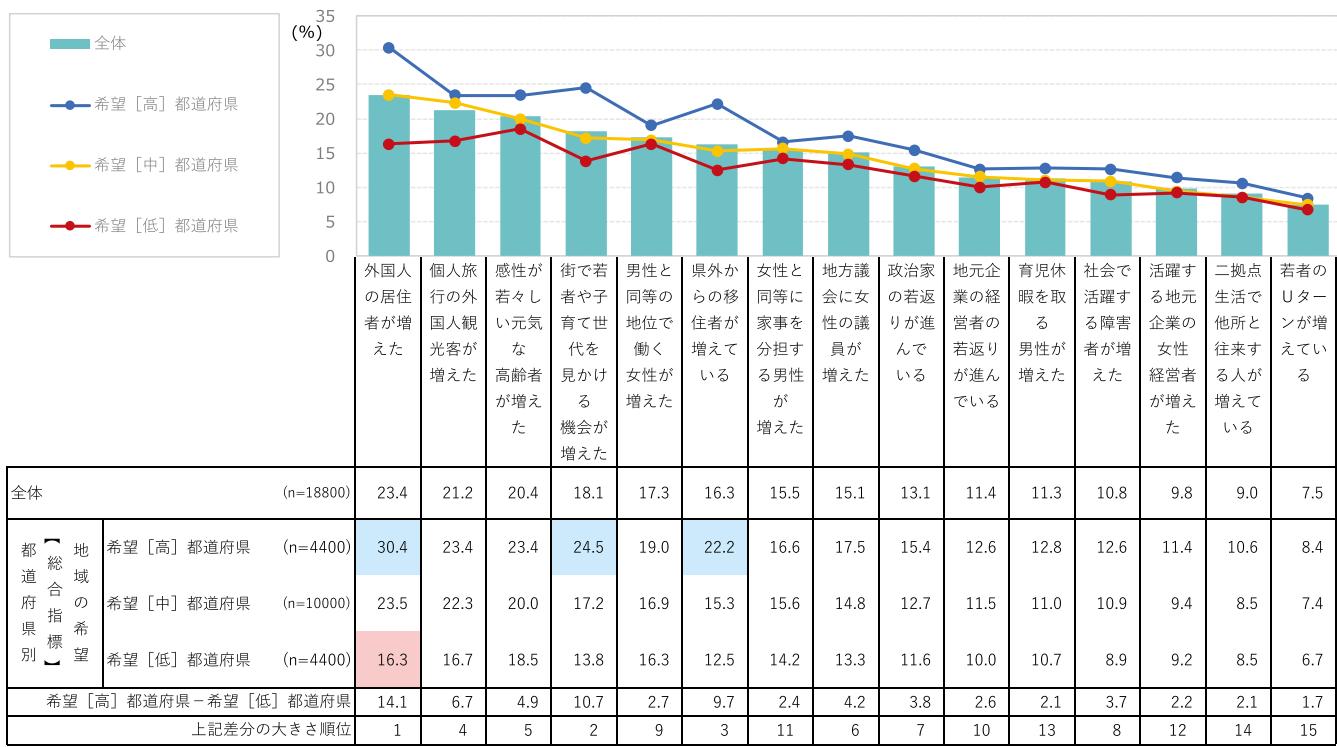
「外国人居住者や観光客」「若者や子育て世代の増加」「県外からの移住者の増加」が高い

- ・地域の「ひとの動き」について聞いた。

- ひとの動きについて、「外国人の居住者が増えた」が23%、「個人旅行の外国人観光客が増えた」が21%と、外国人の動きが上位に続く。次いで「感性が若々しい元気な高齢者が増えた」が20%、「街で若者や子育て世代を見かける機会が増えた」が18%、「男性と同等の地位で働く女性が増えた」が17%と続いている。
- 地域の希望【総合指標】都道府県別には、地域の希望が高い都道府県で全般的にひとの動きが活発であることがうかがえる。特に「外国人の居住者が増えた」「街で若者や子育て世代を見かける機会が増えた」「県外からの移住者が増えている」は他の都道府県に比べて高く、外国人や県外からの移住者といった居住者の増加が特徴としてみられる。一方、希望が低い都道府県では「感性が若々しい元気な高齢者が増えた」の比率が最も高く、「外国人の居住者が増えた」が他の都道府県に比べて低い。

■ 「ひとの動き」評価／あてはまる・計（全体／各単一回答）

以下のことは、昨今の（ここ5、6年の）あなたのお住まいの地域にどの程度あてはまりますか。



※全体値より10pt以上高い数値■／5pt以上高い数値△／5pt以上低い数値■／10pt以上低い数値■／網掛け

Q2

まちの動き

▶ まちの動きについて、地域の希望が高い都道府県であるほど「建物の増加」や「公共施設の整備」が進んでいるという評価が高い

● 若者向けのスポットやおしゃれな人、子育て世代向けのサービスも希望の高い都道府県で高い。

- 地域の「まちの動き」について聞いた。
- まちの動きについて、「市街地に新しいマンションやビルが増えた」が26%と最も高い。次いで「道路や公園などみんなが楽しめる公共の場所が整備してきた」が23%、「街づくりのためのイベントやプロジェクトが開催されるようになった」「子育て支援の施設やサービスが充実してきた」がそれぞれ20%、「リノベーションしたおしゃれなお店や施設が増えた」「子連れでも気兼ねなく楽しめるお店や場所が増えた」がそれぞれ19%と続いている。
- 地域の希望【総合指標】都道府県別には、地域の希望が高い都道府県ほど全般的にまちの動きも活発であることがうかがえる。以下の項目の比率が相対的に高い。
 - 「市街地に新しいマンションやビルが増えた」
 - 「中心市街地に若者向けのお店が増えた」
 - 「道路や公園などみんなが楽しめる公共の場所が整備してきた」
 - 「街におしゃれな人が増えた」
 - 「子連れでも気兼ねなく楽しめるお店や場所が増えた」
- 一方、希望が低い都道府県では「市街地に新しいマンションやビルが増えた」「中心市街地に若者向けのお店が増えた」が相対的に低い。

■ 「まちの動き」評価／あてはまる・計（全体／各単一回答）

昨今の（ここ5、6年の）あなたのお住まいの地域について、以下のような実感がありますか。どの程度あてはまるかお答えください。



※全体値より10pt以上高い数値■／5pt以上高い数値■／5pt以上低い数値■／10pt以上低い数値■で網掛け ※全体値の降順ソート

Q3

社会の動き

▶ 地域の希望が高い都道府県では全般に DX 分野が進んでいる（という認識が強め）

- 「テレワークを認める職場」「カーシェアやシェアサイクル」などが進んでいることも特徴。しかし、「太陽光パネルを備えた住宅」「地元食材を使う飲食店」の比率は最も低い。

- 地域の「社会の動き」について聞いた。
- 社会の動きについて、「買い物や飲食でキャッシュレス決済が広がった」が53%と最も高い。次いで「オンラインでのショッピングやサービス利用が便利になってきた」が35%、「スマートフォンが5Gで使えるようになった」「役所の情報がスマートフォンで入手しやすくなった」がそれぞれ31%と続いている。オンライン化・デジタル化関連項目が上位に続いている。
- 地域の希望【総合指標】都道府県別には、地域の希望が高い都道府県ほど全般的に社会の動きも活発であることがうかがえるが、総合指標間での差は比較的小さい項目も多い。地域の希望が高い都道府県では、「テレワークを認める職場が増えた」「カーシェアやシェアサイクルが使いやすくなった」などが他の層よりも高くなっている。
- 一方で、「太陽光パネルを備えた住宅が増えた」「地元の食材を積極的に使う飲食店が増えた」などGX（グリーントランスマーション）関連項目の比率は、地域の希望が中程度の都道府県で最も高く、希望が高い都道府県は最も低い。

■ 「社会の動き」評価／あてはまる・計（全体／各单一回答）

昨今の（ここ5、6年の）あなたのお住まいの地域について、以下のような実感がありますか。どの程度あてはまるかお答えください。



※全体値より10pt以上高い数値■／5pt以上高い数値■／5pt以上低い数値■／10pt以上低い数値■で網掛け ※全体値の降順ソート

Q4

地域の固有性

▶ 地域の希望が高い都道府県であるほど「中心街のビル・マンション群」「賑やかな商店街・繁華街」などの都市型の固有性が高い。総合指標が低い都道府県では「自然」「歴史・伝統」「名物や特産品・土産物」「地域ならではの食文化」などの固有性が高い

- ・地域の「固有性」について聞いた。

● 固有性について、「山、海、川など心の風景とも言える自然がある」「豊かな自然に親しむ環境がある」がそれぞれ63%と自然に関する項目が最も高い。次いで「古くからの地域のお祭りや伝統行事がある」が53%、「古くからの歴史や伝統がある」が48%と歴史に関する項目が続いている。

● 地域の希望が高い都道府県ほど以下の比率が高い。

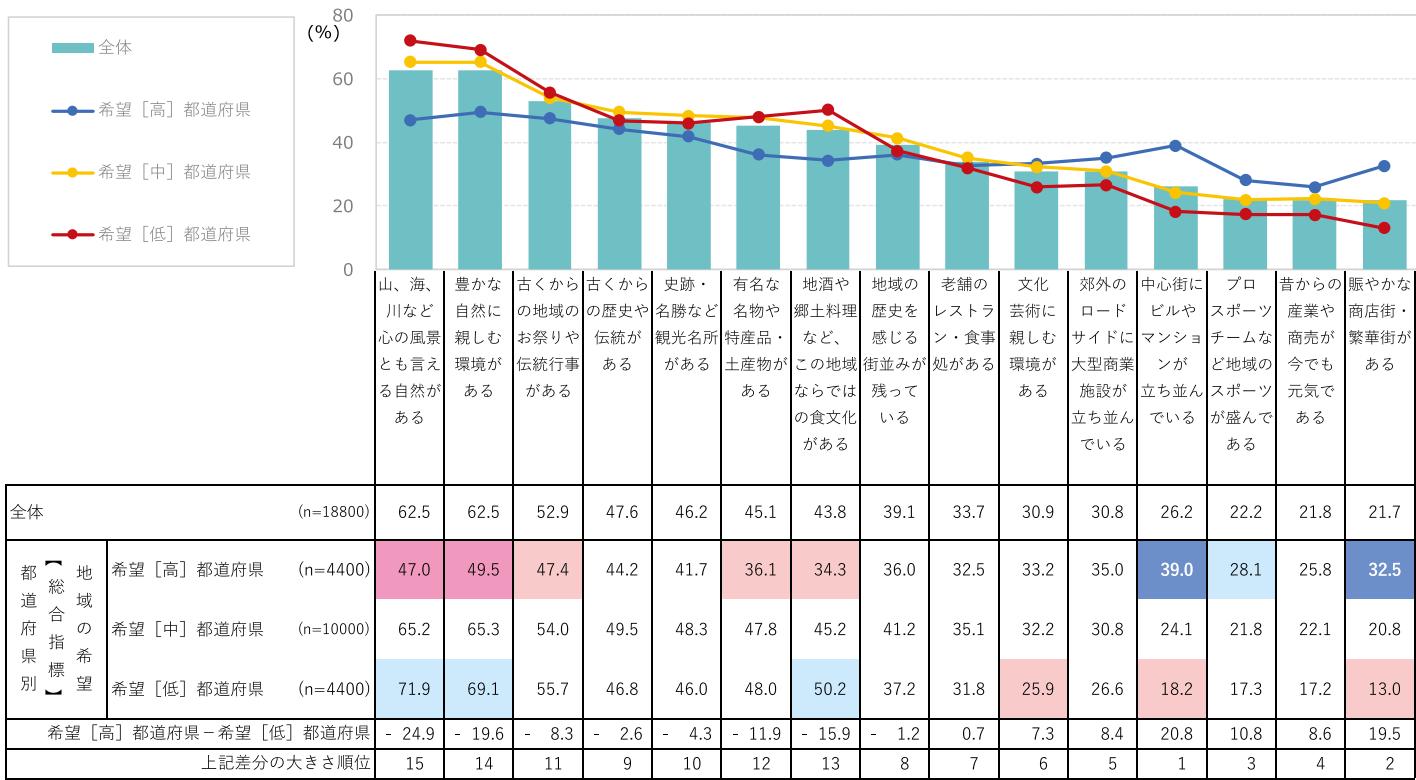
- ・「中心街にビルやマンションが立ち並んでいる」
- ・「プロスポーツチームなど地域のスポーツが盛んである」
- ・「賑やかな商店街・繁華街がある」

● 地域の希望が低い都道府県ほど以下の比率が高い。

- ・「山、海、川など心の風景とも言える自然がある」
- ・「豊かな自然に親しむ環境がある」
- ・「古くからの地域のお祭りや伝統行事がある」
- ・「有名な名物や特産品・土産物がある」
- ・「地酒や郷土料理など、この地域ならではの食文化がある」

■ 「固有性」評価／あてはまる・計 (全体／各単一回答)

以下のことは、あなたのお住まいの地域にどの程度あてはまりますか。



※全体値より10pt以上高い数値 ■/5pt以上高い数値 ▲/5pt以上低い数値 ▼/10pt以上低い数値 ■/網掛け

Q1

地域ブランド評価

▶ 地域のブランド評価について、都道府県別の地域の希望による差が特に大きいのは「地域の知名度」

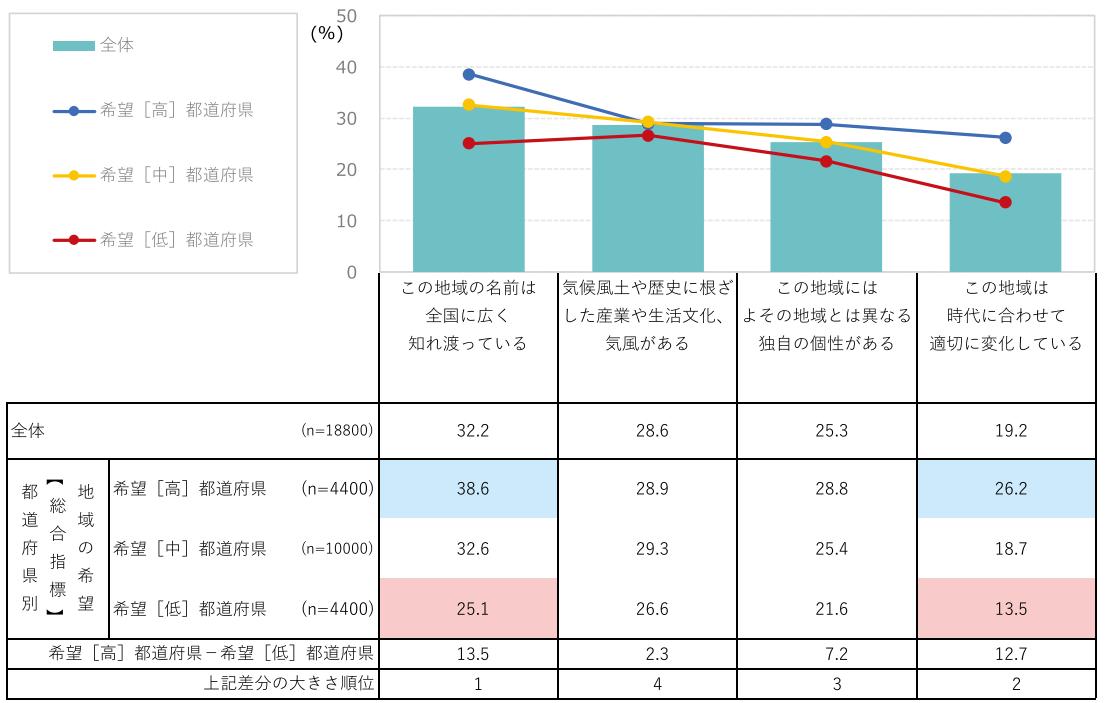
「時代に合わせた変化」。「産業や生活文化、気風」の比率は比較的差が小さい

- ・地域の「動きと個性」について総合評価を聞いた。

- 地域の評価について、「この地域の名前は全国に広く知れ渡っている」が32%と最も高い。次いで「気候風土や歴史に根ざした産業や生活文化、気風がある」が29%、「この地域にはよその地域とは異なる独自の個性がある」が25%、「この地域は時代に合わせて適切に変化している」が19%と続いている。
- 地域の希望【総合指標】都道府県別には、地域の希望が高い都道府県ほど「この地域の名前は全国に広く知れ渡っている」「この地域にはよその地域とは異なる独自の個性がある」「この地域は時代に合わせて適切に変化している」への評価が高い傾向がみられる。「気候風土や歴史に根ざした産業や生活文化、気風がある」については総合指標間での差は比較的小さい。

■ 「総合」評価／あてはまる・計（全体／各単一回答）

あなたのお住まいの地域について、以下のような実感がありますか。どの程度あてはまるかお答えください。



Q5

② 地域の“空気”

政治・行政へのスタンス：関心

▶ 地域の政治・行政について「関心がある」のは、地域の希望が高い都道府県

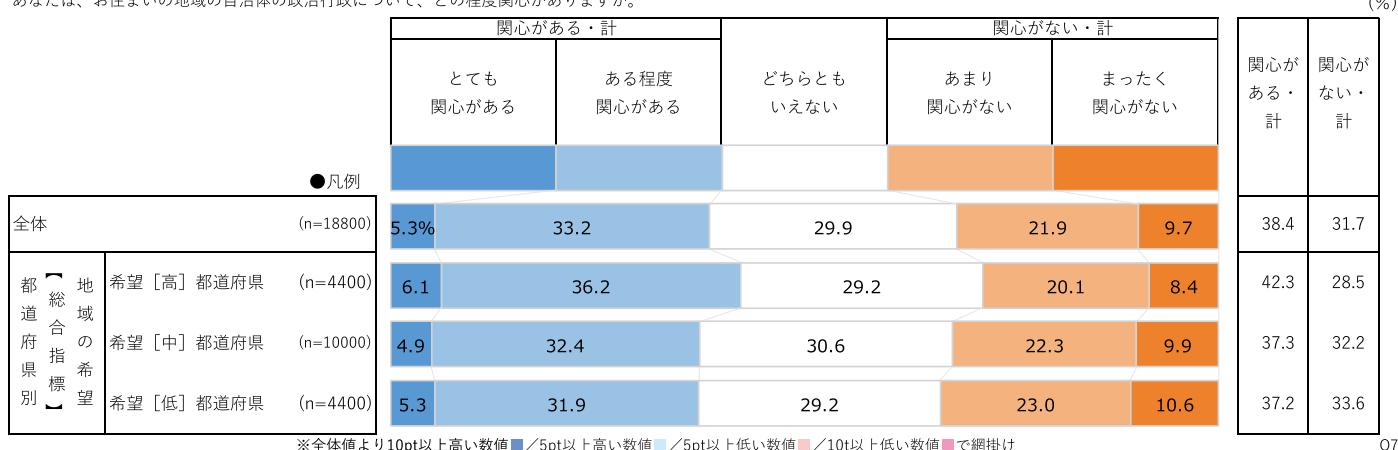
- 「政治・行政の関心」について、関心の有無を聞いた。

● 住んでいる地域の政治・行政について、「関心がある・計」は38%、「関心がない・計」は32%。

● 地域の希望【総合指標】都道府県別にみると、希望が高い都道府県は他の都道府県に比べて「関心がある・計」の比率が高い。

■ 政治・行政の関心（全体／単一回答）

あなたは、お住まいの地域の自治体の政治行政について、どの程度関心がありますか。



政治・行政へのスタンス：信頼

▶ 地域の希望が高い都道府県ほど地域の政治・行政を信頼している

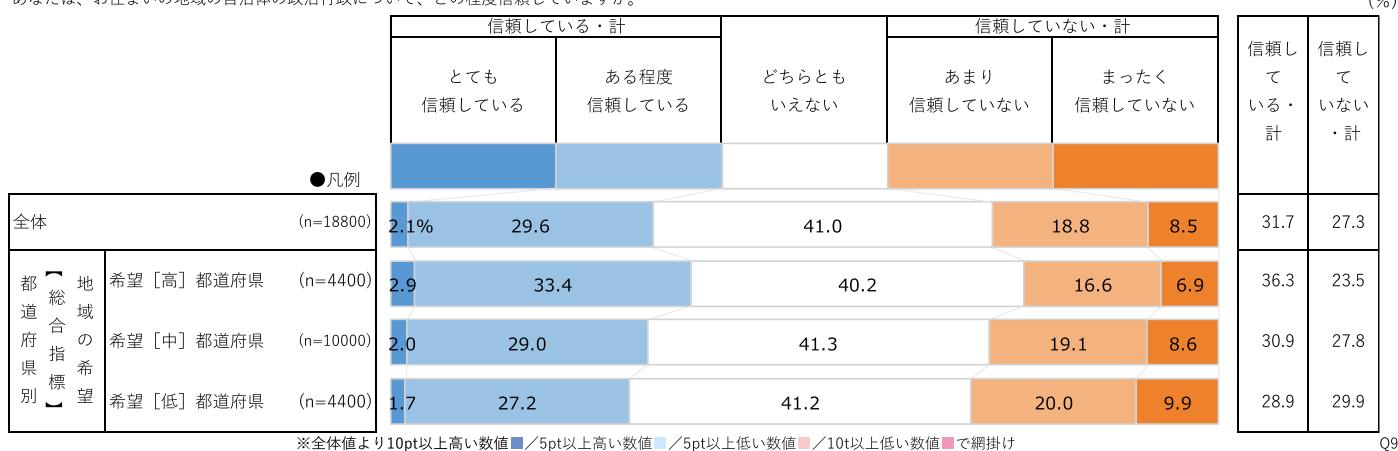
- 「政治・行政の総合信頼度」について、信頼しているか信頼していないかを聞いた。

● 住んでいる地域の政治・行政の総合信頼度について、「信頼している・計」は32%、「信頼していない・計」は27%。

● 地域の希望【総合指標】都道府県別には、おおよそ地域の希望が高い都道府県ほど「信頼している・計」が高くなり、「信頼していない・計」が低くなる傾向がみられる。

■ 政治・行政の総合信頼度（全体／単一回答）

あなたは、お住まいの地域の自治体の政治行政について、どの程度信頼していますか。



政治・行政へのスタンス：評価

▶ 政治・行政への評価が高いのは「市民に向けた情報発信が丁寧で熱心である」

▶ 全般に地域の希望が高い都道府県であるほど高評価

- ・地域の「政治・行政」の詳細について評価を聞いた。

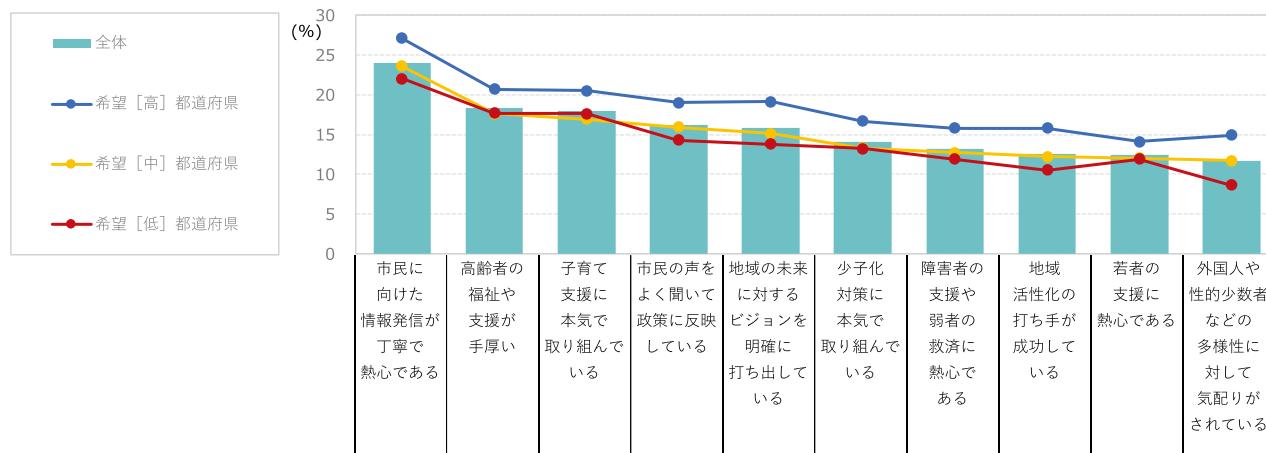
● 政治・行政の詳細評価について、「市民に向けた情報発信が丁寧で熱心である」が24%と最も高い。次いで「高齢者の福祉や支援が手厚い」「子育て支援に本気で取り組んでいる」がそれぞれ18%、「市民の声をよく聞いて政策に反映している」「地域の未来に対するビジョンを明確に打ち出している」がそれぞれ16%と続いている。

● 地域の希望【総合指標】都道府県別には、希望が高い都道府県ほど全般的に高評価である。特に以下の項目では、希望[高]都道府県の比率が希望[低]を5ポイント以上上回っている。

- ・外国人や性的少数者などの多様性に対して気配りがされている
- ・地域の未来に対するビジョンを明確に打ち出している
- ・地域活性化の打ち手が成功している
- ・市民に向けた情報発信が丁寧で熱心である

■政治・行政の詳細評価／感じる・計（全体／各単一回答）

あなたは、お住まいの地域の自治体の政治行政についてどのように感じていますか。



全体		(n=18800)									
都道府県別総合指標の希望	希望 [高] 都道府県 (n=4400)	27.1	20.7	20.5	19.0	19.1	16.7	15.8	15.8	14.1	14.9
	希望 [中] 都道府県 (n=10000)	23.6	17.6	16.9	15.9	15.1	13.3	12.7	12.2	12.0	11.7
	希望 [低] 都道府県 (n=4400)	22.0	17.7	17.6	14.3	13.8	13.2	11.9	10.5	11.9	8.6
希望「高」都道府県 - 希望「低」都道府県		5.1	3.0	2.9	4.7	5.3	3.5	3.9	5.3	2.2	6.3
上記差分の大きさ順位		4	8	9	5	2	7	6	2	10	1

※全体値より10pt以上高い数値■/5pt以上高い数値■/5pt以上低い数値■/10pt以上低い数値■で網掛け

※全体値の降順ソート

Q8

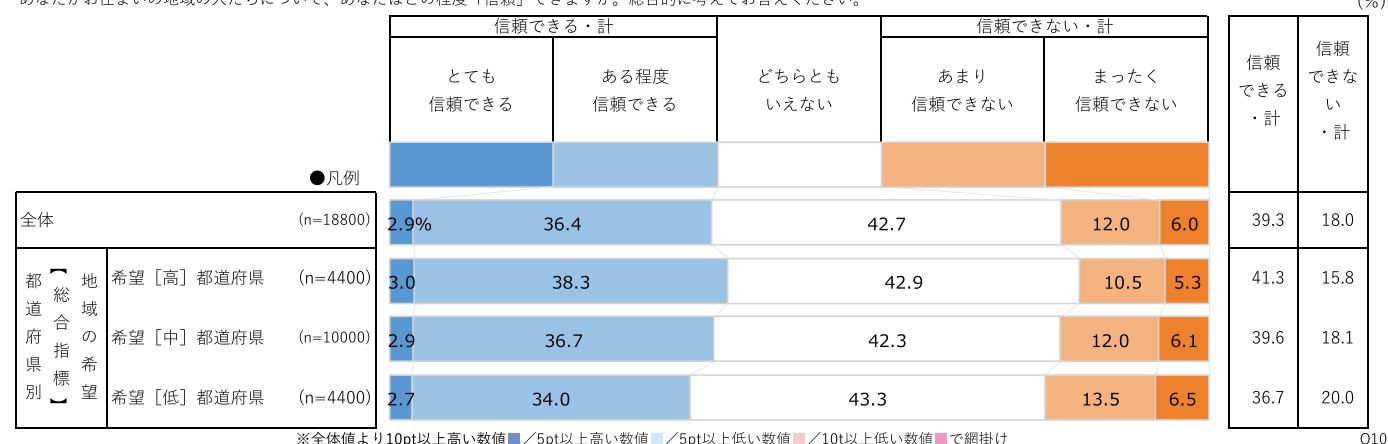
人の関係性：一般的信頼

▶地域の人たちについて、地域の希望が高い都道府県ほど「信頼できる・計」の比率が高くなる傾向

- ・地域の人たちについて、信頼できるか信頼できないかを聞いた。
- 住んでいる地域の人たちへの一般的信頼について、「信頼できる・計」は39%、「信頼できない・計」は18%。
- 地域の希望【総合指標】都道府県別には、おおよそ地域の希望が高い都道府県ほど「信頼できる・計」が高くなり、「信頼できない・計」が低くなる傾向がみられる。

■一般的信頼：人（全体／單一回答）

あなたがお住まいの地域の人たちについて、あなたはどの程度「信頼」できますか。総合的に考えてお答えください。



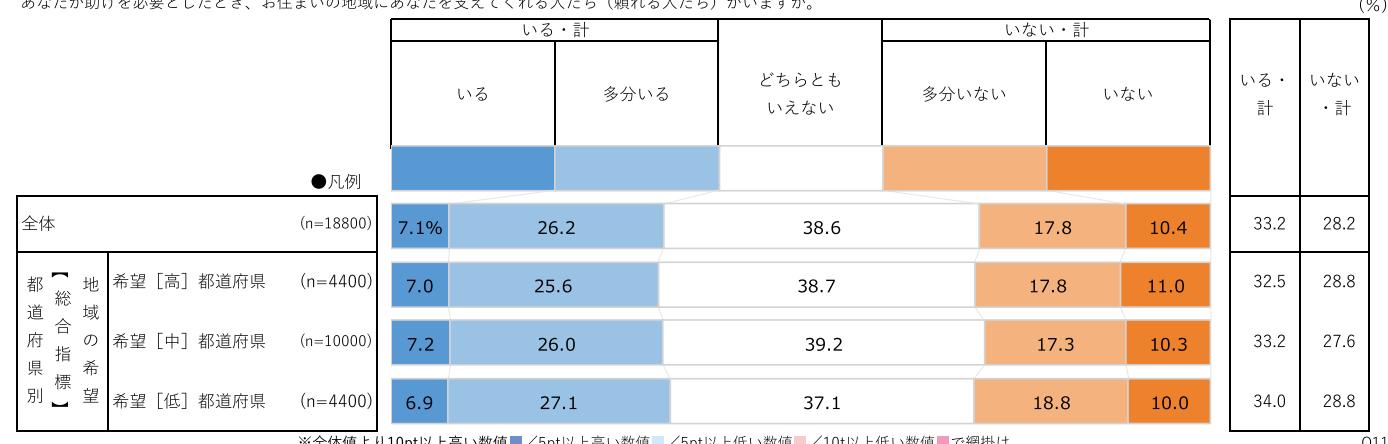
人の関係性：頼れる人の有無

▶頼れる人がいるかどうかは、地域の希望とは無相関

- ・地域の人たちについて、頼れる人がいるかいないかを聞いた。
- 頼れる人について、「いる・計」は33%、「いない・計」は28%。
- 地域の希望【総合指標】都道府県別に特段の傾向はみられない。

■頼れる人の有無（全体／單一回答）

あなたが助けを必要としたとき、お住まいの地域にあなたを支えてくれる人たち（頼れる人たち）がいますか。



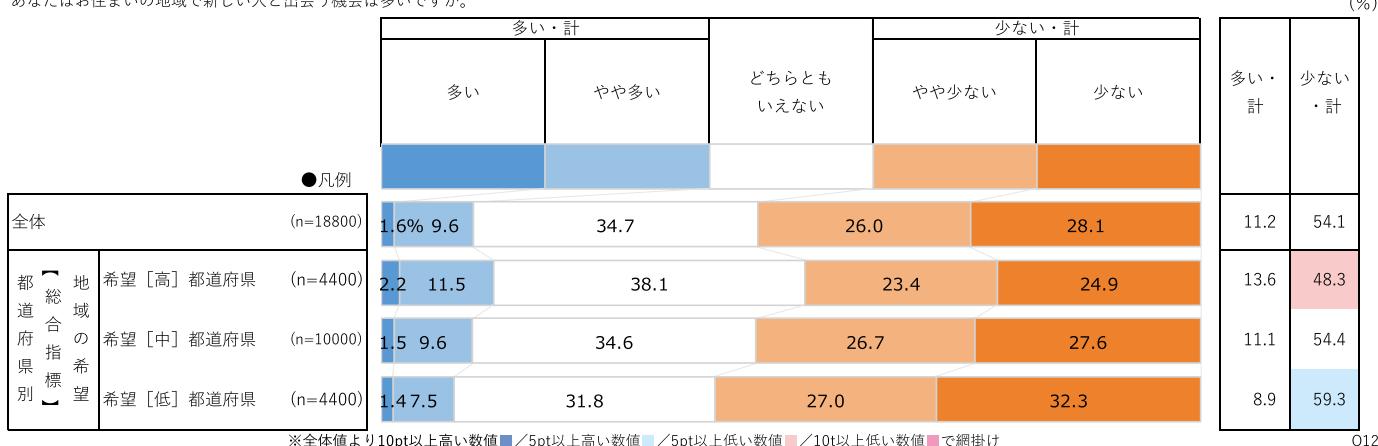
人の関係性：弱い紐帯（出会い）の有無

▶ 地域で新しい人と出会う機会について、地域の希望が高い都道府県ほど「多い・計」の比率が高くなり、「少ない・計」の比率が低くなる傾向

- ・地域で「新しい人と出会う機会」について、多いか少ないかを聞いた。
- 地域で新しい人と出会う機会について、「多い・計」は11%、「少ない・計」は54%。
- 地域の希望【総合指標】都道府県別には、地域の希望が高い都道府県ほど「多い・計」が高くなり、「少ない・計」が低くなる傾向がみられる。

■弱い紐帯の有無（全体／単一回答）

あなたはお住まいの地域で新しい人と出会う機会は多いですか。



人の関係性ロールモデル①：「面白い人」の存在

▶地域の希望が高い都道府県ほど面白い人が「いる」傾向

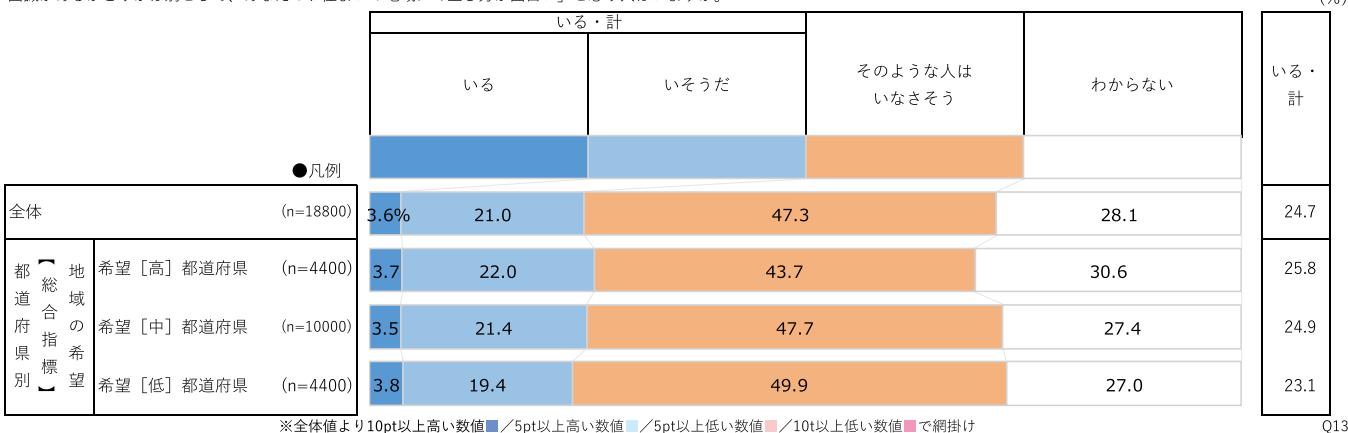
- 地域に「生き方が面白い」と思う人がいるかいないかを聞いた。

●「面白い人」の存在について、「いる・計」は25%。「そのような人はいなさそう」が47%、「わからない」が28%。

●地域の希望【総合指標】都道府県別には、わずかずつではあるが、地域の希望が高い都道府県ほど「いる・計」が高くなっている。「そのような人はいなさそう」は逆の傾向を示す。

■ロールモデルの有無①「面白い人」（全体／単一回答）

面識があるかどうかは別として、あなたのお住まいの地域に「生き方が面白い」と思う人はいますか。



Q13

人の関係性ロールモデル②：「目標、憧れる人」の存在

▶地域の希望が高い都道府県ほど目標、憧れる人が「いる」傾向

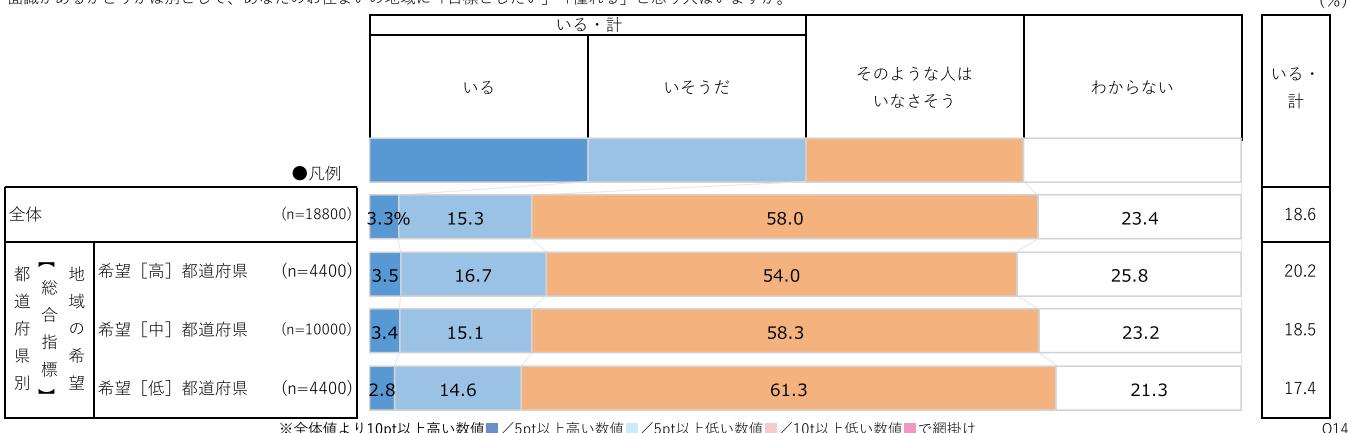
- 地域に「目標としたい」「憧れる」と思う人がいるかいないかを聞いた。

●「目標としたい」「憧れる」人の存在について、「いる・計」は19%。「そのような人はいなさそう」が58%、「わからない」が23%。

●地域の希望【総合指標】都道府県別には、地域の希望が高い都道府県ほど「いる・計」が高い。「そのような人はいなさそう」は地域の希望が低い都道府県ほど高くなる傾向。

■ロールモデルの有無②「目標、憧れる人」（全体／単一回答）

面識があるかどうかは別として、あなたのお住まいの地域に「目標としたい」「憧れる」と思う人はいますか。



Q14

寛容性指標

▶ 寛容性【総合】は、全体で45%

▶ 地域の希望が高い都道府県であるほど寛容性が高い。特に【家族】【個人】【若者】因子の寛容性が高い

・地域の「気風や社会の雰囲気のイメージ」について聞き、寛容性を測定・指標化した。LIFULL HOME'S 総研の過去2回のレポートと同じ方法、つまり6つの因子のデータから寛容性【総合】指標を算出している。

●「成功している人を批判して足を引っ張る風潮がある」が76%と最も高い。次いで「若者は年長者の言うことに逆らえない空気がある」が65%、「相手の出自（出身地、血縁関係など）を気にする人が多い」が63%と続いている。

● 寛容性指標（平均）では、【総合】が45%。6分野では、【変化】が49%と最も高い。次いで【家族】が48%、【個人】が47%、【若者】が46%、【マイノリティ】が43%、【女性】が39%と続いている。

● 地域の希望【総合指標】都道府県別には、すべての項目と指標で地域の希望が高い都道府県の比率が最も高い。寛容性指標（平均）については、地域の希望が高い都道府県では【家族】が最も高く、次いで【個人】【変化】と続く。希望【中】都道府県と希望【低】都道府県では、各項目・指標とも概ね同水準となっている。

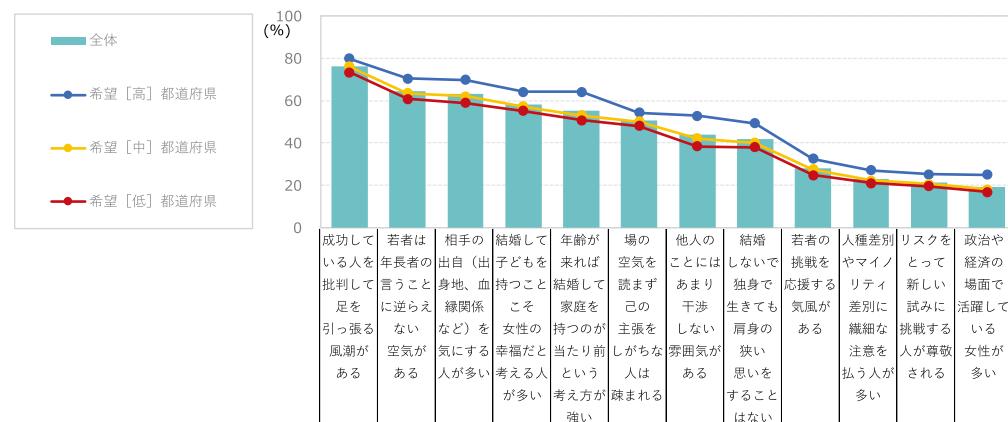
※寛容性の測定設問・選択肢は以下の通りである。

※スコア算出にあたり、その末尾に（-）にある選択肢については「あまりあてはまらない」「全然あてはまらない」と回答した比率を用いている。

因子	選択肢
女性	結婚して子どもを持つことこそ女性の幸福だと考える人が多い（-）
	政治や経済の場面で活躍している女性が多い
家族	年齢が来れば結婚して家庭を持つのが当たり前という考え方強い（-）
	結婚しないで独身で生きてても肩身の狭い思いをすることはない
若者	若者は年長者の言うことに逆らえない空気がある（-）
	若者の挑戦を応援する気風がある
マイノリティ	相手の出自（出身地、血縁関係など）を気にする人が多い（-）
	人種差別やマイノリティ差別に繊細な注意を払う人が多い
個人	場の空気を読まず己の主張をしがちな人は疎まれる（-）
	他人のことにはあまり干渉しない雰囲気がある
変化	成功している人を批判して足を引っ張る風潮がある（-）
	リスクをとって新しい試みに挑戦する人が尊敬される

■寛容性指標【周囲】ポジ・ネガ調整後「ポジ計」（全体／各单一回答）

あなたがお住まいの地域の気風や社会の雰囲気にはどのようなイメージをお持ちですか。以下にあげる項目について、それぞれどの程度あてはまるかお答えください。



全体		(n=18800)	76.3	64.5	63.2	58.4	55.1	50.6	43.8	41.7	28.0	23.0	21.4	19.3
都道府県別	希望 [高] 都道府県 (n=4400)	79.8	70.5	69.9	64.1	64.1	54.4	52.9	49.3	32.5	27.0	25.2	24.9	
希望 [中] 都道府県 (n=10000)	76.2	63.5	62.1	57.3	53.0	50.1	42.2	40.1	27.4	22.3	20.5	18.0		
希望 [低] 都道府県 (n=4400)	73.3	60.9	59.0	55.2	50.8	48.0	38.3	37.9	24.7	20.9	19.6	16.7		
希望 [高] 都道府県 - 希望 [低] 都道府県		6.5	9.6	10.9	8.9	13.3	6.4	14.6	11.4	7.8	6.1	5.6	8.2	
上記差分の大きさ順位		9	5	4	6	2	10	1	3	8	11	12	7	

※全体値より10pt以上高い数値■/5pt以上高い数値■/5pt以上低い数値■/10pt以上低い数値■で網掛け ※全体値の降順ソート

寛容性【総合】平均	寛容性【女性】平均	寛容性【家族】平均	寛容性【若者】平均	寛容性【マイノリティ】平均	寛容性【個人】平均	寛容性【変化】平均
45.4	38.9	48.4	46.3	43.1	47.2	48.9
51.2	44.5	56.7	51.5	48.5	53.7	52.5
44.4	37.7	46.6	45.5	42.2	46.2	48.4
42.1	36.0	44.4	42.8	40.0	43.2	46.5
9.1	8.6	12.4	8.7	8.5	10.5	6.1
	4	1	3	5	2	6

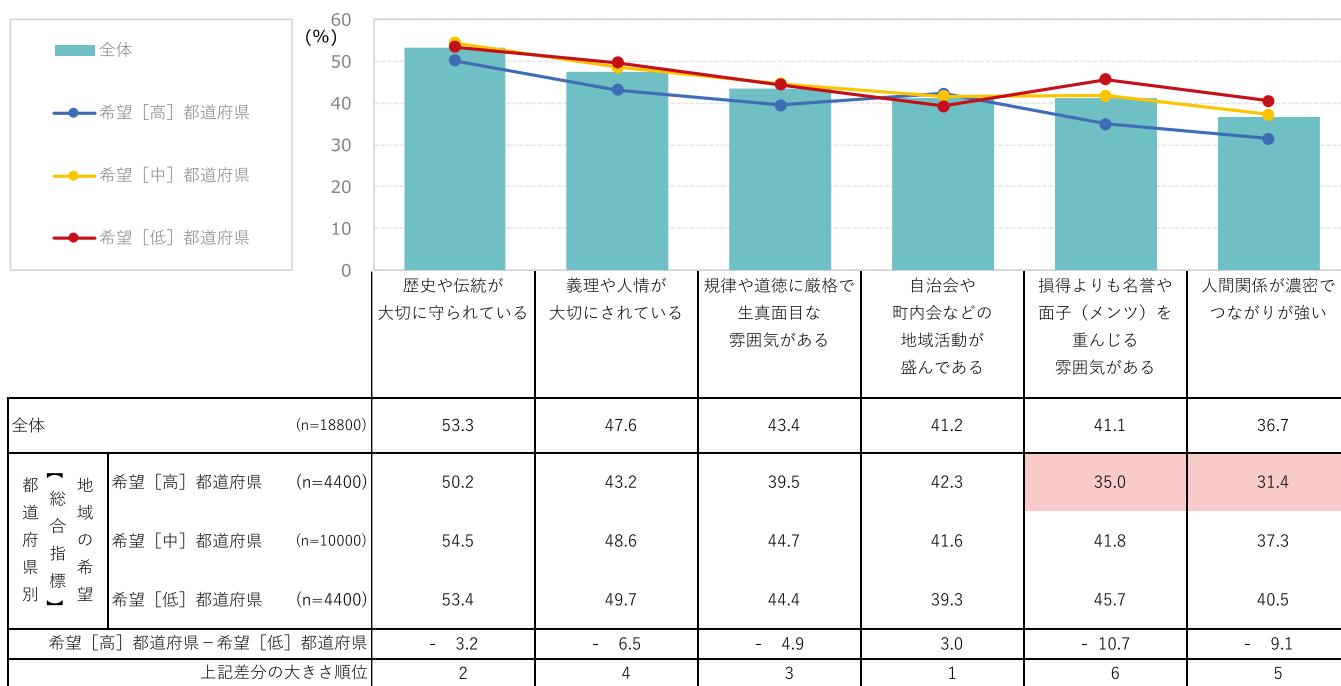
凝集性

- ▶ 「町内活動が盛んである」を除けば、地域の希望が高い都道府県の凝集性は低い
- ▶ 「損得よりも名誉や面子（メンツ）を重んじる雰囲気がある」「人間関係が濃密でつながりが強い」は、地域の希望が低い都道府県の比率が高い

- 地域の「気風や雰囲気」について凝集性を聞いた。
- 地域の凝集性について、「歴史や伝統が大切に守られている」が53%と最も高い。次いで「義理や人情が大切にされている」が48%、「規律や道徳に厳格で生真面目な雰囲気がある」が43%と続いている。
- 地域の希望【総合指標】都道府県別にみると、「自治会や町内会などの地域活動が盛んである」以外の項目では、地域の希望が高い都道府県の比率が低い。
- 地域の希望が低い都道府県ほど各項目の比率が高いが、特に「損得よりも名誉や面子（メンツ）を重んじる雰囲気がある」「人間関係が濃密でつながりが強い」が高くなっている。

■凝集性／あてはまる・計（全体／各单一回答）

現在お住まいの地域の気風や雰囲気について、あなたはどのように思いますか。あてはまるものをお選びください。



※全体値より10pt以上高い数値 ■／5pt以上高い数値 □／5pt以上低い数値 ▲／10pt以上低い数値 ■で網掛け

※全体値の降順ソート

Q16

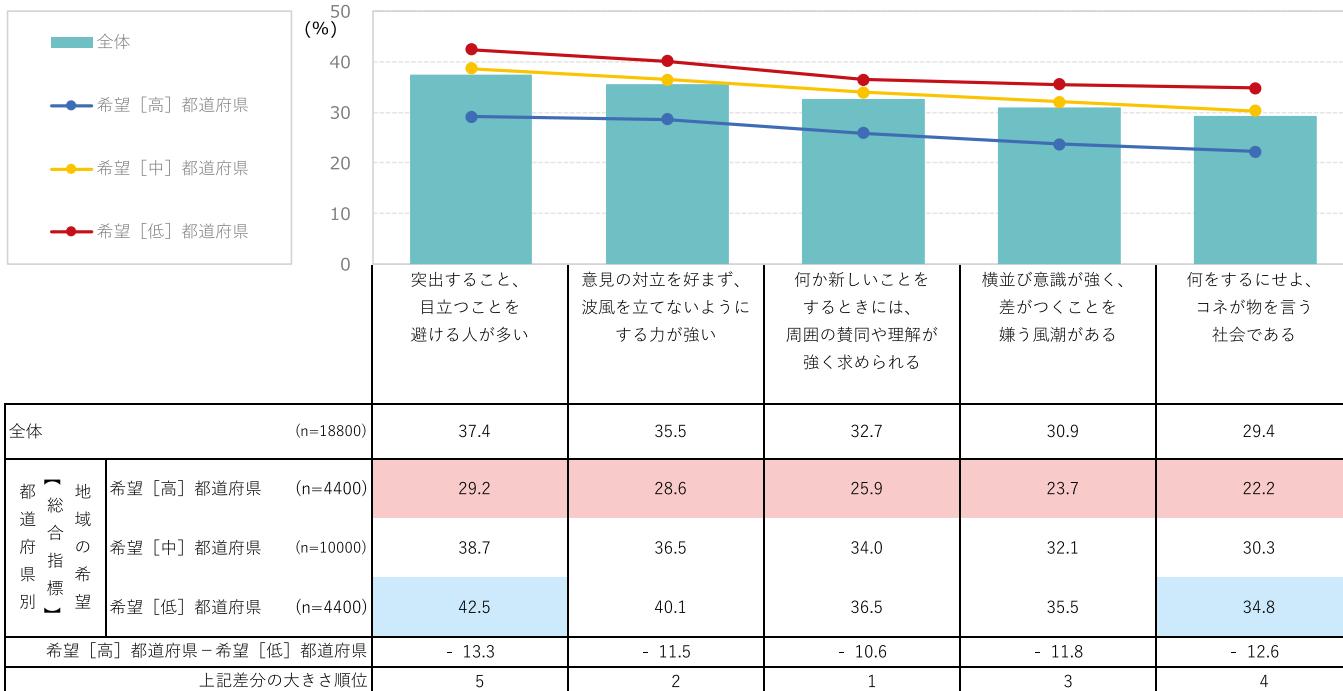
同調圧力

▶ 地域の希望が低い都道府県であるほど同調圧力に関する項目の比率が高い

- ・地域の人々について同調圧力を聞いた。
- 地域の同調圧力について、「突出すること、目立つことを避ける人が多い」が37%と最も高い。次いで「意見の対立を好まず、波風を立てないようにする力が強い」が36%、「何か新しいことをするときには、周囲の賛同や理解が強く求められる」が33%と続いている。
- 地域の希望【総合指標】都道府県別には、すべての項目において、地域の希望が低い都道府県ほど比率が高くなっている。

■同調圧力／そう思う・計（全体／各单一回答）

あなたが住んでいる地域についてお聞きします。あなたの地域の人々は、以下の項目についてどの程度あてはまるかお答えください。



※全体値より10pt以上高い数値■/5pt以上高い数値■/5pt以上低い数値■/10pt以上低い数値■で網掛け

Q21

生活領域別満足度

▶ 地域の生活環境について満足度が高いのは、「自然に親しむ環境」「近隣の居住環境」「気候・風土」

▶ 「自然に親しむ環境」以外、すべて地域の希望が高い都道府県の比率が高い

- ・地域の「生活環境」について評価を聞いた。

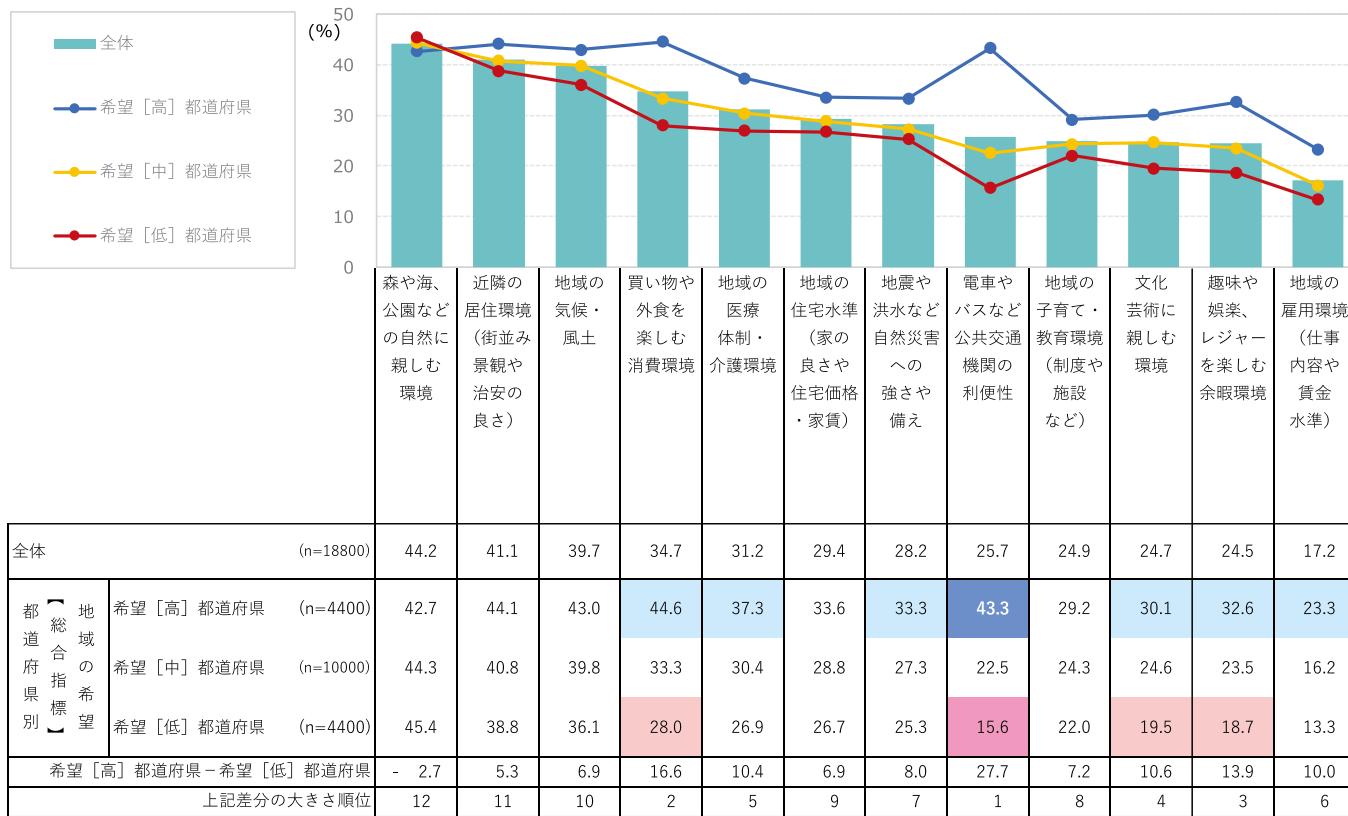
○ 生活領域別環境評価について、「森や海、公園などの自然に親しむ環境」が44%と最も高い。次いで「近隣の居住環境（街並み景観や治安の良さ）」が41%、「地域の気候・風土」が40%と続いている。

○ 地域の希望【総合指標】都道府県別には、地域の希望が高い都道府県ほど全般的に高評価であるが、特に以下の項目で希望【高】都道府県と希望【低】都道府県との差が大きい。

- ・「電車やバスなど公共交通機関の利便性」
- ・「買い物や外食を楽しむ消費環境」
- ・「趣味や娯楽、レジャーを楽しむ余暇環境」
- ・「文化芸術に親しむ環境」
- ・「地域の医療体制・介護環境」
- ・「地域の雇用環境（仕事内容や賃金水準）」

■生活領域別環境評価／満足・計（全体／各单一回答）

以下にあげる、あなたのお住まいの地域の生活環境について、あなたはどの程度評価していますか。



※全体値より10pt以上高い数値■/5pt以上高い数値■/5pt以上低い数値■/10pt以上低い数値■で網掛け

Q18

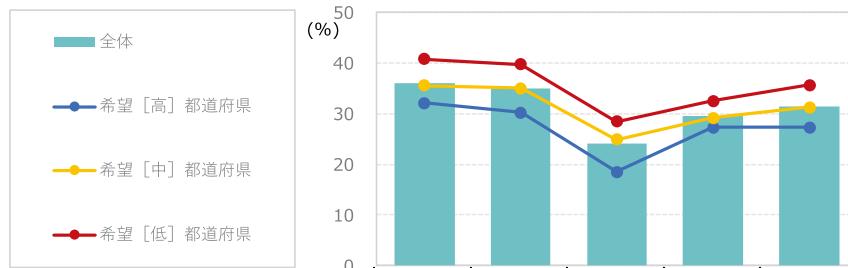
現在の格差認識

- ▶ 「全体的にみた社会の格差」が「大きい」と認識する者は3割を超える
- ▶ 地域の希望が低い都道府県であるほど「格差が大きい」と考える者の比率が高い

- ・地域の「格差」について認識状況を聞いた。
- 地域の格差への認識について、「全体的にみた社会の格差」は31%。領域別では、「生まれた家庭環境による格差」が36%と最も高い。次いで「若者と高齢者の世代間の格差」が35%、「個人の能力や努力による格差」が30%、「性別による格差」が24%と続いている。
- 加重平均でみると、「全体的にみた社会の格差」は0.27。それを上回るのは「生まれた家庭環境による格差」「若者と高齢者の世代間の格差」となっており、「個人の能力や努力による格差」「性別による格差」は若干下回る。
- 地域の希望【総合指標】都道府県別には、いずれも地域の希望が低い都道府県ほど全般的に比率が高い傾向がみられる。地域の希望が高い都道府県では「性別による格差」が全体に比べて低い。

■格差認識／大きい・計（全体／各単一回答）

あなたが住んでいる地域についてお聞きします。以下にあげる項目は、現在どのような状態だと思いますか。



加重平均				
生まれた家庭環境による格差	若者と高齢者の世代間の格差	性別による格差	個人の能力や努力による格差	全体的にみた社会の格差
0.32	0.32	0.12	0.23	0.27
0.26	0.25	0.03	0.20	0.20
0.31	0.32	0.13	0.23	0.27
0.40	0.40	0.18	0.28	0.34
- 0.14	- 0.15	- 0.15	- 0.08	- 0.14
2	4	4	1	2

※全体値より10pt以上高い数値■／5pt以上高い数値■／5pt以上低い数値■／10pt以上低い数値■で網掛け

Q22

10年後の格差予想

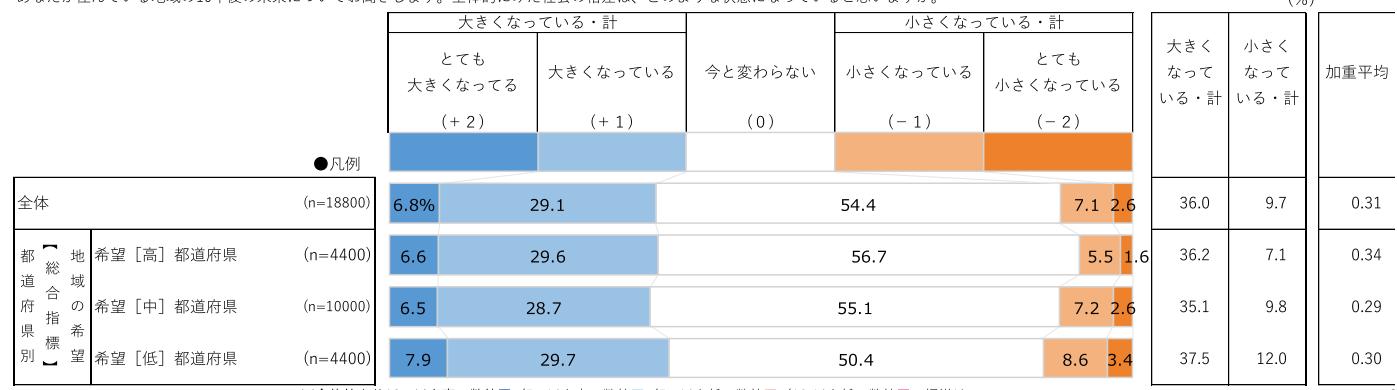
- ▶ 地域の10年後の格差は「大きくなる」と予想する者は36%
- ▶ 地域の希望が低い都道府県の（10年後の格差が）「大きくなっている・計」の比率は最も高いが、希望の水準との明確な関係はみられない

・地域の10年後の未来について、全体的にみた社会の格差は大きくなっていると思うか小さくなっていると思うかを聞いた。

- 地域の10年後の格差予想について、「大きくなっている・計」は36%、「小さくなっている・計」は10%。加重平均は0.31。
- 地域の希望【総合指標】都道府県別には、地域の希望が低い都道府県で「大きくなっている・計」が最も高く、中程度の都道府県で最も低い。
- 「小さくなっている・計」の比率は地域の希望が高い都道府県ほど低くなる傾向がみられる。加重平均は地域の希望が高い都道府県が最も高く、他の都道府県は同程度となっている。

■格差予想（全体／単一回答）

あなたが住んでいる地域の10年後の未来についてお聞きします。全体的にみた社会の格差は、どのような状態になっていると思いますか。



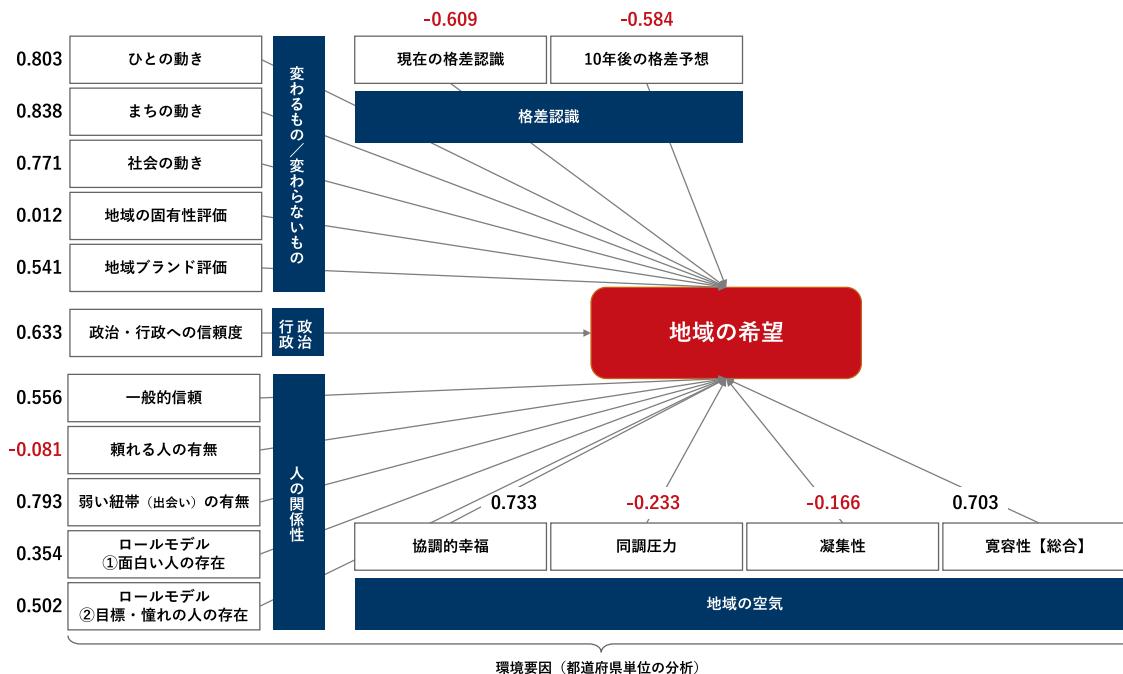
地域の希望とその“源泉”との相関

地域の希望 総合指標		地方の希望の“源泉”													
		変わるもの／変わらないもの					政治・行政への信頼		人の関係性						
		「ひとの動き」 評価	「まちの動き」 評価	「社会の動き」 評価	地域の固有性 評価	地域ブランド 評価	政治・行政への 信頼度	一般的信頼	頼れる人の有無						
データ定義→		4つの設問の 合成指標	「ひとの動き」に 関する15項目（5 段階回答）の加重 平均値（Top5点→ 2nd4点・・・）の合 算値	「まちの動き」に 関する15項目（5 段階回答）の加重 平均値（Top5点→ 2nd4点・・・）の合 算値	「社会の動き」に 関する15項目（5 段階回答）の加重 平均値（Top5点→ 2nd4点・・・）の合 算値	「地域の固有性」 に関する15項目（5 段階回答）の加重 平均値（Top5点→ 2nd4点・・・）の合 算値	「地域のブランド 評価」に関する4 項目（5段階回 答）の「よくあ てはまる」+「あて はまる」の合算値	政治・行政を「と ても信頼してい る」+「ある程度 信頼できる」の 比率	地域住民の「信 頼」度について、 「とても信頼でき る」+「ある程度 信頼できる」の比 率	「頼れる人」が 「いる」+「多分 いる」の比率					
全体	18800	11.61	順位	220.2	順位	243.5	順位	371.8	順位	587.0	順位	105.3	順位	31.7	順位
北海道	400	11.56	25	252.7	7	301.0	8	395.3	11	619.3	19	145.2	6	28.0	42
青森県	400	10.72	45	188.1	40	189.5	42	329.5	43	646.0	15	117.6	15	28.3	40
岩手県	400	11.39	35	193.6	34	242.6	22	373.0	25	692.8	8	113.5	19	31.3	21
宮城県	400	12.12	7	233.5	15	306.6	5	415.4	6	759.4	2	144.1	7	32.5	16
秋田県	400	10.29	47	159.6	47	173.6	46	317.2	47	596.3	21	82.4	36	27.0	44
山形県	400	10.90	44	192.4	36	221.6	31	363.1	28	621.6	17	90.6	31	27.3	43
福島県	400	11.64	20	212.0	24	229.5	27	373.8	24	552.4	31	91.8	30	29.3	34
茨城県	400	11.47	29	204.7	29	214.2	34	331.8	40	457.6	43	83.4	35	29.0	37
栃木県	400	11.61	21	208.7	28	221.1	32	353.2	32	499.5	39	82.1	37	30.3	30
群馬県	400	11.57	24	216.3	22	191.3	41	337.8	37	462.7	42	71.9	44	29.5	32
埼玉県	400	12.08	10	222.2	21	250.6	19	378.2	20	398.3	47	76.3	40	30.8	25
千葉県	400	11.77	17	210.5	25	225.6	29	352.1	34	402.2	46	76.8	39	31.0	22
東京都	400	12.41	3	299.2	3	311.2	3	439.9	2	416.9	45	115.6	16	37.8	4
神奈川県	400	12.40	4	265.0	5	309.4	4	436.4	4	523.5	37	138.0	9	36.5	7
新潟県	400	10.94	43	178.1	44	222.0	30	345.2	35	577.3	26	86.6	34	33.0	14
富山県	400	11.41	31	187.1	41	214.9	33	375.3	23	575.6	27	87.8	33	33.0	14
石川県	400	11.89	13	249.0	9	285.6	12	392.9	12	771.0	1	141.3	8	29.0	37
福井県	400	11.34	36	195.8	33	211.2	35	338.7	36	555.4	30	67.6	45	34.3	11
山梨県	400	11.29	38	212.3	23	206.4	36	378.5	19	579.6	25	93.1	28	30.0	31
長野県	400	11.68	18	250.8	8	263.6	15	399.3	10	692.7	9	122.9	13	33.5	12
岐阜県	400	11.33	37	179.5	42	202.3	37	337.5	38	496.7	40	73.7	42	26.3	46
静岡県	400	11.79	16	197.8	31	229.1	28	352.8	33	620.1	18	115.4	17	29.3	34
愛知県	400	12.21	5	226.0	18	291.6	10	409.5	7	493.7	41	101.8	23	36.8	6
三重県	400	11.53	27	179.0	43	178.3	44	324.7	45	523.8	36	91.9	29	28.3	40
滋賀県	400	12.10	9	236.0	12	254.1	18	367.7	27	609.4	20	89.6	32	32.3	18
京都府	400	11.94	12	258.4	6	295.3	9	403.0	9	709.6	4	170.8	1	30.8	25
大阪府	400	12.17	6	234.0	14	288.1	11	385.6	14	449.4	44	102.6	22	43.8	1
兵庫県	400	12.11	8	209.1	26	270.3	13	383.6	15	580.5	24	133.7	11	38.0	3
奈良県	400	11.67	19	192.0	37	200.5	39	326.6	44	549.0	32	100.8	24	30.8	25
和歌山県	400	11.25	39	175.7	45	187.1	43	331.4	41	538.8	34	77.8	38	29.5	32
鳥取県	400	11.12	41	192.6	35	200.8	38	381.0	16	558.3	29	73.7	42	33.5	12
島根県	400	11.40	33	232.1	16	235.6	24	360.7	29	712.7	3	113.6	18	31.0	22
岡山県	400	11.61	21	226.7	17	234.6	26	359.5	31	565.1	28	100.0	25	32.0	20
広島県	400	11.97	11	237.9	10	304.2	6	406.7	8	658.4	11	129.6	12	37.0	5
山口県	400	11.13	40	171.1	46	174.3	45	322.2	46	542.6	33	74.0	41	29.3	34
徳島県	400	10.70	46	190.9	38	163.7	47	337.4	39	511.4	38	50.6	47	23.5	47
香川県	400	11.56	25	237.8	11	249.9	20	376.0	21	580.7	23	96.4	26	32.3	18
愛媛県	400	11.41	31	224.0	19	256.8	17	371.5	26	705.0	5	102.8	21	35.8	9
高知県	400	11.10	42	223.1	20	264.4	14	385.9	13	657.2	12	135.3	10	30.5	28
福岡県	400	12.53	2	316.8	2	351.3	2	439.6	3	649.6	13	151.1	3	39.5	2
佐賀県	400	11.44	30	188.8	39	196.5	40	331.2	42	537.9	35	66.0	46	30.5	28
長崎県	400	11.40	33	203.6	30	243.0	21	375.9	22	700.3	7	146.8	4	28.8	39
熊本県	400	11.87	14	196.2	32	256.9	16	380.6	18	638.0	16	118.1	14	32.5	16
大分県	400	11.51	28	235.8	13	236.4	23	359.7	30	680.7	10	105.9	20	26.5	45
宮崎県	400	11.61	21	209.0	27	235.1	25	380.7	17	591.6	22	93.5	27	36.0	8
鹿児島県	400	11.80	15	273.7	4	304.1	7	420.4	5	701.0	6	145.4	5	31.0	22
沖縄県	400	13.12	1	393.5	1	377.5	1	446.4	1	648.6	14	166.8	2	35.0	10
地域の希望総合 指標との 相関係数		0.781		0.816		0.745		-0.027		0.541		0.629		0.538	
														-0.115	

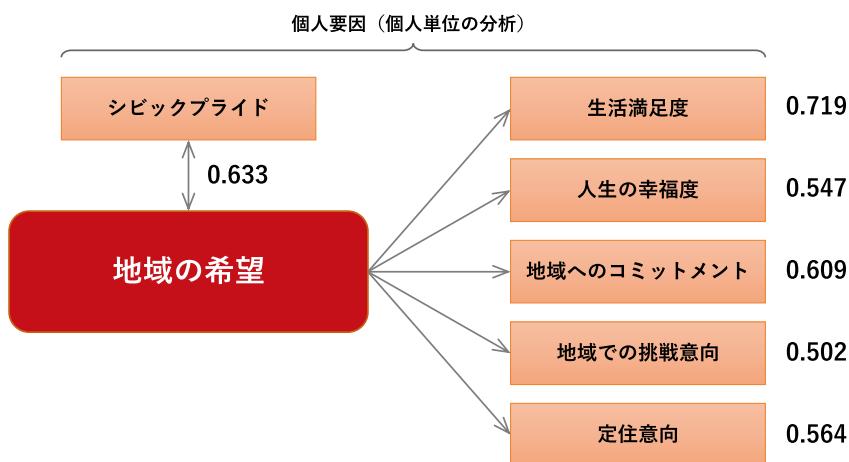
			地域の“空気”								格差認識		
弱い紐帯 (出会い) の有無	ロールモデル ①「面白い人」 の存在	ロールモデル② 「目標、憧れる 人」の存在	寛容性 【総合】		協調的幸福		凝集性		同調圧力		現在の格差認識		10年後の 格差予想
「新しい人と出会う機会」が「多い」+「やや多い」の比率	「生き方が面白い」人が「いる」+「いそうだ」の比率	「目標としたい」「憧れる」人が「いる」+「いそうだ」の比率	寛容性12指標の平均値	協調的幸福9指標の5段階回答の加重平均値(Top5点→2nd4点・・・)の合算値	「凝集性」に関する6項目(4段階回答)の加重平均値(Top5点→2nd4点・・・)の合算値	「同調圧力」に関する5項目(5段階回答)の加重平均値(Top5点→2nd4点・・・)の合算値	「現在の格差認識」に関する5項目(5段階回答)の加重平均値(Top5点→2nd4点・・・)の合算値	「10年後の全体的にみた社会の格差」が「とても大きくなっている」+「大きくなっている」の比率					
11.2	順位	24.7	順位	18.6	順位	45.4	順位	309.0	順位	263.3	順位	226.6	順位
12.0	15	28.5	20	19.0	16	51.2	7	301.8	28	171.2	47	197.2	47
7.5	46	28.3	22	14.0	46	40.2	43	284.4	43	269.6	20	253.1	20
10.5	27	27.8	24	23.0	2	44.0	26	305.8	25	302.6	6	269.1	4
13.8	5	30.8	11	22.0	6	48.8	10	301.7	29	241.7	36	249.9	28
7.8	45	29.0	16	16.3	38	38.4	46	298.0	33	279.7	15	251.2	25
8.8	41	25.5	37	17.5	29	40.0	44	269.3	47	322.4	2	274.9	2
9.5	35	27.8	24	16.3	38	43.1	30	302.8	27	274.3	17	250.0	27
10.5	27	30.8	11	16.5	36	48.0	15	291.5	38	216.4	43	232.1	43
12.3	12	28.8	18	16.3	38	45.2	23	292.2	37	244.0	34	244.2	38
9.8	32	32.0	7	15.8	44	47.0	16	298.5	32	251.8	31	248.8	31
9.8	32	32.3	5	14.0	46	53.1	4	328.0	10	212.3	44	232.0	44
13.3	6	31.3	8	18.3	25	52.0	6	297.1	34	190.1	46	213.1	46
16.3	2	33.3	2	19.0	16	56.2	1	357.5	2	207.6	45	227.1	45
15.0	4	31.0	9	20.5	11	56.1	2	331.5	5	220.8	41	236.3	41
8.0	44	27.8	24	17.0	35	45.3	22	299.7	30	267.9	23	254.4	17
9.5	35	25.8	36	19.5	15	41.1	40	287.9	41	300.7	8	267.7	7
12.3	12	29.5	15	19.8	14	44.1	25	311.2	21	303.6	5	269.1	4
11.3	20	21.8	46	20.5	11	39.4	45	315.7	13	315.7	3	269.9	3
9.8	32	24.0	42	16.5	36	42.1	36	294.1	35	295.4	10	259.9	11
10.0	30	22.8	45	18.8	20	42.1	37	291.5	38	306.6	4	267.8	6
9.3	37	32.3	5	16.0	42	43.9	27	283.9	45	245.0	33	246.0	36
9.0	39	27.5	29	17.3	31	45.6	19	306.2	24	266.6	26	256.1	13
11.5	19	32.8	3	19.0	16	49.8	9	313.0	20	240.5	37	249.0	30
7.3	47	30.3	14	16.0	42	45.4	20	299.3	31	239.5	38	246.2	34
10.8	25	27.3	31	17.5	29	45.9	18	323.9	12	266.9	24	254.6	15
11.0	22	24.3	41	21.3	8	48.6	13	339.2	3	280.6	13	261.6	10
12.5	10	31.0	9	18.5	22	53.4	3	327.6	11	220.4	42	234.6	42
11.0	22	27.8	24	21.0	9	52.4	5	330.0	7	235.7	40	244.9	37
11.0	22	27.8	24	16.3	38	48.7	11	313.7	18	262.4	27	254.6	15
8.8	41	26.8	34	17.3	31	42.5	33	330.0	7	248.7	32	243.2	39
9.0	39	26.8	34	22.3	3	40.7	42	292.9	36	300.2	9	262.4	9
11.8	17	23.8	43	21.5	7	38.1	47	284.0	44	339.4	1	289.6	1
13.3	6	32.5	4	17.3	31	45.3	21	308.6	23	243.1	35	246.1	35
13.3	6	27.5	29	20.8	10	48.4	14	329.4	9	256.4	30	252.9	21
9.3	37	23.0	44	18.5	22	43.2	29	315.0	15	269.4	21	252.6	23
8.8	41	25.5	37	17.3	31	40.8	41	304.4	26	238.6	39	240.1	40
10.3	29	28.5	20	17.8	27	42.8	32	313.3	19	261.7	28	253.4	19
12.0	15	24.8	39	18.3	25	42.4	34	314.6	17	278.3	16	255.3	14
11.3	20	28.0	23	19.0	16	46.6	17	291.4	40	268.6	22	247.8	33
15.8	3	33.8	1	22.3	3	50.9	8	336.2	4	266.7	25	256.2	12
10.0	30	27.3	31	18.5	22	41.4	39	279.5	46	280.4	14	248.1	32
12.5	10	27.0	33	18.8	20	43.1	31	315.7	13	270.9	19	249.4	29
12.3	12	30.5	13	15.3	45	43.6	28	309.7	22	272.1	18	251.6	24
10.8	25	28.8	18	17.8	27	44.3	24	284.9	42	256.9	29	252.9	21
11.8	17	24.5	40	22.3	3	42.1	35	314.7	16	286.2	12	253.9	18
13.3	6	21.8	46	20.5	11	41.8	38	331.2	6	302.0	7	264.0	8
20.5	1	29.0	16	27.5	1	48.7	12	374.8	1	290.2	11	251.2	25
0.787		0.392		0.466		0.718		0.707		-0.263		-0.189	
										-0.609		-0.584	

地域の希望・モデル仮説と相関係数

▶ 地域の希望とその“源泉”との相関係数

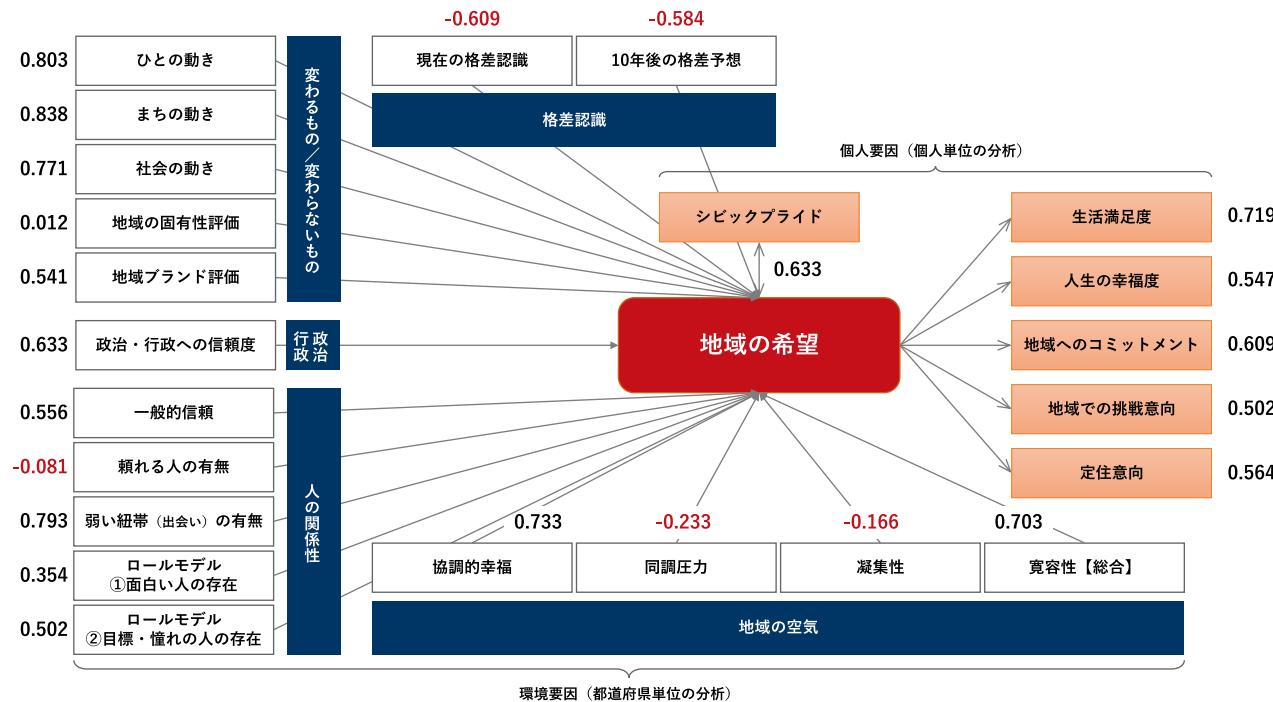


▶ 地域の希望とその“効果”との相関係数



地域の希望・モデル仮説と相関係数

▶ 地域の希望・モデル仮説と相関係数〈統合〉



視座と手続き

▶ 人口減少は、地域の希望に大きく影響する

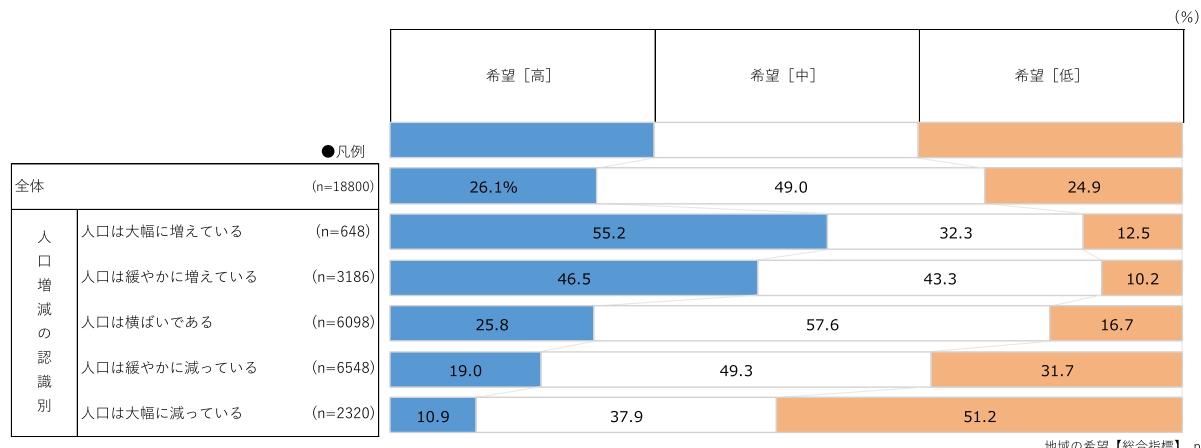
● 前章まで、地域の希望が様々な要因の影響を受けていることを確認した。そのポイント（地域の希望を向上させる要因）は以下のようなものだった。

- ・変化（ひと・まち・社会）が重要
 - ※【ひとの動き】外国人居住者や観光客、県外からの移住者、若者や子育て世代の増加など
 - ※【まちの動き】建物の増加、公共施設の整備、若者向けのスポットやおしゃれな人の増加など
 - ※【社会の動き】DX関連項目が高いこと（一方でGX関連項目の重要度は低い）
 - ※【固有性】中心街のビル・マンション群、賑やかな商店街・繁華街など都市部的要素
- ・政治・行政の領域の関心・信頼・評価が高いことが大事
 - ※【政治・行政】関心も信頼度も評価も高いこと
 - ※【人の関係性】人への信頼感が強く、新しい人との出会いが多いこと
- ・地域の空気
 - ※【寛容性】寛容性は高いことが重要。特に【家族】【個人】【若者】領域が高いこと
 - ※【凝集性】凝集性（「損得より名譽・面子（メンツ）が大事」など）が低いこと
 - ※【同調圧力】同調圧力が低いこと
 - ※【格差】現在の格差が少ないと

● しかし、上記の結果が都市部の影響を受けていることもまた確かである。人口が増えないまでも維持され、雇用環境も良く街が賑わい、同調圧力も低めでありながら政治・行政の信頼度が高い、といった要素が多分に含まれている。

● 中でも、人口増減（の認識）の影響は大きい。人口増減と地域の希望の高さには強烈な相関関係がある。

■ 人口増減の認識別・地域の希望【総合指標】個人



視座と手続き

▶ 認識だけではなく、実際の人口増減も地域の希望に大きな影響を及ぼしている

	総人口 【人】		人口増減数 【人】	人口増減率 [%]	自然増減数 【人】	自然増減率 [%]	社会増減数 【人】	社会増減率 [%]	地域の希望 総合指標		
	出典	住民基本台帳に基づく人口、 人口動態及び世帯数調査									
年	2023年	2018年									
全体	125,416,877	順位	127,707,259	順位	-2,290,382	順位	-1.79	順位	-2,859,127	順位	-2.24
北海道	5,139,913	8	5,339,539	8	-199,626	47	-3.74	28	-189,182	47	-3.54
青森県	1,225,497	31	1,308,707	31	-83,210	42	-6.36	46	-58,886	30	-4.50
岩手県	1,189,670	32	1,264,329	32	-74,659	40	-5.91	45	-55,833	27	-4.42
宮城県	2,257,472	14	2,312,080	14	-54,608	24	-2.36	11	-55,699	26	-2.41
秋田県	941,021	39	1,015,057	38	-74,036	39	-7.29	47	-57,364	29	-5.65
山形県	1,042,396	36	1,106,984	36	-64,588	31	-5.83	44	-47,872	20	-4.32
福島県	1,818,581	21	1,919,680	21	-101,099	43	-5.27	41	-71,685	35	-3.73
茨城県	2,879,808	11	2,951,087	11	-71,279	35	-2.42	13	-81,314	37	-2.76
栃木県	1,929,434	19	1,985,738	19	-56,304	26	-2.84	15	-52,399	24	-2.64
群馬県	1,930,976	18	1,990,584	18	-59,608	27	-2.99	20	-59,553	32	-2.99
埼玉県	7,381,035	5	7,363,011	5	18,024	3	0.24	4	-122,374	44	-1.66
千葉県	6,310,075	6	6,298,992	6	11,083	5	0.18	5	-116,101	41	-1.84
東京都	13,841,665	1	13,637,346	1	204,319	1	1.50	1	-120,780	43	-0.89
神奈川県	9,212,003	2	9,171,274	2	40,729	2	0.44	3	-127,648	45	-1.39
新潟県	2,163,908	15	2,281,291	15	-117,383	45	-5.15	39	-87,780	39	-3.85
富山県	1,028,440	37	1,069,512	37	-41,072	18	-3.84	29	-35,714	13	-3.34
石川県	1,117,303	34	1,150,398	34	-33,095	13	-2.88	18	-27,427	8	-2.38
福井県	759,777	43	790,758	43	-30,981	11	-3.92	33	-21,646	5	-2.74
山梨県	812,615	41	838,823	41	-26,208	9	-3.12	21	-25,013	6	-2.98
長野県	2,043,798	16	2,114,140	16	-70,342	34	-3.33	23	-65,593	34	-3.10
岐阜県	1,982,294	17	2,054,349	17	-72,055	37	-3.51	26	-56,484	28	-2.75
静岡県	3,633,773	10	3,743,015	10	-109,242	44	-2.92	19	-100,467	40	-2.68
愛知県	7,512,703	4	7,551,840	4	-39,137	16	-0.52	8	-77,628	36	-1.03
三重県	1,772,427	22	1,834,269	22	-61,842	28	-3.37	24	-48,964	21	-2.67
滋賀県	1,413,989	26	1,419,635	26	-5,646	6	-0.40	6	-15,175	2	-1.07
京都府	2,501,269	13	2,563,152	13	-61,883	29	-2.41	12	-59,010	31	-2.30
大阪府	8,784,421	3	8,856,444	3	-72,023	36	-0.81	9	-169,607	46	-1.92
兵庫県	5,459,867	7	5,589,708	7	-129,841	46	-2.32	10	-119,515	42	-2.14
奈良県	1,325,395	29	1,371,700	30	-46,315	21	-3.38	25	-36,644	14	-2.67
和歌山県	924,469	40	975,074	40	-50,605	22	-5.19	40	-37,465	16	-3.84
鳥取県	546,558	47	570,824	47	-24,266	7	-4.25	34	-18,270	3	-3.20
島根県	658,809	46	691,225	46	-32,416	12	-4.69	35	-26,465	7	-3.83
岡山県	1,865,478	20	1,920,619	20	-55,141	25	-2.87	17	-46,370	19	-2.41
広島県	2,770,623	12	2,848,846	12	-78,223	41	-2.75	14	-61,537	33	-2.16
山口県	1,326,218	28	1,396,197	27	-69,979	33	-5.01	37	-55,171	25	-3.95
徳島県	718,879	44	757,377	44	-38,498	15	-5.08	38	-28,845	9	-3.81
香川県	956,787	38	993,205	39	-36,418	14	-3.67	27	-30,401	10	-3.06
愛媛県	1,327,185	27	1,394,339	28	-67,154	32	-4.82	36	-51,788	23	-3.71
高知県	684,964	45	725,289	45	-40,325	17	-5.56	43	-31,721	11	-4.37
福岡県	5,104,921	9	5,130,773	9	-25,852	8	-0.50	7	-82,781	38	-1.61
佐賀県	806,877	42	833,272	42	-26,395	10	-3.17	22	-21,116	4	-2.53
長崎県	1,306,060	30	1,379,003	29	-72,943	38	-5.29	42	-44,337	17	-3.22
熊本県	1,737,946	23	1,789,184	23	-51,238	23	-2.86	16	-45,370	18	-2.54
大分県	1,123,525	33	1,169,158	33	-45,633	20	-3.90	32	-37,282	15	-3.19
宮崎県	1,068,838	35	1,112,008	35	-43,170	19	-3.88	31	-33,550	12	-3.02
鹿児島県	1,591,699	24	1,655,888	24	-64,189	30	-3.88	30	-51,787	22	-3.13
沖縄県	1,485,526	25	1,471,536	25	13,990	4	0.95	2	8,486	1	0.58
地域の希望総合指標との 相関係数				0.873		0.906		0.728			

▶ 本章では、人口が減少している（と認識している）にもかかわらず、希望を強く持つ者の特徴を分析していく

- 具体的には、以下のような手順をとって4つのセグメントを設定し、クロス集計を行った。

- ① 地域の希望【総合指標】個人のスコアを元に、地域の希望を持つ個人（「希望[高]」）と持てない個人（「希望[低]」）とに2分割。
- ② 人口増減の認識に関する設問で、「大幅に増えている」「緩やかに増えている」「横ばいである」いずれかを選択した「人口[維持・増]」層と、「緩やかに減っている」もしくは「大幅に減っている」と回答した「人口[減]」層とに2分割。
- ③ 上記①、②を組み合わせることで、下記の4セグメントを設定し、クロス集計を行う。

※人口[維持・増] × 希望[高]

※人口[維持・増] × 希望[低]

※人口[減] × 希望[高]

※人口[減] × 希望[低]

- データを読む際には、人口[減] × 希望[高]の特徴を、特に人口[減] × 希望[低]との差を確認しながら把握することとした。

地域の固有性

▶ 人口減でも地域に希望を感じる人は、自然だけでなく歴史、食（文化）、文化芸術などを高く評価

— 人口減の地域では希望の高低にかかわらず、共通して自然環境の評価が高い。

希望の高低で差が開くのは、歴史、食（文化）、「文化芸術に親しむ環境」である。

— 特に「文化芸術に親しむ環境」は、地域の希望の高い層と低い層とで最も差が大きい。

● 人口[減] × 希望[高]は、下記の項目の比率が高く、食べ物や名物・特産品など、その地域を具体的に象徴するものへの評価が特に高い。

- ・「山、海、川など心の風景とも言える自然がある」
- ・「豊かな自然に親しむ環境がある」
- ・「古くからの地域のお祭りや伝統行事がある」
- ・「古くからの歴史や伝統がある」
- ・「地酒や郷土料理など、この地域ならではの食文化がある」

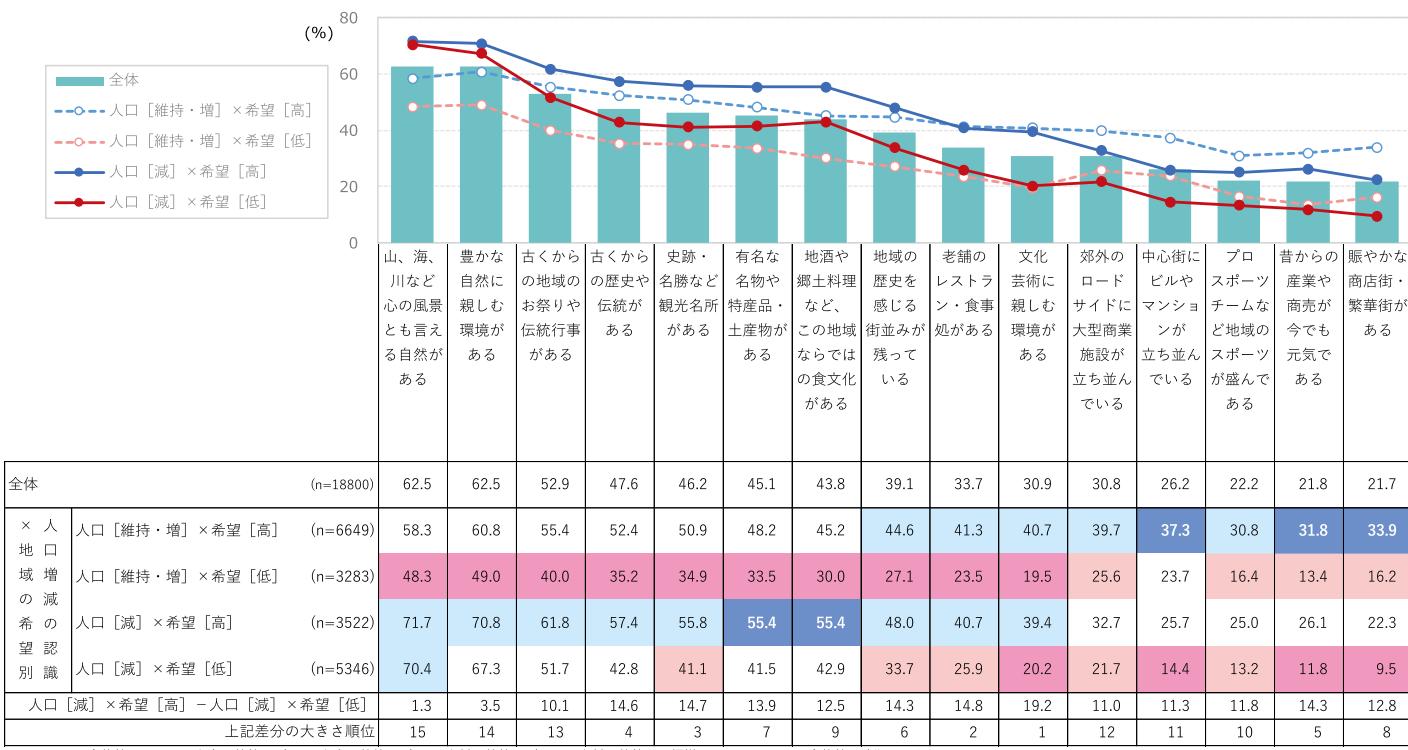
● 人口[減] × 希望[低]も「山、海、川など心の風景とも言える自然がある」は高い水準にあるが、それ以外は平均を下回っている。自然だけでなく歴史や食べ物などの評価が高くなれば希望につながらない構造になっている。

● また、人口[減] × 希望[高]と人口[減] × 希望[低]との差が最も大きいのは、「文化芸術に親しむ環境がある」である。「老舗のレストラン・食事処がある」、「史跡・名勝など観光名所がある」などの差も大きく、地域の希望にとって、ある種の文化財の有無（の認識）が重要であることがうかがえよう。

● なお、人口[維持・増] × 希望[高]は、自然に関する項目以外の項目すべてで平均値を上回っている。「中心街にビルやマンションが立ち並んでいる」「賑やかな商店街・繁華街がある」といった都市部特有の項目に加え、「老舗のレストラン・食事処がある」「地域の歴史を感じる街並みが残っている」「昔からの産業や商売が今でも元気である」など、食文化や歴史、産業の継続性などを高く評価している。

■ 「固有性」評価／あてはまる・計（全体／各単一回答）

以下のことは、あなたのお住まいの地域にどの程度あてはまりますか。



※全体値より10pt以上高い数値 ■/5pt以上高い数値 ▲/5pt以上低い数値 ▼/10pt以上低い数値 ■で網掛け

※全体値の降順ソート

Q1_p

ひとの動き

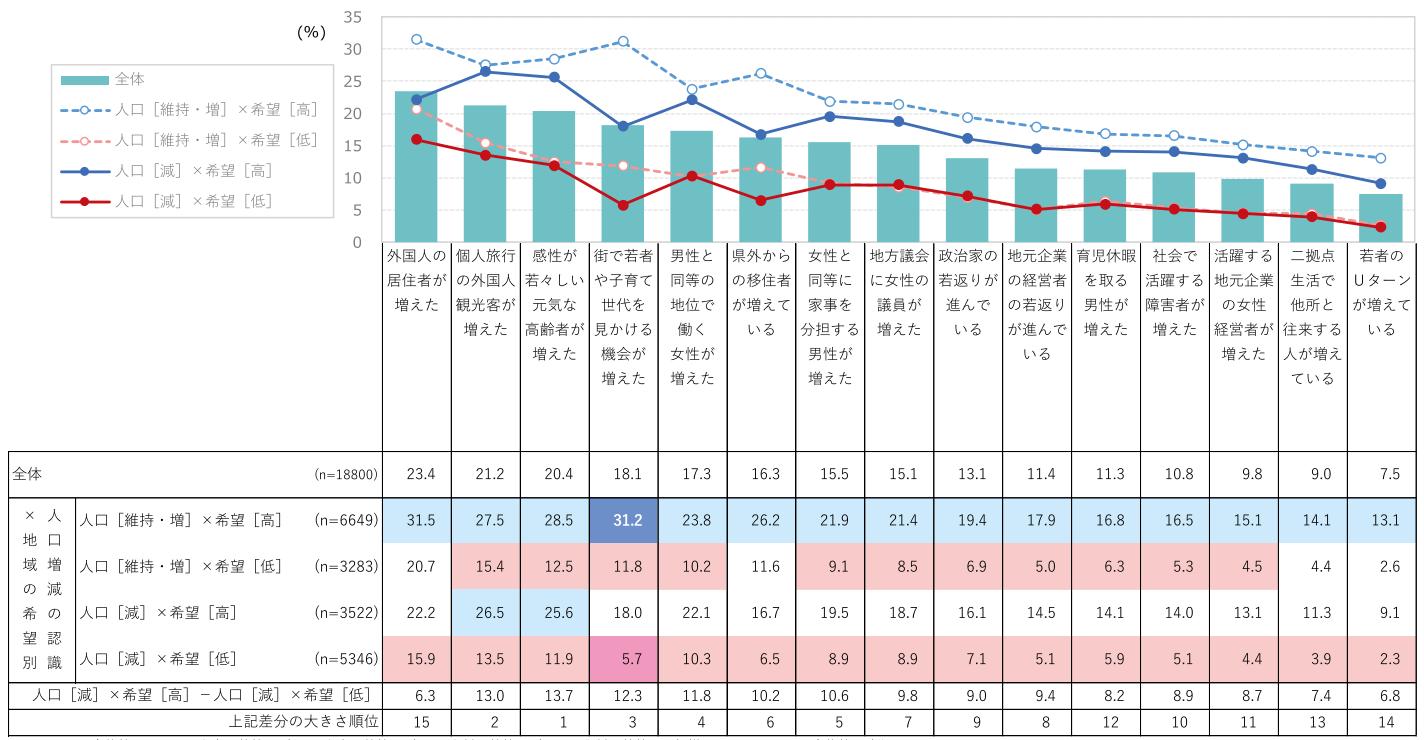
▶ ジェンダー平等、リーダー層の若返り、多様性担保が地域の希望に影響

——「個人旅行の外国人観光客が増えた」、「感性が若々しい元気な高齢者が増えた」も重要

- 人口[減]×希望[高]の比率は、すべての項目で人口[維持・増]×希望[高]に次いで高水準。
- 人口[減]×希望[高]は、「個人旅行の外国人観光客が増えた」「感性が若々しい元気な高齢者が増えた」が特に高い。この2項目は、人口[減]×希望[低]との差も大きく、地域の希望にとって重要な要素であると考えられる。
- また、比率の水準自体は低いが、「男性と同等の地位で働く女性が増えた」「女性と同等に家事を分担する男性が増えた」などのジェンダー平等に関する項目や、「政治家の若返りが進んでいる」「地元企業の経営者の若返りが進んでいる」といったリーダー層の若返りに関する項目、「社会で活躍する障害者が増えた」の多様性担保に関する項目の比率が相対的に高い。
 - ・人口[減]×希望[低]との差も大きい。
 - ・一方で、「外国人の居住者が増えた」「県外からの移住者が増えている」などは平均前後に留まる。
- つまり、「ひとの動き」については、ジェンダー平等、リーダー層の若返り、多様性担保などが地域の希望に大きい影響を与えていいるといえるだろう。

■ 「ひとの動き」評価／あてはまる・計（全体／各単一回答）

以下のことは、昨今の（ここ5、6年の）あなたのお住まいの地域にどの程度あてはまりますか。



※全値より10pt以上高い数値 ■ 5pt以上高い数値 ▲ 5pt以上低い数値 ▼ 10pt以上低い数値 ■ で網掛け

※全値の降順ソート

Q2_P

まちの動き

▶ 人口減でも、公共空間、子育てに関する行政施策、街づくりのイベント、個性ある個店・施設の存在などが希望を引き上げる

- ほとんどの項目で、人口[維持・増]×希望[高]の評価が高い。また、人口[減]×希望[高]の比率もほとんどの項目で人口[維持・増]×希望[高]に次ぐ。
- 人口[減]×希望[高]は、人口[減]×希望[低]と比べて下記項目で15ポイント以上上回る。

- ・「道路や公園などみんなが楽しめる公共の場所が整備されてきた」
- ・「街づくりのためのイベントやプロジェクトが開催されるようになった」
- ・「子育て支援の施設やサービスが充実してきた」
- ・「子連れでも気兼ねなく楽しめるお店や場所が増えた」
- ・「地域の知名度やブランドイメージが上がってきた」
- ・「リノベーションしたおしゃれなお店や施設が増えた」
- ・また、人口[減]×希望[高]の「地元にクラフトビール醸造所ができた」の比率は、人口[維持・増]×希望[高]よりも高くなっている。
- ・「まちの動き」では、公共空間、子育てに関する行政施策、まちづくりのイベント、個性ある個店・施設などが、地域の希望に大きく影響しているといえそうだ。

■ 「まちの動き」評価／あてはまる・計（全体／各单一回答）

昨今の（ここ5、6年の）あなたのお住まいの地域について、以下のような実感がありますか。どの程度あてはまるかお答えください。



※全体値より10pt以上高い数値■／5pt以上高い数値■／5pt以上低い数値■／10pt以上低い数値■で網掛け

※全体値の降順ソート

Q3_p

社会の動き

▶ DX、GXの進展は地域の希望を押し上げるが、特にGX領域は重要

- 人口【減】×希望【高】は、多くの項目で人口【維持・増】×希望【高】と並んで高水準である。「太陽光パネルを備えた住宅が増えた」「地元の食材を積極的に使う飲食店が増えた」などは、人口【維持・増】×希望【高】よりも高い。
- 人口【減】×希望【高】と人口【減】×希望【低】とを比較すると、以下の4項目について人口【減】×希望【高】の比率が15ポイント以上高い。上位3項目がGX関連である点に注目したい。
 - ・「地元の食材を積極的に使う飲食店が増えた」
 - ・「リサイクルやリユースなど環境問題への取り組みが増えた」
 - ・「SDGsという言葉を身近に感じるようになった」
 - ・「役所の情報がスマートフォンで入手しやすくなった」
- なお、人口【維持・増】×希望【低】の「SDGsという言葉を身近に感じるようになった」、「地元の食材を積極的に使う飲食店が増えた」「新築住居を買うのではなくリフォームやリノベーションをする人が増えた」「太陽光パネルを備えた住宅が増えた」など、GXに関する項目は、人口【減】×希望【低】よりも低く最下位である。DXが進展しても、GXが立ち遅れると地域の希望を引き下げる可能性があるということだろう。

■「社会の動き」評価／あてはまる・計（全体／各單一回答）

昨今の（ここ5、6年の）あなたのお住まいの地域について、以下のような実感がありますか。どの程度あてはまるかお答えください。



※全体値より10pt以上高い数値■/5pt以上高い数値■/5pt以上低い数値■/10pt以上低い数値■で網掛け

※全体値の降順ソート

Q4_p

政治・行政へのスタンス：関心・信頼・評価

▶ 政治・行政の関心・信頼・評価とも、地域の希望に明確な影響

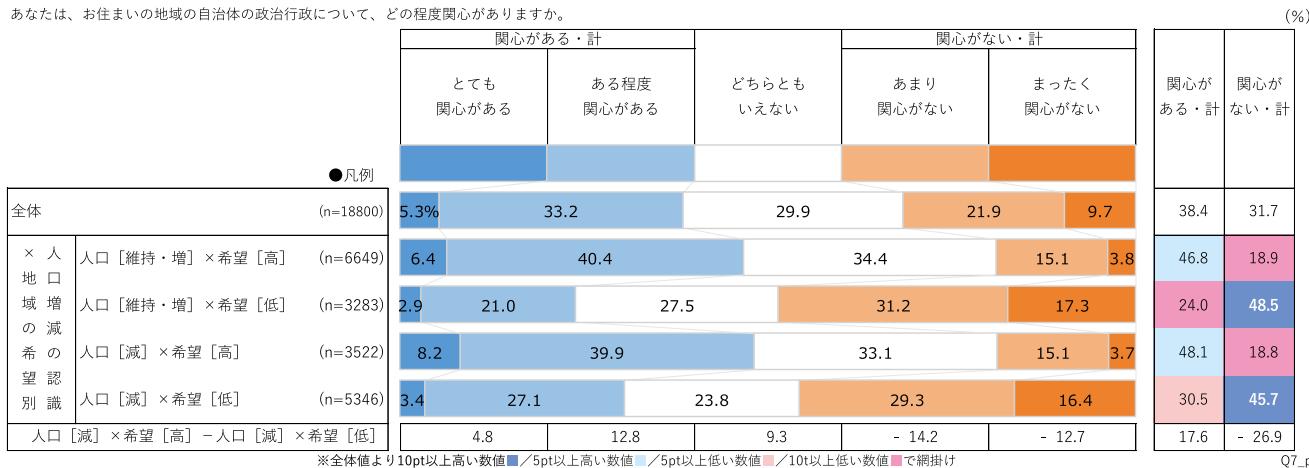
——「丁寧な情報発信」「市民の声をよく聞いた政策」「地域の未来ビジョン発信」がカギ

- ・「政治・行政の関心」「政治・行政の詳細評価」について聞いた。

- 人口[維持・増] × 希望[高]と人口[減] × 希望[高]の、政治・行政に対する「関心がある・計」が4割台後半であり、「関心がない・計」を大きく上回る。地域の希望が低い層との差が顕著である。
- 「政治・行政の詳細評価」も、人口[維持・増] × 希望[高]と人口[減] × 希望[高]の「感じる・計」が軒並み高い。特に、「市民に向けた情報発信が丁寧で熱心である」「市民の声をよく聞いて政策に反映している」「地域の未来に対するビジョンを明確に打ち出している」などは、人口[減] × 希望[高]と人口[減] × 希望[低]との差が大きい。
- おそらく上記の結果として、「政治・行政の総合信頼度」も、人口[維持・増] × 希望[高]と人口[減] × 希望[高]の「感じる・計」の比率が他2層よりも高い。

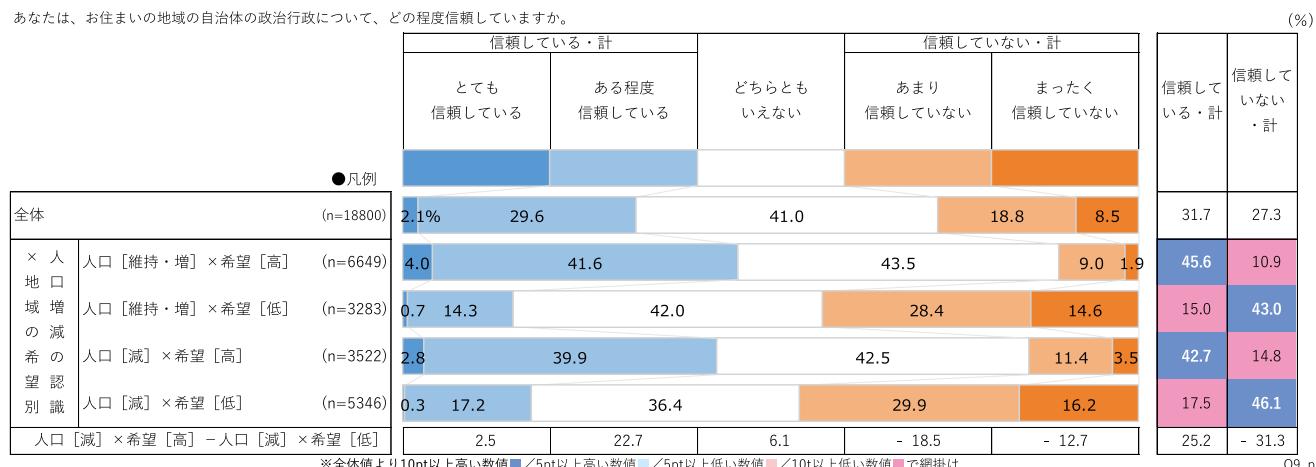
■ 政治・行政の関心（全体／単一回答）

あなたは、お住まいの地域の自治体の政治行政について、どの程度関心がありますか。



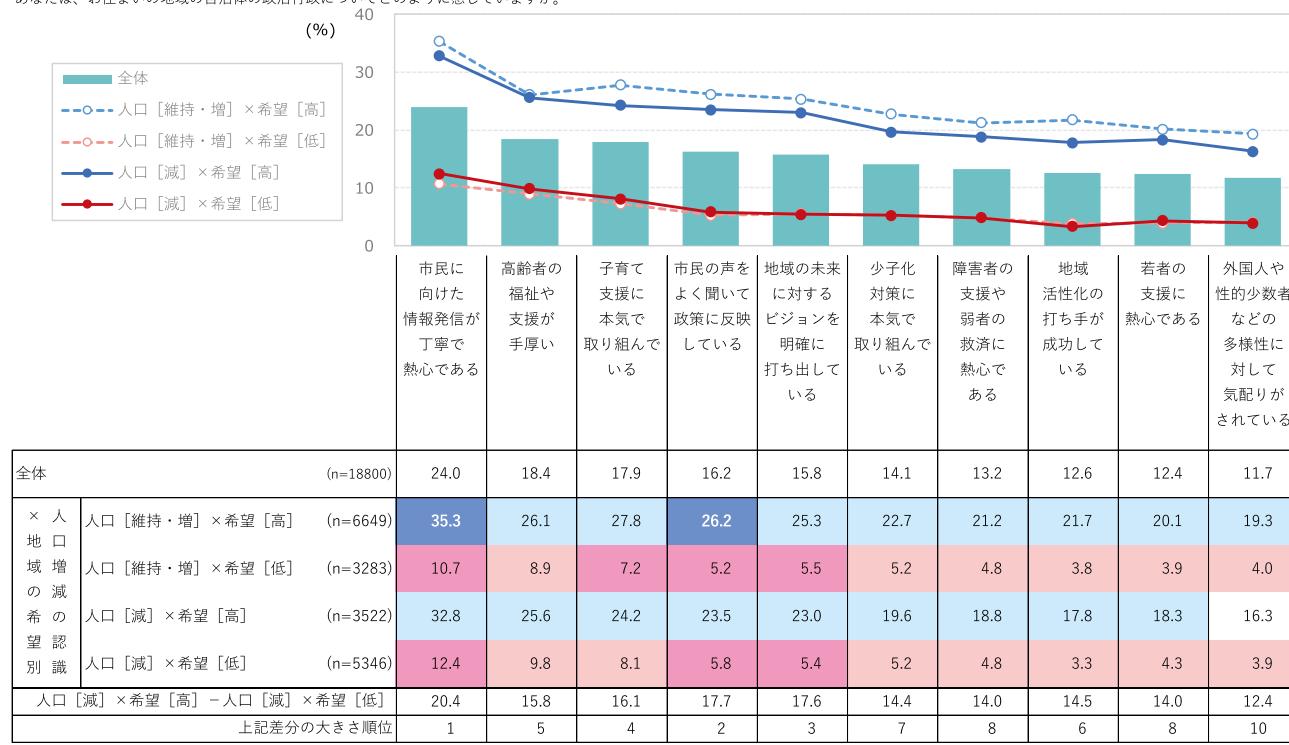
■ 政治・行政の総合信頼度（全体／単一回答）

あなたは、お住まいの地域の自治体の政治行政について、どの程度信頼していますか。



■政治・行政の詳細評価／感じる・計（全体／各单一回答）

あなたは、お住まいの地域の自治体の政治行政についてどのように感じていますか。



希望の“源泉”

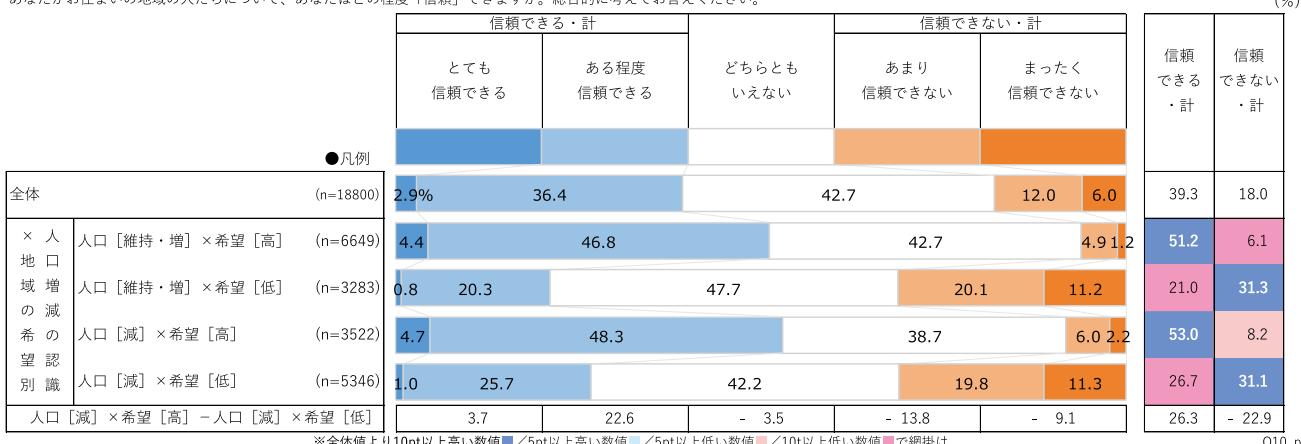
人の関係性：一般的の信頼・頼れる人・弱い紐帯（出会い）

▶ 人への信頼・頼れる人の存在・新たな人の出会いが地域の希望を担保する

- 一般的信頼について、人口[減]×希望[高]は人口[維持・増]×希望[高]よりも高い。
- 「頼れる人の有無」の「いる・計」も、人口[減]×希望[高]がトップ。
 - 人口[減]×希望[高]は「信頼できない・計」も最も低い。
- 人口[減]×希望[高]の弱い紐帯（新しい人の出会い）は、人口[維持・増]×希望[高]に次ぐ。
 - 人口[減]×希望[高]と人口[減]×希望[低]の「多い・計」の差は10ポイント程度である。

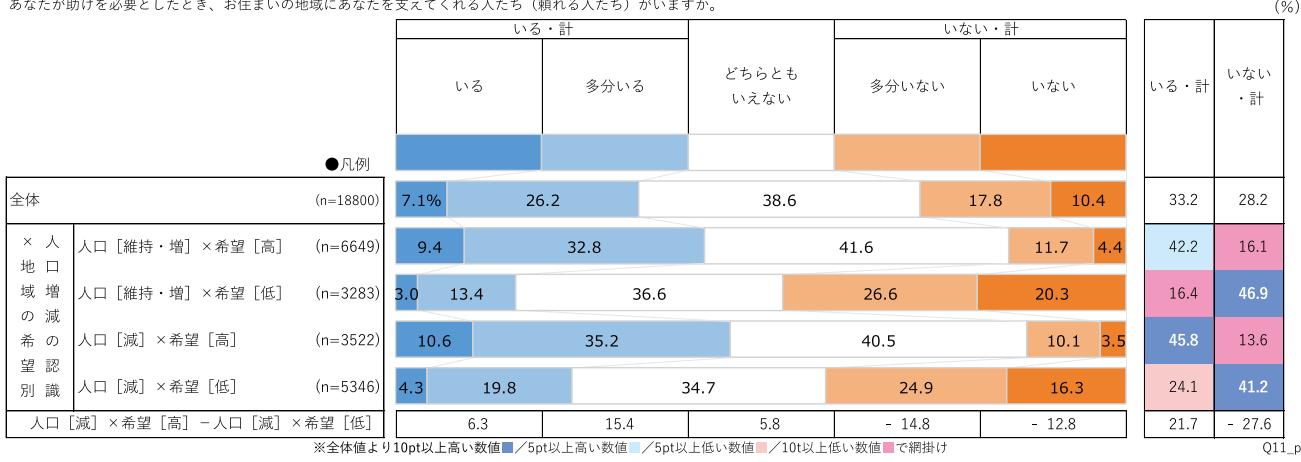
■一般的の信頼：人（全体／單一回答）

あなたがお住まいの地域の人たちについて、あなたはどの程度「信頼」できますか。総合的に考えてお答えください。



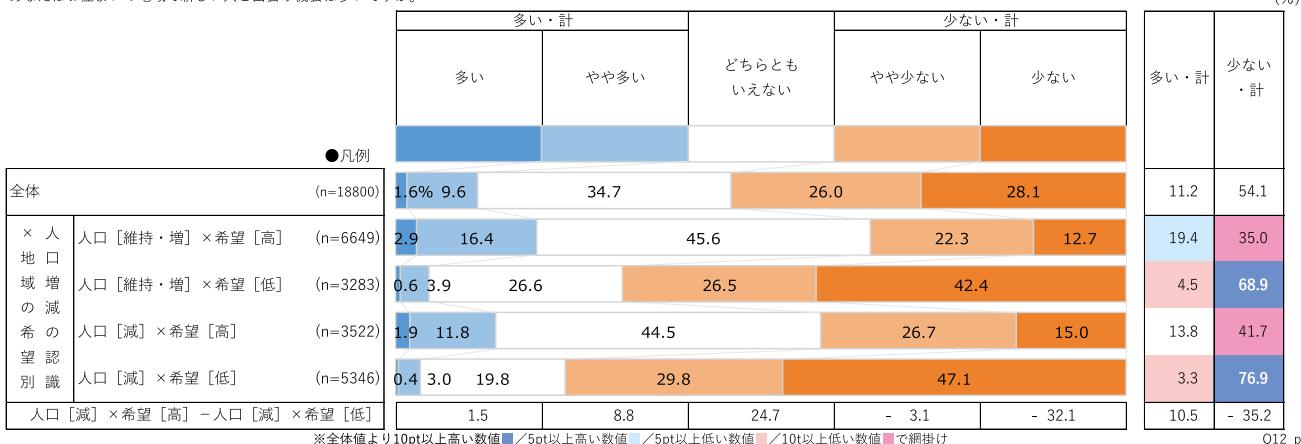
■頼れる人の有無（全体／單一回答）

あなたが助けを必要としたとき、お住まいの地域にあなたを支えてくれる人たち（頼れる人たち）がいますか。



■弱い紐帯の有無（全体／單一回答）

あなたがお住まいの地域で新しい人と会う機会は多いですか。



希望の“源泉”

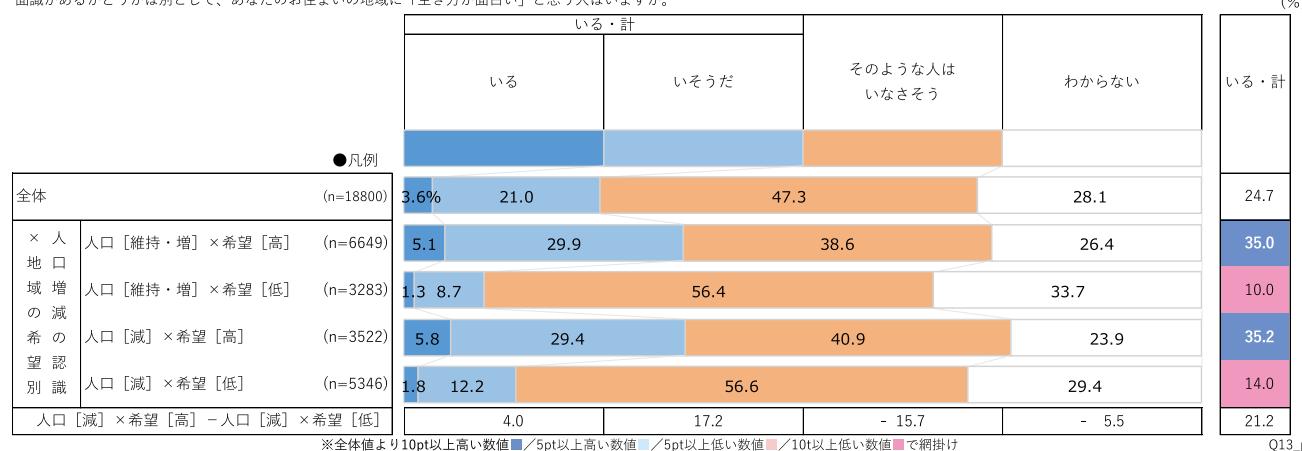
人への信頼：ロールモデルの有無

▶ 「生き方が面白い」、「目標としたい、憧れる」人の存在は、希望に効く

- 「生き方が面白い」人の「いる・計」のトップは、人口[減] × 希望[高]。
- 人口[減] × 希望[高]は、「目標としたい、憧れる」の「いる・計」も人口[維持・増] × 希望[高]に次ぐ高水準。
- いずれの項目も、人口[減] × 希望[高]と人口[減] × 希望[低]との差は20ポイント前後である。

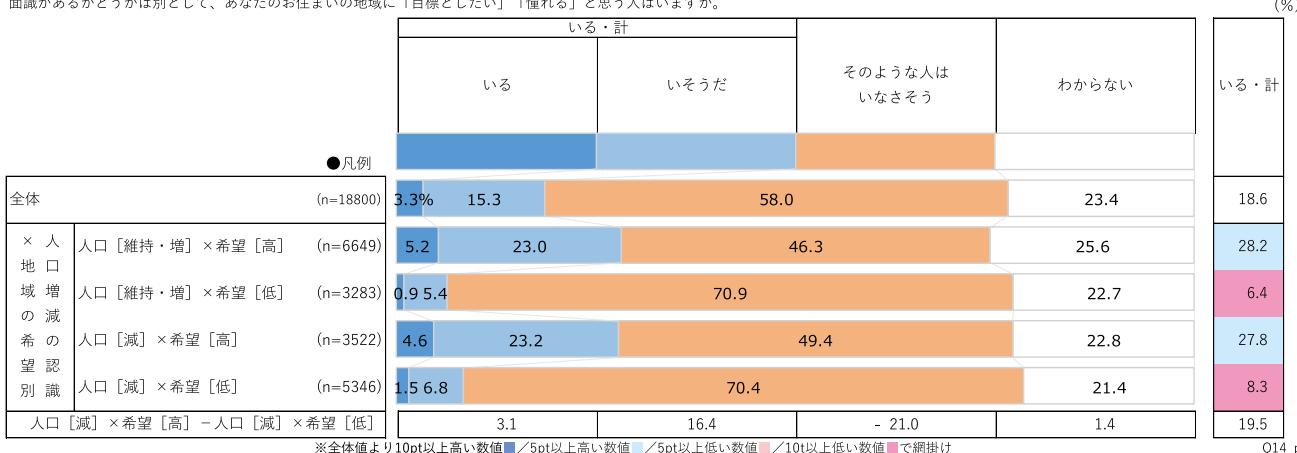
■ ロールモデルの有無①「面白い人」（全体／単一回答）

面識があるかどうかは別として、あなたのお住まいの地域に「生き方が面白い」と思う人はいますか。



■ ロールモデルの有無②「目標、憧れる人」（全体／単一回答）

面識があるかどうかは別として、あなたのお住まいの地域に「目標としたい」「憧れる」と思う人はいますか。



寬容性指標

▶ 地域の寛容性（特に【若者】【変化】への寛容性）は希望に大きな影響を与える

- ・地域の「気風や社会の雰囲気のイメージ」について聞き、寛容性を測定・指標化した。LIFULL HOME'S 総研の過去2回のレポートと同じ方法、つまり6つの因子のデータから寛容性【総合】指標を算出している。
 - 寛容性【総合】は、人口【維持・増】×希望【高】が最も高いが、人口【減】×希望【高】がそれに次ぐ。人口が減少していると感じている人の希望に、寛容性は大きな影響を及ぼしていることがわかる。
 - 6つの因子のうち【個人】因子以外は、人口【減】×希望【高】のスコアが人口【維持・増】×希望【低】のスコアを上回っている。うち、【若者】と【変化】の2因子は人口【減】×希望【高】のスコアが相対的に高く、人口【維持・増】×希望【高】に迫る水準であり、かつ人口【減】×希望【低】との差が大きい項目である。
 - ・「若者の挑戦を応援」し、「リスクテイクして新しいことに挑戦する」雰囲気があり、「年長者に逆らえない」「成功者の足を引っ張る」風潮が弱いことが、より重要だということだ

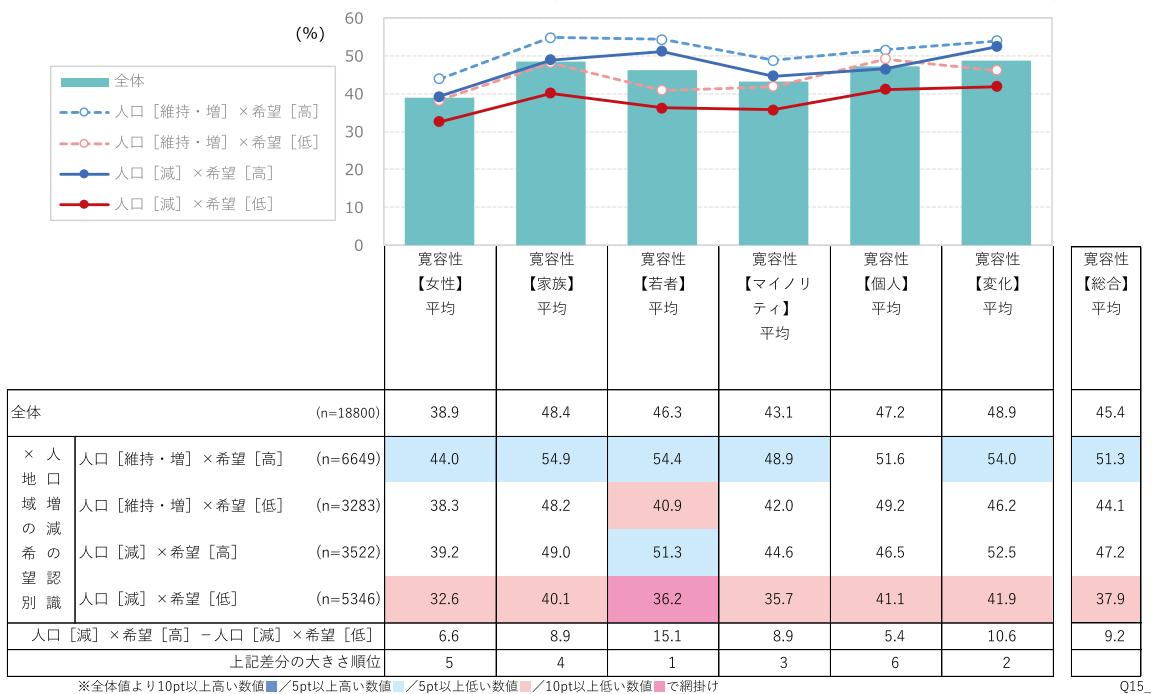
※ 實容性の測定設問・選択肢は以下の通りである

※スクア宮中にあり、その半屋に（一）のある選択肢については「あまりあてはまらない」「全然あてはまらない」と回答した者の比率を用いている

因子	選択肢
女性	結婚して子どもを持つことこそ女性の幸福だと考える人が多い（-）
	政治や経済の場面で活躍している女性が多い
家族	年齢が来れば結婚して家庭を持つのが当たり前という考え方強い（-）
	結婚しないで独身で生きてても肩身の狭い思いをすることはない
若者	若者は年長者の言うことに逆らえない空気がある（-）
	若者の挑戦を応援する風潮がある
マイノリティ	相手の出自（出身地、血縁関係など）を気にする人が多い（-）
	人種差別やマイノリティ差別に繊細な注意を払う人が多い
個人	場の空気を読まず己の主張をしがちな人は疎まれる（-）
	他人のことにはあまり干渉しない雰囲気がある
変化	成功している人を批判して足を引っ張る風潮がある（-）
	リスクをとって新しい試みに挑戦する人が尊敬される

■寛容性指標【周囲】ポジ・ネガ調整後「ポジ計」（全体／各单一回答）

あなたがお住まいの地域の気風や社会の雰囲気にはどのようなイメージをお持ちですか。以下にあげる項目について、それぞれどの程度あてはまるかお答えください。



希望の“源泉”

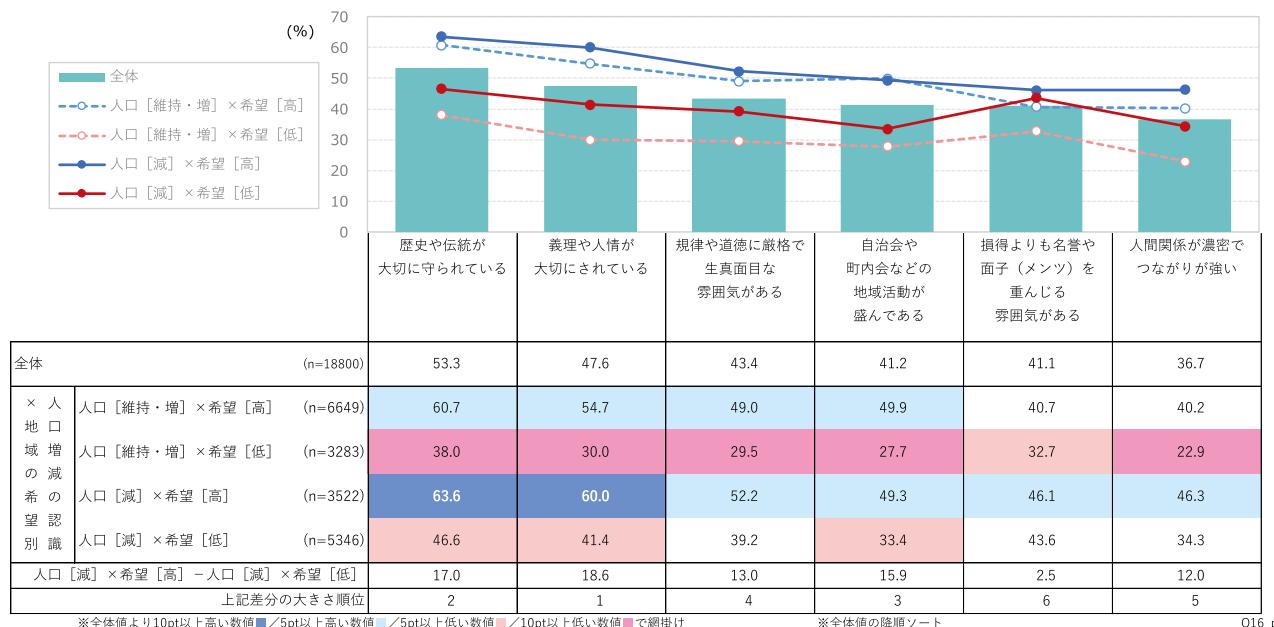
凝聚性・同調圧力

▶ 凝聚性（ある種の保守性）が高く、同調圧力がそれほど強くないことがカギ

- 凝聚性について、人口【減】×希望【高】の「歴史や伝統が大切に守られている」「義理や人情が大切にされている」の比率が、どの層よりも高い点が注目される。また、その他の項目も総じて比率が高く、「損得よりも名誉や面子（メンツ）を重んじる雰囲気がある」以外は、人口【減】×希望【低】との差も大きい。
- 前章までの都道府県別の分析結果（地域の希望【総合指標】が高い都道府県の凝聚性は低い）とは異なる結果である。少なくとも個人ベースでは、「人口減少下でも希望を持つ個人は、周囲の凝聚性が高い」と認識している人が多いのである。
- では、同調圧力についてはどうか。
- どの項目も、人口【減】×希望【高】の比率は人口【減】×希望【低】を下回る。つまり同調圧力を感じる人が少ないということである。
- ただし、人口【減】×希望【高】の各項目の比率は、人口【維持・増】の2層よりも高く、同調圧力が低いとまでは言い切れない点には注意を要する。

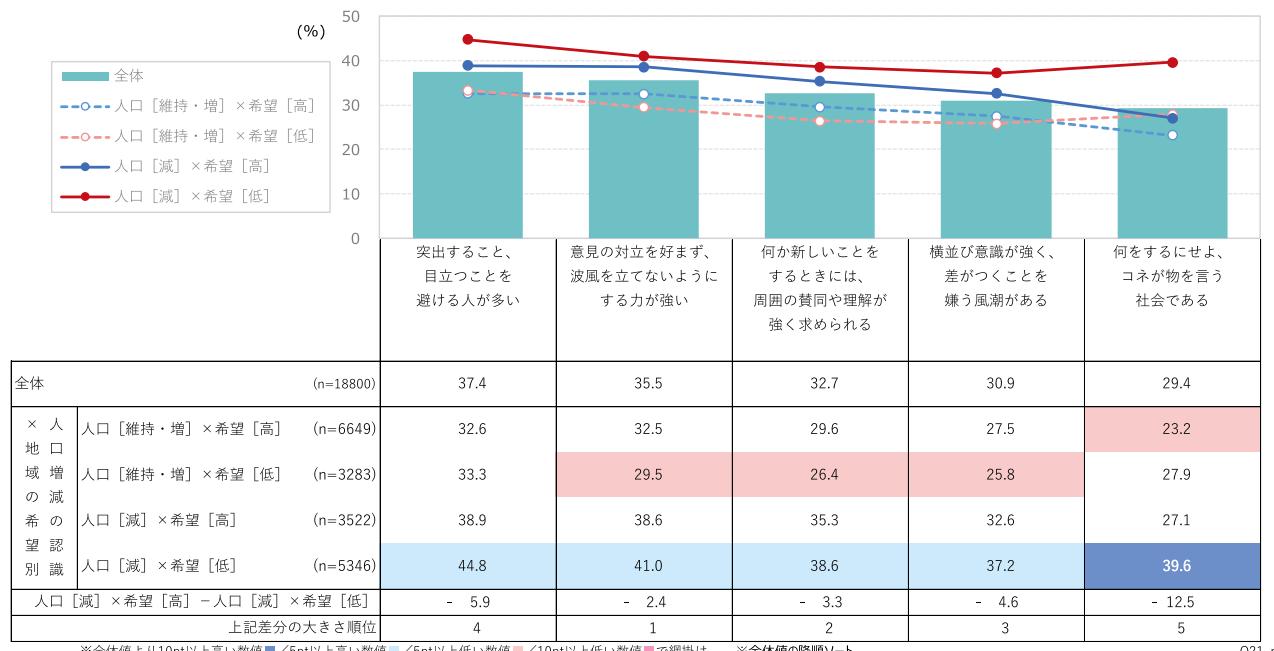
■凝聚性／あてはまる・計（全体／各単一回答）

現在お住まいの地域の気風や雰囲気について、あなたはどのように思いますか。あてはまるものをお選びください。



■同調圧力／そう思う・計（全体／各単一回答）

あなたが住んでいる地域についてお聞きします。あなたの地域の人々は、以下の項目についてどの程度あてはまるかお答えください。



希望の“源泉”

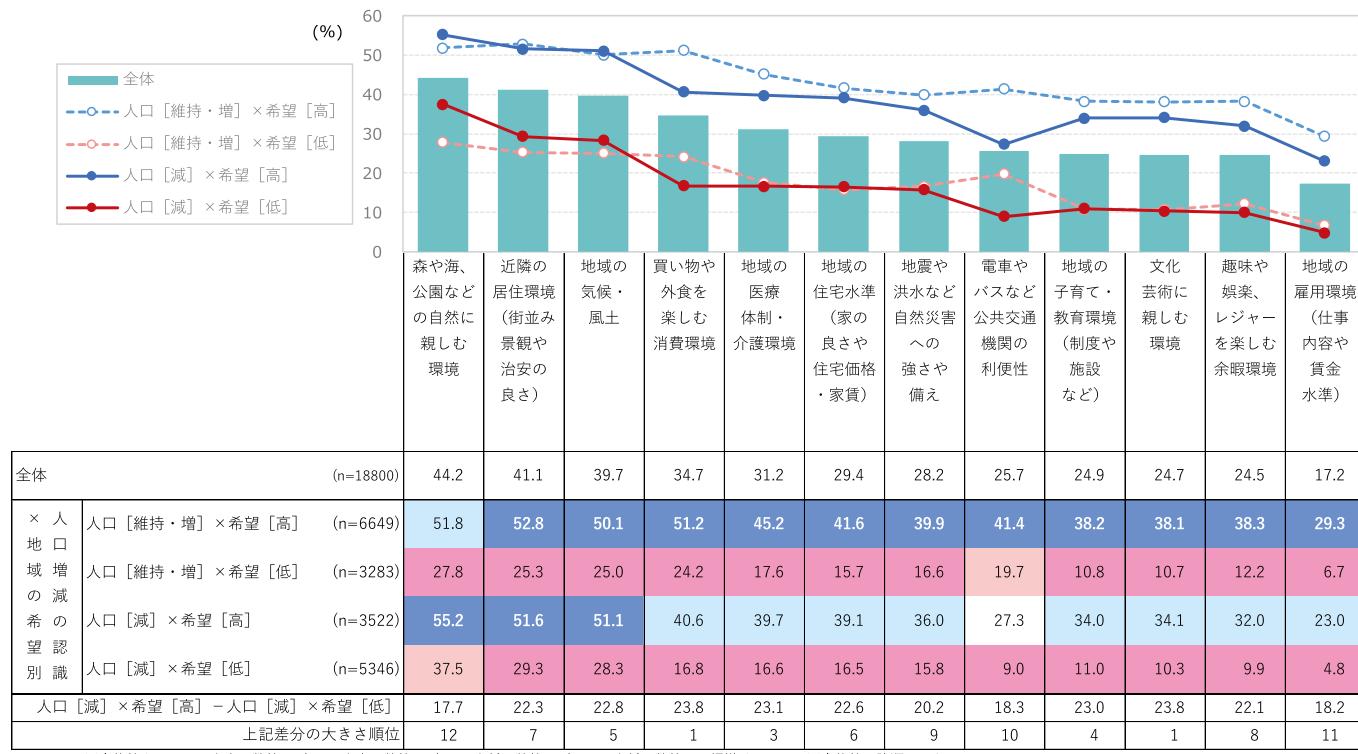
生活領域別満足度

▶ 人口減でも希望が高い人は、自然や気候・風土に満足したうえで、文化・芸術、消費、医療・介護、子育てなどの環境を評価

- ほとんどの領域において、人口[減] × 希望[高] の比率は人口[維持・増] × 希望[高] に次ぐ水準である。特に以下の項目は、全体値を10ポイント以上上回り、人口[減] × 希望[低]との差も大きい。
 - ・「森や海、公園などの自然に親しむ環境」
 - ・「近隣の居住環境(街並み景観や治安の良さ)」
 - ・「地域の気候・風土」
- そのうえで、人口[減] × 希望[高] と人口[減] × 希望[低] の差が最も大きいのは以下のようない項目である。
 - ・「文化芸術に親しむ環境」
 - ・「買い物や外食を楽しむ消費環境」
 - ・「地域の医療体制・介護環境」
 - ・「地域の子育て・教育環境(制度や施設など)」
- まずその地域の自然や気候・風土、居住環境に満足しており、そのうえで文化・芸術、消費、医療・介護環境、子育て環境などの評価が高いことが、人口減少でも希望を持つためのポイントである。

■生活領域別環境評価／満足・計（全体／各单一回答）

以下にあげる、あなたのお住まいの地域の生活環境について、あなたはどの程度評価していますか。



※全体値より10pt以上高い数値 ■ / 5pt以上高い数値 ■ / 5pt以上低い数値 ■ / 10pt以上低い数値 ■ / 網掛け

※全体値の降順ソート

Q18_p

希望の“源泉”

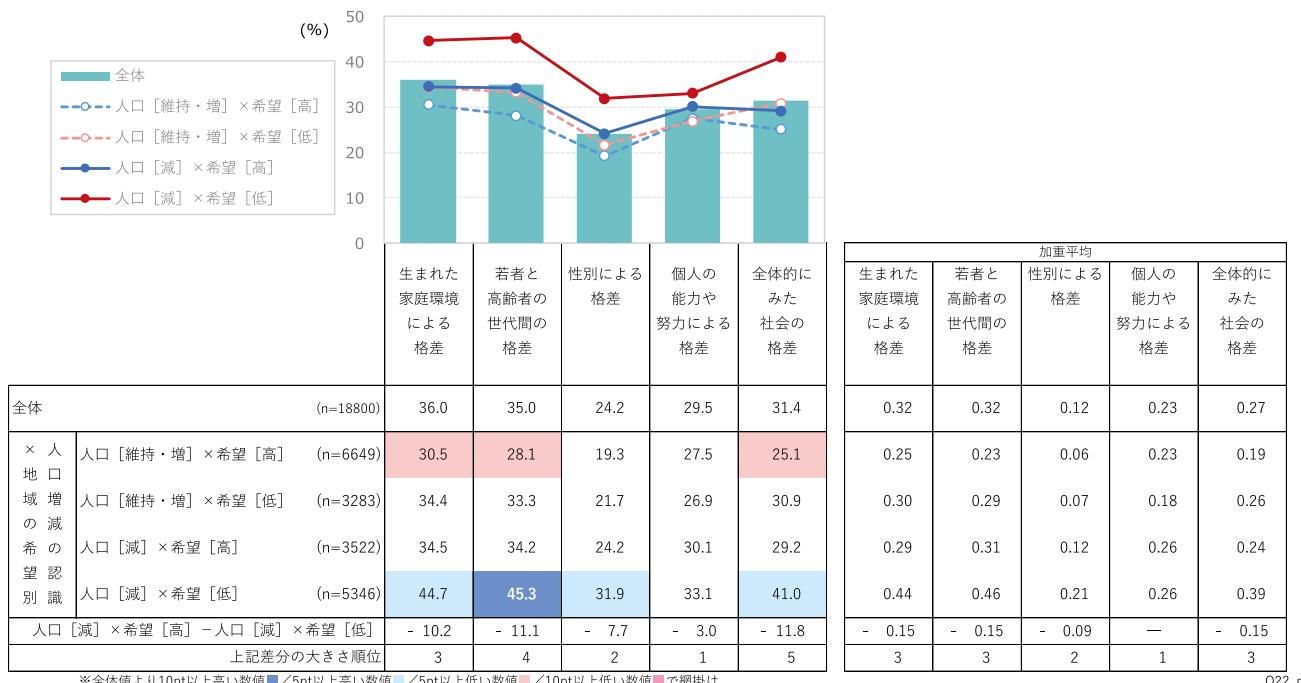
現在の格差認識・10年後の格差予想

▶ 現在の格差認識がなるべく少なく、10年後の予想格差が小さいことが重要

- 現在の格差認識については、すべての項目で人口[減]×希望[低]の比率が最も高い。
 - ・人口[減]×希望[高]も、人口[維持・増]の2層と比べると格差認識は高めである。
- 人口[減]×希望[高]と人口[減]×希望[低]との差をみると、総合指標でもある「全体的にみた社会の格差」の差が最も大きいが、具体的には「若者と高齢者の世代間の格差」「生まれた家庭環境による格差」の差が10ポイント以上あり、大きいことがわかる。
- 格差予想(10年後の「全体的にみた社会の格差」)についても、人口[減]×希望[低]の「大きくなっている・計」の比率が最も高く、人口[減]×希望[高]の比率は、人口[維持・増]×希望[高]と並んで低い。
 - ・加重平均値は人口[減]×希望[高]が最も低い。
- つまり、世代間、家庭環境を中心に格差認識がなるべく低く、10年後の予想格差が小さいことが、人口減少下で希望を持つためには重要であることがわかる。

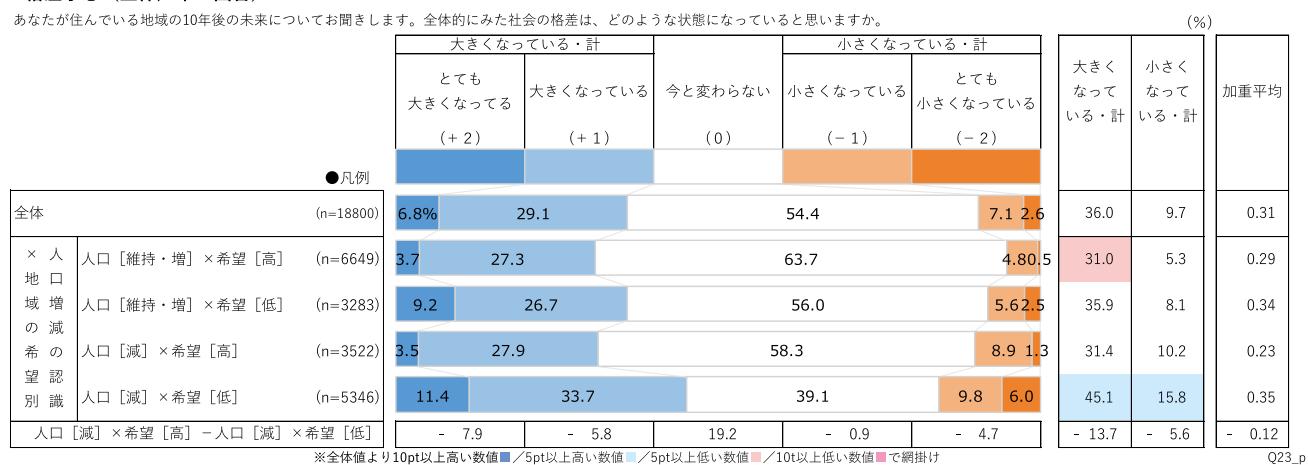
■格差認識／大きい・計（全体／各単一回答）

あなたが住んでいる地域についてお聞�します。以下にあげる項目は、現在どのような状態だと思いますか。



■格差予想（全体／単一回答）

あなたが住んでいる地域の10年後の未来についてお聞�します。全体的にみた社会の格差は、どのような状態になっていると思いますか。



希望の“効果”

地域へのコミットメント意向

▶ 人口〔減〕×希望〔高〕は、すべてのコミットメント項目で人口〔維持〕×希望〔高〕を上回る

● 地域へのコミットメント意向10項目すべてにおいて「あてはまる・計」の比率がトップ。人口〔維持・増〕×希望〔高〕よりも高い。

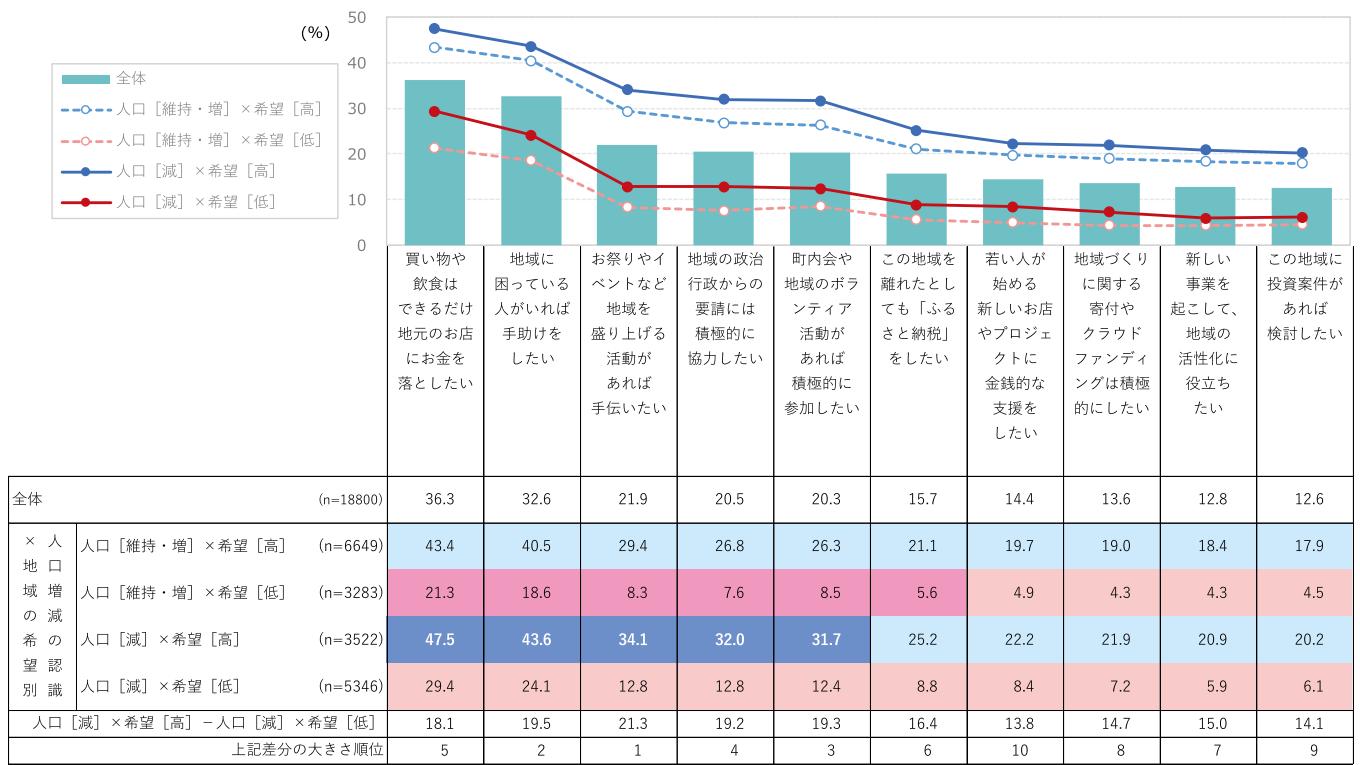
- 上記は前項「シビックプライド」と同じ結果であり、(これらのデータの範囲内では) 人口が増えていること自体はシビックプライドとは無関係、希望の高さが大きな影響を与えている構造となっている。

● 人口〔減〕×希望〔高〕と人口〔減〕×希望〔低〕との差をみると、下記の項目において20ポイント程度の差がある。

- 「お祭りやイベントなど地域を盛り上げる活動があれば手伝いたい」
- 「地域に困っている人がいれば手助けをしたい」
- 「町内会や地域のボランティア活動があれば積極的に参加したい」
- 「地域の政治・行政からの要請には積極的に協力したい」
- 「買い物や飲食ができるだけ地元のお店にお金を落としたい」

■ 地域へのコミットメント意向／あてはまる・計（全体／各单一回答）

あなた自身は現在お住まいの地域への関わりについて、どのように考えていますか。



※全体値より10pt以上高い数値■/5pt以上高い数値■/5pt以上低い数値■/10pt以上低い数値■で網掛け

※全体値の降順ソート

Q29_p

希望の“効果”

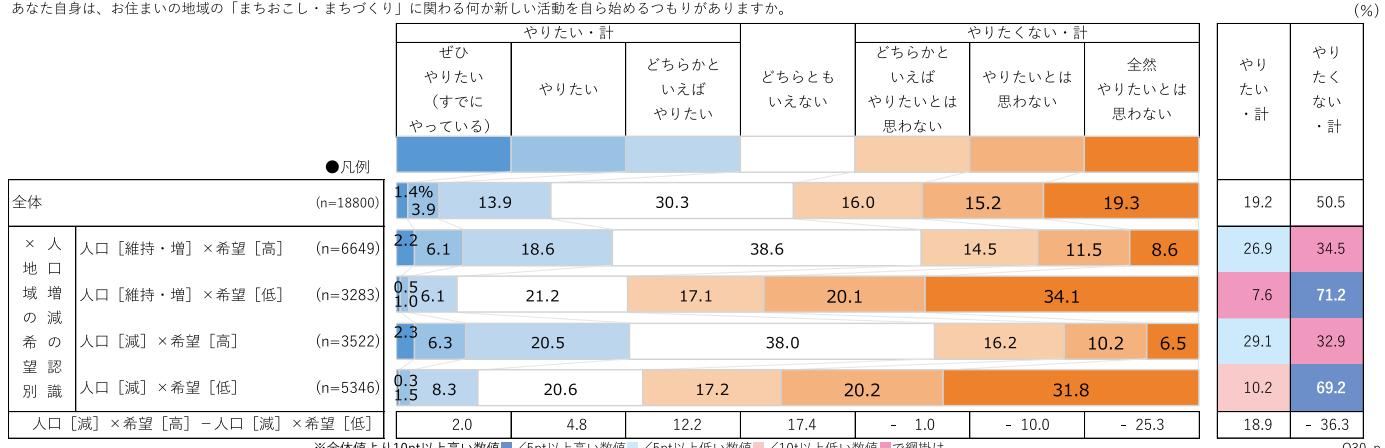
挑戦意欲

▶ この地域でのまちおこし挑戦意向も、人口〔減〕×希望〔高〕が最も高い

- 「ぜひやりたい（すでにやっている）」「やりたい」「どちらかといえばやりたい」まで合わせた「やりたい・計」のスコアが最も高いのは、人口〔減〕×希望〔高〕。人口〔維持・増〕×希望〔高〕がこれに続く。
- 人口〔減〕×希望〔低〕と人口〔維持・増〕×希望〔低〕の2層の「やりたい・計」は相対的に低いが、この中では人口〔減〕×希望〔低〕の方が高くなっている。

■挑戦意欲（全体／単一回答）

あなた自身は、お住まいの地域の「まちおこし・まちづくり」に関わる何か新しい活動を自ら始めるつもりがありますか。



希望の“効果”

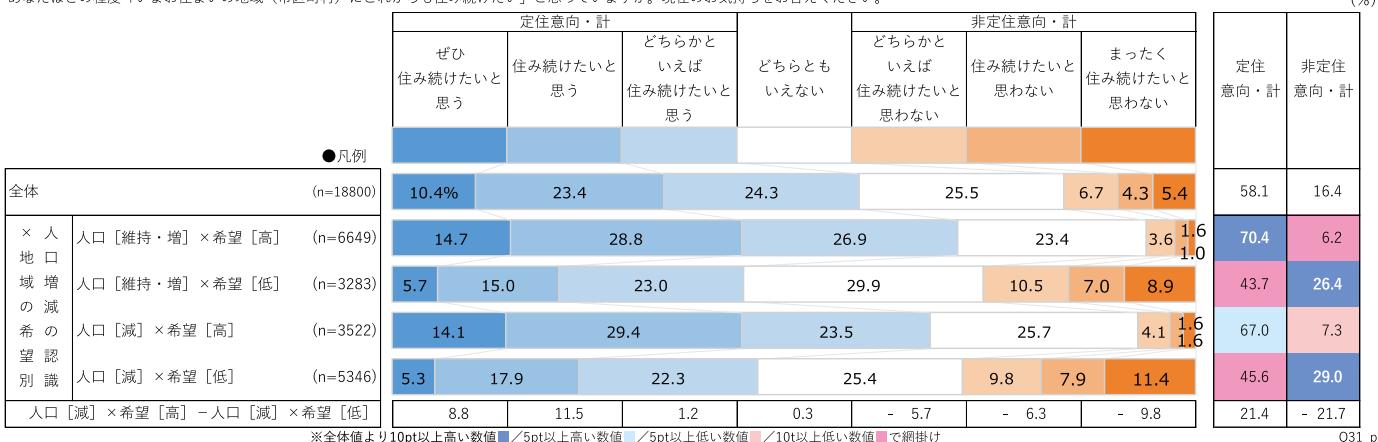
定住意向

▶ 人口〔減〕×希望〔高〕の定住意向は、人口〔減〕×希望〔低〕より20ポイント以上高い

- 定住意向（「定住意向・計」）のトップは人口〔維持・増〕×希望〔高〕であり、7割に達する。人口〔減〕×希望〔高〕が3ポイント差で続く。
- 人口〔減〕×希望〔高〕と人口〔減〕×希望〔低〕との差は20ポイント以上の開きがある。

■定住意向【現在】（全体／單一回答）

あなたはどの程度「いまお住まいの地域（市区町村）にこれからも住み続けたい」と思っていますか。現在のお気持ちをお答えください。



希望の“効果”

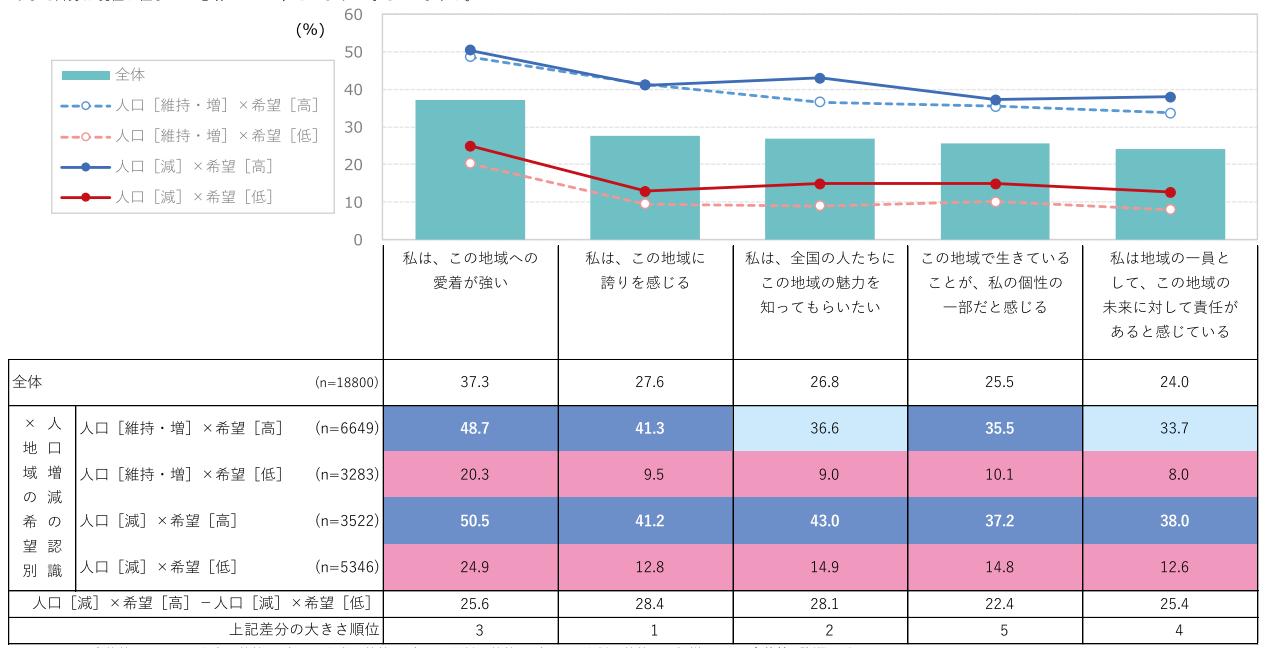
シビックプライド

▶ シビックプライドは、人口増より希望の高さが影響する

- シビックプライド5項目のうち、「私は、この地域に誇りを感じる」以外の4項目で、人口【減】×希望【高】の比率がトップ。人口【維持・増】×希望【低】よりも高い。
- 当然だが、人口【減】×希望【低】との差も大きい。どの項目も25ポイント前後の差がある。
- なお、希望【高】の2グループと希望【低】の2グループとで、各項目の比率の水準がきれいに2分されることがわかる。人口が増えていること自体はシビックプライドとはほぼ無関係であり、希望の高さが大きな影響を与えている構図であることがわかる。

■シビックプライド／あてはまる・計（全体／各单一回答）

あなた自身は現在お住まいの地域について、どのように考えていますか。



Q17_p

本章のまとめ

- 前ページまでの分析をまとめよう。人口減少下でも希望を持つために、特に重要なポイントは下記の通りである。

▶ 地域の希望の「源泉」

- 【固有性】自然だけでなく歴史や食べ物などの評価が高いこと、「文化芸術に親しむ環境」などが重要
- 【ひとの動き】ジェンダー平等、リーダー層の若返り、多様性担保が重要。「個人旅行の外国人観光客」、「感性が若々しい高齢者」も大事
- 【まちの動き】公共空間、子育てに関する行政施策、街づくりのイベント、個性ある個店・施設の存在が重要
- 【社会の動き】DX、GXの進展は地域の希望を押し上げる。特にGX領域
- 【政治・行政への信頼】政治・行政の関心・評価・信頼とも、地域の希望に明確な影響
- 【人への信頼】人への信頼・頼れる人の存在・新たな人との出会いが重要
- 【寛容性】寛容性は地域の希望に効く(特に【若者】【変化】が重要)
- 【凝集性・同調圧力】凝集性が高く、同調圧力がそれほど強くないことがカギ
- 【生活領域別満足度】自然や気候・風土に満足したうえで、文化・芸術、消費、医療・介護、子育てなどの環境が大事
- 【格差】現在格差がなるべく少なく、10年後の予想格差が小さいことが重要

- 人口減少下でも希望を持つ人々が生み出す(可能性のある)“効果”は非常に大きい。

▶ 地域の希望の「効果」

- 【コミットメント】すべてのコミットメント項目で、人口【減】×希望【高】の比率がトップ
- 【挑戦意向】まちおこし挑戦意向は人口【減】×希望【高】が最高
- 【定住意向】定住意向は人口【減】×希望【高】が人口【維持・増】×希望【高】とほぼ同水準の高さ
- 【シビックプライド】人口増より希望の高さが影響

MEMO

地域の希望とウェルビーイング

有馬 雄祐

九州大学大学院人間環境学研究院都市・建築学部門助教

ありま・ゆうすけ／職業能力開発総合大学校（PTU）特任助教を経て2022年より現職。東京大学博士（工学）。専門は建築環境工学。熱環境など物理面から建築環境の予測・評価を行うほか、ウェルビーイング概念に基づく心理面からの環境評価にも取り組む。

» 「A. 分析の詳細」を本報告書 WEB版で公開しています。

<https://www.homes.co.jp/souken/report/202309/>

1

人生における希望

人間以外の動物について、「彼は幸せそうである」という表現はしっくりくる状況もありそうだが、「彼は希望に満ちている」と表現してみても、あまりしっくりこないに違いない。人間という存在を置いて他に、「希望（ホープ）」という言葉がよく似あう動物はいないようと思われる。希望が、人間にとて特有な問題となる理由は、私たちの未来を予測する能力と密接に関係しているように思われる。未来を予測する力がない限り、希望など抱きようがないし、問題にさえなり得ないはずだからである。

一方で、未来が完全に予測可能なものであったならば、確定した未来に希望など抱きようがないし、そもそも抱く必要すらない。私たちが生きている現実は、「偶然」としか呼びようのない予想外の出来事で溢れている。偶然に満ちた人生を、可能な限りの予測力を働かせながら切り開かせてくれる、未来を創造していくうえでの精神的な力が「希望」と呼ばれるものの実体なのではないだろうか。

「希望」とは何か。そう考えながら読んだ本の一つに、三木清という哲学者が書いた『人生論ノート』^[1]がある。希望について、上述の内容と似た主旨のことが書かれているため引用しておきたい。希望とは、生命を形作る力であると三木は言う。生命という言葉は、人生と読み替えてくれてかまわない。

「希望というものは生命の形形成力以外の何物であるか。我々は生きている限り希望を持っているというのは、生きることが形成することであるためである。希望は生命の形形成力であり、我々の存在は希望によって完成に達する。生命の形形成力が希望であるというの

は、この形成が無からの形成という意味をもっていることに依るであろう。運命とはそのような無ではないのか。希望はそこから出てくるイデー的な力である。希望というものは人間の存在の形而上の本質を顕すものである。希望に生きる者はつねに若い。いな生命そのものが本質的に若さを意味している」

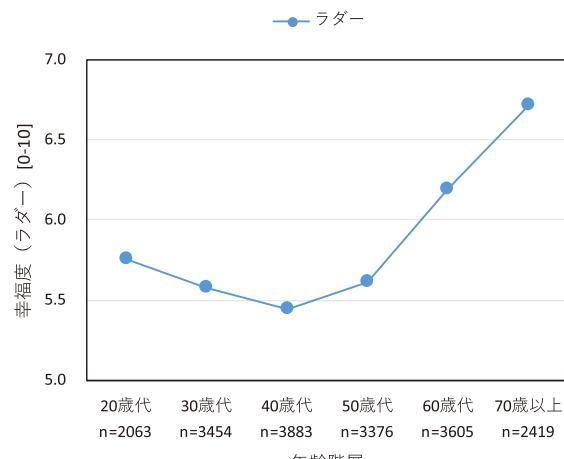
（三木清『人生論ノート』）

「希望に生きる者はつねに若い」と、三木は希望を「若さ」と関連づけて論じているが、ここでウェルビーイング研究における知見を一つ紹介しておきたい。ウェルビーイングとは人生における良い状態を、幸福度を中心とする測定可能な要素で定義した、幸福を意味する科学的な概念である。この分野の主導的な研究者の一人である経済学者アンガス・ディートンは、希望と年齢の関係性についての興味深い事実を2018年の論文で報告した^[2]。国連が発表している世界幸福度ランキングでも使用される幸福度の代表的な尺度にキャントリル・ラダーがある。一般的なキャントリル・ラダーは、現在の人生の状況を最低な人生（0点）から最高の人生（10点）で評価するものだが、5年後の未来の状況を予想して回答させる未来版の形式もある。ディートンは、ギャラップ世論調査の世界166カ国の調査データから、キャントリル・ラダーの現在の幸福度と未来の幸福度の差分を算出し、年齢との関係性を分析した。すると、未来的想像された幸福度は現在の幸福度を上回り、しかも両者の差分は若者ほど大きく、年齢が増加するにつれて差分は減少していく傾向がある事が確認された。未来の幸福度と年齢のこうした関係性

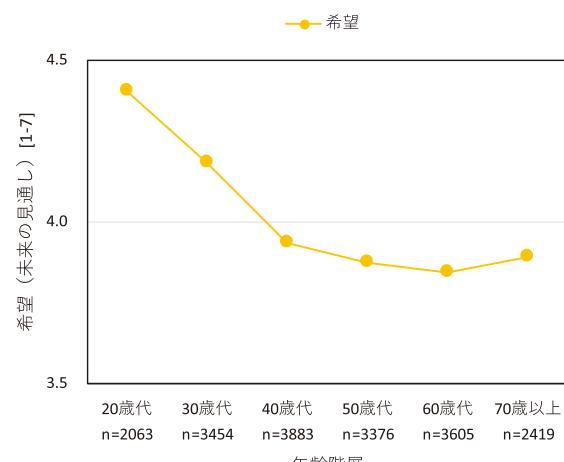
は普遍的であり、世界全体ではもちろん、ヨーロッパ、アジア、共産圏などのそれぞれの地域においても同じ傾向が観測される。人間には未来は現在に比べて良くなるだろうと考える傾向があり、明るい未来を期待する精神の傾向は、世界中どこであれ若者ほど強いのだ。心理学者のダニエル・カーネマン^[3]は、未来に対するこうした精神の偏見（バイアス）こそが、「資本主義の原動力」であると論じている。

本報告書のために実施した全国18800人の調査データを用いて、希望と年齢の関係性を見てみよう。希望に関する設問として、本調査では現状の幸福度をキャントリル・ラダー^{注1}で質問したうえで、「あなたの10年後の未来を想像してください。前問で10点満点でお答えいただいた「あなたの人生の位置」は、良くなっていると思いますか、それとも悪くなっていると思いますか」という質問を用意した。回答は、「とても悪くなっている」「悪くなっている」「どちらかといえば悪くなっている」「変わらない」「どちらかといえば良くなっている」「良くなっている」「とても良くなっている」の7段階で回答させており、1点から7点で得点化した。ここでは、こうして測定された10年後の未来の見通しを「希望」[1～7点]と呼ぶことにする。先ず、基準となるキャントリル・ラダーの「幸福度（ラダー）」[0～10点]と年齢の関係性について図1に示す。「幸福度（ラダー）」が「40歳代」付近を底とするU字カーブを描く「中年の危機」と呼ばれる現象が確認できる。また、我が国では「60歳代」「70歳代」の高齢層の幸福度が最も高いことも確認できる。次に、図2に「希望」と年齢の関係性を示す。「希望」は「20歳代」が最も高く、次いで「30歳代」、そして「40歳代」「50歳代」と続き、基本的に年齢が若いほど高い明確な傾向があることが見てとれる。やはり、若者ほど未来は今よりも明るくなるだろうという希望を抱いているようだ。

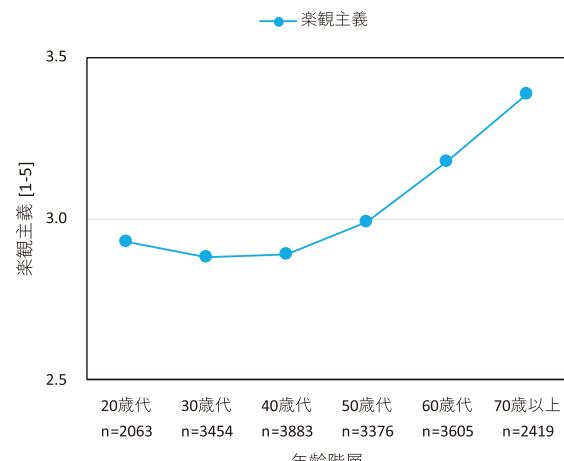
希望に類似した心理学的な概念に、楽観主義（オptyimism）がある。いずれも明るい未来に対する期待を含んだ概念であるが、両概念を対比的に分析した場合、希望は目標を実現するための個人の能力や意志に焦点を当てたものであるのに対して、楽観主義は未来に対する制御に焦点を当てたものではないと説明される^[3]。両概念の定義は文献によっても異なるため、明るい未来を期待する個人の性格的な傾向をここでは「楽観主義」と呼ぶことにしたい。本調査では楽観主義の程度について、「あなたご自身の性格についてお聞きします。あなたは、だいたいにおいて物事を楽観的に考える方ですか、それとも悲観的に考える方ですか」という質問に対して、「とても悲観的な性格（1点）」「どちらかといえば悲観的な性格（2点）」「どちらともいえない（3点）」「どちらかといえば楽観的な性格（4点）」「とても楽観的な性格（5点）」の5段階で回答させた。図3に楽観主義と年齢の関係性を示すが、個人の性格としての楽観主義は若者ほど高いということではなく、むしろ「50歳代」頃から年齢が増加するにつれて上昇する傾向があることが分かる。希望と楽観



[図1] 幸福度（ラダー）と年齢



[図2] 希望と年齢



[図3] 楽観主義と年齢

主義の年齢との関係性は対称的であり、興味深い。明るい未来を見据える希望は若者ほど旺盛だが、楽観主義的な心の持ちようは高齢な者ほど強いのだ。若年層と高齢層のこうした相違は、ラダーで測定されるような幸福度が、若い者と高齢の者でたとえ同じ申告値であっても、その在り様は質的に異なるものである可能性を示唆している。

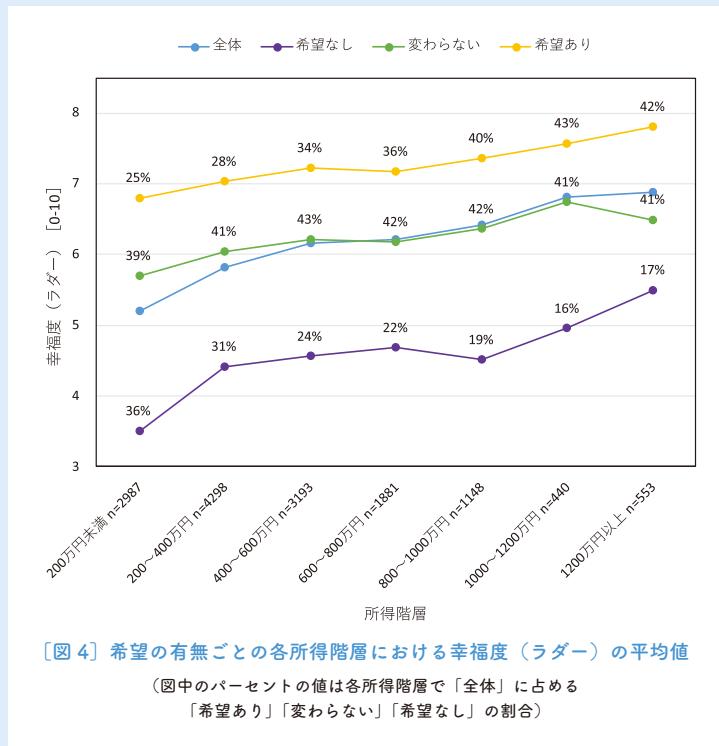


図4 希望の有無ごとの各所得階層における幸福度（ラダー）の平均値
(図中のパーセントの値は各所得階層で「全体」に占める
「希望あり」「変わらない」「希望なし」の割合)

希望は、幸福にとって重要な問題であるのだろうか。調査の結果からは、希望は幸福の中核を成す要素であることが見てとれる。詳細は「A. 分析の詳細（表A4に記載のモデル1a～モデル1c）※本報告書WEB版に掲載」に示すが、希望の幸福度に対する影響を年齢や所得などの影響と共に分析した場合、所得や年齢以上の強い影響があることが確認でき、その効果は「人間関係」「仕事」「余暇生活」などの生活の領域満足からの影響よりも強い。ここでは、希望の幸福度に対する影響の強さを示すため、幸福度と所得の関係性が希望の有無でどのように異なるのかを見てみよう。

図4に全国14500人（18800人中で所得の回答ありの者）の世帯所得と幸福度の関係性を、希望の有無ごとに示す。「希望」の得点は先に述べた1点から7点であり、希望の有無は「どちらかといえば良くなっている（4点）」以上を「希望あり」、「どちらかといえば悪くなっている（3点）」以下を「希望なし」として回答者を分類した。個人属性の中でも、所得はキャントリル・ラダーで測定された幸福度との結びつきが強く、高所得な者ほど幸福度が高いことが知られている（図4の「全体」参照）。しかし、たとえ同じ所得階層の者であっても、希望の有無で幸福度に大きな相違があることが図4から見てとれる。また、異なる所得階層間で幸福度を比較した場合、高い所得があっても希望がない者は幸福度が低く、反対に希望がある

者では、所得の状況に関わらず幸福度はかなり高い水準にある。例えば、所得が1200万円以上でも希望がない人たちの幸福度（5.5点）は、所得200万円未満の希望がある者の平均的な幸福度（6.8点）に遠く及ばない。

希望の有無は、客観的な生活の状況以上に幸福度を大きく左右しているようである。

キャントリル・ラダーで測定された「幸福度（ラダー）」[0～10]が10年後の未来の見通しを意味する「希望」[1-7]によって大きく左右される事実は、それほど自明な結果ではないだろう。理屈の上では、未来の見通しに関わらず、人生に満足しているという状況も十分に成立するように思われる。しかし、実際には現状の幸福度と希望は不可分な関係性にある。表1に、幸福度（ラダー）の程度を「低・幸福度（4点以下）」「中・幸福度（5点,6点）」「高・幸福度（7点以上）」で区分して、希望の有無でそれぞれの割合を示す。希望のない人々はその大半が幸福度も低く（51%）、反対に希望のある者は殆どが高い幸福度を申告している（71%）。私たちが自身の人生に下す評価には、希望という未来への見通しが多分に含まれるものであるらしい。希望は、人間の幸福にとって本質的な要素を成しているのだ。

希望について理解が深まったところで、次節から本稿の中心的な関心である「地方の希望」が、私たちの人生において果たす役割について分析していこう。つづく「2. 地域の希望、シビックプライド、及び幸福度」では、地域の希望やシビックプライドの特徴について把握する。シビックプライドは、地方創生の文脈で注目されている概念であり、本稿では地域の希望と共にその特徴や効能を分析する。「3. 地域の希望と幸福度、及び地方創生に寄与する意識」では、地域の希望が住人の幸福度や、定住意向といった地方創生に寄与する意識に与える影響を、重回帰分析という手法で評価する。「4. 地域の希望を生み出す要因」では、地域の希望が地域のどのような状態によって生み出されるのか、その決定要因を分析する。「5. 寛容性から地域の希望へ」では、以前の報告書『寛容と幸福の地方論』でも扱った地域の「寛容性」が、地方創生において果たす役割について分析する。寛容性が地域の希望に繋がる地域の状態を育み、住人と地域に効能をもたらすという因果的な仮説を、構造方程式モデリングという手法で分析する。最終節では、得られた実証的な知見を基に、地域の希望が地方創生において果たす役割について論じる。

尚、以下の分析で使用する調査データは、いずれも2023年5月にWeb調査会社を介して実施された各都道府県で400人、全国18800人を対象とした調査で得られたものである。

表1 希望の有無ごとの幸福度の高・中・低の割合

	低・幸福度 (4点以下)	中・幸福度 (5点, 6点)	高・幸福度 (7点以上)
希望あり（現状より良くなる） n=5600	9%	20%	71%
現状と変わらない n=8071	14%	43%	43%
希望なし（現状より悪くなる） n=5129	51%	31%	18%

2.1 地域の希望

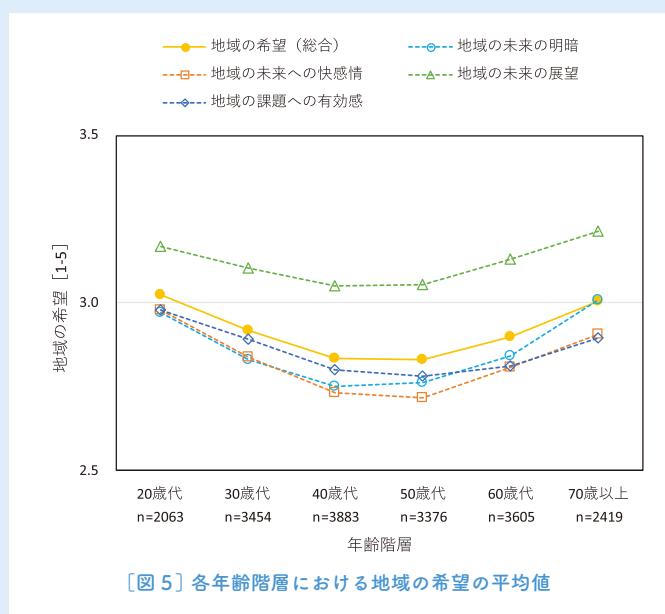
希望は幸福における中心的な問題であることが確認されたが、自身が住んでいる地域に対して抱かれる地域の希望は、住人の幸福度や、定住意向などの地方創生に関わる意識に対して、どのような影響があるのだろうか。まずは、地域の希望の特徴を把握しておこう。

本分析における地域の希望は、「地域の未来の明暗」「地域の未来への快感情」「地域の未来の展望」「地域の課題への有効感」の4種類の設問で構成される。これら4指標の平均値で、「地域の希望」の得点 [1～5点] を算出した。「地域の未来の明暗」は、「あなたが住んでいる地域の10年後についてお聞きします。あなたが住んでいる地域の未来は明るいと思いますか、それとも暗いと思いますか」という質問に対して、「暗いと思う（1点）」「どちらかといえば暗いと思う（2点）」「どちらともいえない（3点）」「どちらかといえば明るいと思う（4点）」「明るいと思う（5点）」の5段階で評価した。「地域の未来への快感情」は、「あなたが住んでいる地域の10年後の未来を想像するとき、あなたはどういう気持ちになりますか」という質問に対して、「ワクワク待ち遠しい気持ち」「明るく楽しい気持ち」「元気で前向きな気持ち」「穏やかで平穏な気持ち」「なんとかなるという楽観的な気持ち」のポジティブな感情の程度を、「まったく感じない（1点）」「あまり感じない（2点）」「どちらともいえない（3点）」「まあ感じる（4点）」「強く感じる（5点）」の5段階で評価した。序章において島原万丈氏が、「希望」の定義として「希望は来たるべき未来に明るさがあるという感知に伴う快調を帯びた感情」（北村晴朗『希望の心理 自分を生かす』）を採用したと述べているが、「地域の希望」を構成するこれら2種類の設問は、この定義を最も直接的に反映した内容である。

「地域の未来の展望」は、「現在、あなたが住んでいる地域にもいろいろな課題があると思いますが、地域の未来を良くすることが可能だと思いますか。以下の項目についてどの程度あてはまるかお答えください」という質問に対して、「この地域には埋もれた魅力や可能性がたくさんある」「いろいろ課題はあっても、この地域をより良い場所にするための方法はある」「この地域にはいろいろな課題を解決できる人材がいる」「住民みんなが努力すれば、この地域をより良い場所にすることができる」「この地域をより良い場所にするために、自分が貢献できることがある」の各展望の程度を、「そう思わない（1点）」「あまりそう思わない（2点）」「どちらともいえない（3点）」「ある程度そう思う（4点）」「そう思う（5点）」の5段階で評価した。また、「地域の課題への有効感」は、「以下のような地域の課題について、あなたが住んでいる地域は対処が可能だと思いますか」という

質問に対して、「この地域の人口減少は歯止めがかけられる」「若者のUターンや移住者を増やすことができる」「少子化に歯止めをかけて子どもを増やすことができる」「地域の経済を活性化させ、安心して働ける雇用環境が作れる」「ITなどテクノロジーを活用して地域の暮らしを便利にできる」の各課題への解決の可能性（有効感）の程度を、「そう思わない（1点）」「あまりそう思わない（2点）」「どちらともいえない（3点）」「ある程度そう思う（4点）」「そう思う（5点）」の5段階で評価した。ウェルビーイング研究において希望（ホープ）は、未来は明るくなるだろうという期待に加えて、「目標を実現するための個人の能力と意思に焦点を当てた期待」^[4]であると定義される。また、希望の実証的な研究として代表的な心理学者リック・スナイダーによる「希望理論」^[5]では、明るい未来を実現するための「道筋（パスウェイ）」を考える能力と、その道筋に沿って行動を起こし、困難に衝突しても目標達成に向かって行動を維持する「主体性（エージェンシー）」の二つの側面で希望が定義される。「地域の希望」を構成する「地域の未来の展望」と「地域の課題への有効感」は、ウェルビーイング研究における希望のこうした定義に沿ったものである。

人生全般における希望は年齢と密接な関係にあることを確認したが、「地域の希望」と年齢の関係性はどうだろうか。図5に年齢階層ごとの「地域の希望」（下位指標も含む）[1～5点] の平均値を示す。「地域の希望」とこれらを構成する指標はいずれも、「20歳代」の若年層で高く、「40歳代」「50歳代」で底となり、「70歳以上」に向けて再び上昇するU字カーブを描くことが見てとれる。若年層で高い傾向があるのは、人生全般における「希望」で確認された通り、



未来への見通しが若者ほど高い傾向があることを反映した結果であると推察される。また、「地域の希望」が「60歳代」「70歳代」で向上する理由は、年齢が高くなるほど地域における居住年数が増える傾向がある事など、「地域」という対象の特徴が反映された結果であると推察できる。

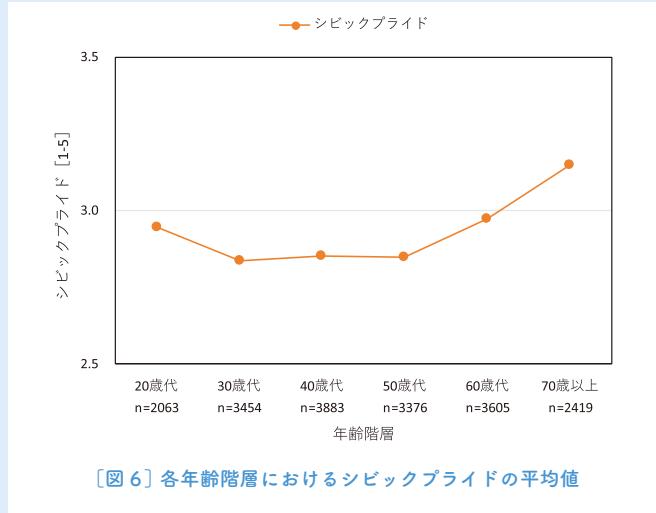
2.2 シビックプライド

地方創生の文脈でよく議論される概念に「シビックプライド」がある^[6]。シビックプライドは「地域に対する市民の誇り」と訳せるが、「地元愛」や「郷土愛」、ないし「地域への愛着」といった、生まれ育った故郷や住んでいる地域に対して抱かれる好意的な感情に加えて、その地域をより良いものにするため貢献しようとする心境などを含む包括的な概念である。本報告書では「地域の希望」という地域に対して抱かれる主観評価・感情の新しい側面に着目しているが、「地域の希望」の特徴を相対的に把握するためにも、シビックプライドについても測定した。本調査において「シビックプライド」は、「あなた自身は現在お住まいの地域について、どのように考えていますか」という質問で、「私は、この地域への愛着が強い」「私は、この地域に誇りを感じる」「この地域で生きていることが、私の個性の一部だと感じる」「私は、全国の人たちにこの地域の魅力を知ってもらいたい」「私は地域の一員として、この地域の未来に対して責任があると感じている」の程度を「全然あてはまらない（1点）」「どちらかといえばあてはまらない（2点）」「どちらともいえない（3点）」「どちらかといえばあてはまる（4点）」「とてもあてはまる（5点）」で評価した。「シビックプライド」[1～5点]は、これら5項目の得点の平均値で算出した。

図6に各年齢階層における「シビックプライド」の平均値を示す。シビックプライドと年齢についても緩やかなU字カーブが観察されるが、「20歳代」における平均値は他の年齢層に比べてそれほど高くなく、「60歳代」「70歳代」と高齢層でのシビックプライドの方が高い。「地域の希望」と年齢の関係性と比較した場合、「地域の希望」はより若者に、「シビックプライド」はより高齢の者にそれぞれ強く抱かれる傾向があることが分かる。

2.3 幸福度（ラダー、感情、エウダイモニア）

本調査ではキャントリル・ラダーによる幸福度（以降、「ラダー」）に加えて、「感情」「エウダイモニア」と呼ばれる幸福の領域も測定した。これら幸福度の3領域は、経済協力開発機構（OECD）で各領域の測定が推奨されている^[7]。「ラダー」は幸福の認知的側面を測定しており、所得などの生活の状況と強い正の相関があることが知られている。「感情」はその時々で経験される心の状態を測定した幸福の領域であり、健康や人間関係とより深い関わりがある。本



調査では、「過去1週間においてあなたはどのような気分ですごしていましたか。以下のそれぞれの気分を、どの程度感じていたかについてお答えください」という質問に対して、各感情を経験した頻度を「めったに、ほとんど感じていない（1点）」「あまり感じていない（2点）」「ときどき感じた（3点）」「よく感じた（4点）」「頻繁に、常に感じた（5点）」の5段階で評価した。測定したポジティブな感情は「幸せな気持ち」「明るく、楽しい気分」「愉快にはしゃぐ気分」「くつろいだ、リラックスした気分」「ワクワク夢中になる」の5項目、ネガティブな感情は「退屈な気分」「心配や不安な気持ち」「悲しい、辛い気持ち」「イライラ、怒り」「孤独や孤立感」の5項目であり、それぞれの平均値を「ポジティブ感情」[1～5点]と「ネガティブ感情」[1～5点]として算出した。また、ネガティブ感情はその少なさの程度を意味するよう反転項目として扱い、全ての感情の平均値として「感情」[1～5点]を算出した。

エウダイモニアは、古代ギリシャの哲学者アリストテレスによって議論された幸福に起源があり、認知的な人生の満足や快楽的な感情では捉え難い、人間という存在の本質に根差した幸福である。現代の幸福度の文脈では、「人生の意味」や「自己成長」といった心理学的な概念で測定されており、本調査では「自己成長」「潜在的能力の発揮」「人生の意味」「自律性」「他者からの尊敬」に関わる項目で測定した。「ご自身や自分の生活について、あなたはどのように感じていますか。以下の内容がどのくらいあてはまるかについてお答えください」という質問に対して、「日々、人として成長している実感がある」「自分の能力を最大限に発揮して生きている」「自分という人間の価値や人生の意義を感じている」「これまで私は、自分の行動は周囲に流されずに自分自身で決めてきた」「社会の役に立ち人から尊敬されている」の状態を、「まったくあてはまらない（1点）」「あまりあてはまらない（2点）」「どちらともいえない（3点）」「ある程度あてはまる（4点）」「とてもあてはまる（5点）」の5段階で評価して、それらの平均値として「エウダイモニア」[1～5点]を算出した。

幸福度の各種の領域の特徴の詳細については、『“遊び”から的地方創生』で幸福度を論じた箇所^[8]を参照願いたいが、ここでは

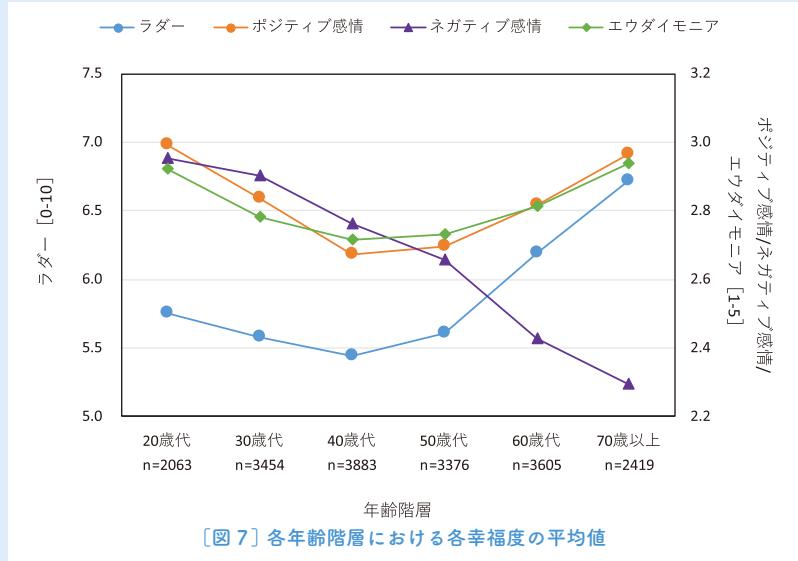
各種の幸福度と年齢の関係性について確認しておきたい。図7に各年齢階層における「ラダー」「ポジティブ感情」「ネガティブ感情」「エウダイモニア」の平均値を示す（「ラダー」は図1と同じ値）。「ポジティブ感情」「エウダイモニア」では「ラダー」と同様に、「40歳代」「50歳代」の中年期を底とするU字カーブが描かれるが、「ポジティブ感情」や「エウダイモニア」は「ラダー」と比較して「20歳代」や「30歳代」の得点が相対的に高く、若者でより高い傾向があることが確認できる。また、「ネガティブ感情」が年齢が増加するにつれて低減していく傾向は、「高齢のパラドックス」とも呼ばれており、高齢な者ほどネガティブな感情の経験が少ない事実は頑健性のある幸福現象の一つとして知られている。

2.4 沖縄県の幸福度と地域の希望

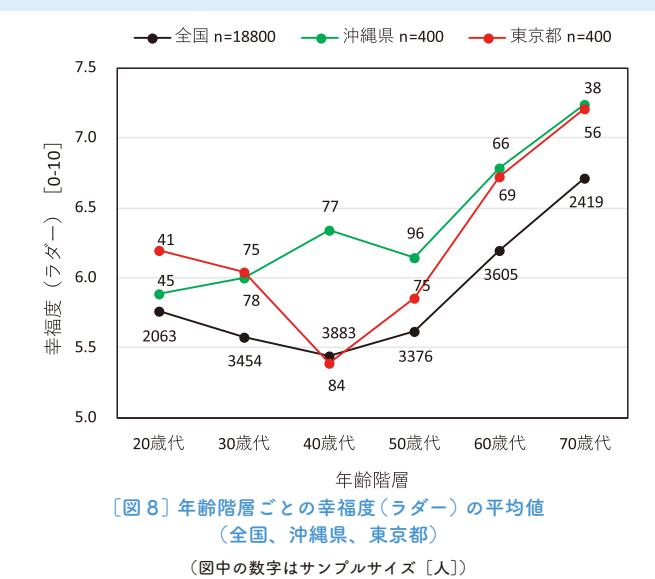
ところで、日本国内で各都道府県の幸福度を調査した場合、殆どの調査で沖縄県が最も高い幸福度となることが知られている（『寛容と幸福の地方論』^[9]も参照）。今回の調査においても、都道府県別の幸福度の平均値は沖縄県が最も高い。沖縄県の特異的な幸福度の高さの秘密は、どこにあるのだろうか。沖縄県の幸福度の実態を把握するため、年齢階層と所得階層ごとの幸福度を確認してみるしよう。

図8に、全国、東京都、及び沖縄県における各年齢階層の幸福度（ラダー）の平均値を示す。幸福度と年齢の関係性は全国ではU字カーブとなっており、東京都においてはその傾向がより顕著である。「中年の危機」とも呼ばれるこの幸福現象は、中年期における所得格差の増大や社会的繋がりの希薄化などが理由であると考えられる（筆者は『住宅幸福論 Episode3』のコラム^[10]でこれを論じた）。一方の沖縄県では、「40歳代」「50歳代」での幸福度の低下が見られない。沖縄県では、「20歳代」の幸福度は東京都に比べてやや低いものの、一般に幸福度が低下する中年期においても高い水準が維持されている。次に、図9に所得階層ごとの幸福度（ラダー）の平均値を示す。東京都では「200万円未満」「200～400万円」の所得階層で全国の平均値を下回るが、沖縄県ではいずれの所得階層においても相対的に高い幸福度が維持されている。沖縄県における幸福度は、東京都など他の地域と比較すれば、所得の状況にそれほど依存していないようである。中年期という年齢層や低い所得階層など、一般的に幸福度が低下する層でも比較的高い幸福度が維持されていることが、沖縄県の統計的な幸福度の高さの理由であるようだ。

「地域の希望」の都道府県ランキングにおいても、沖縄県の平均値が最も高い。「地域の希望」[1～5点]についても同様に、図10と図11に年齢階層と所得階層ごとの平均値を示す。全国平均では

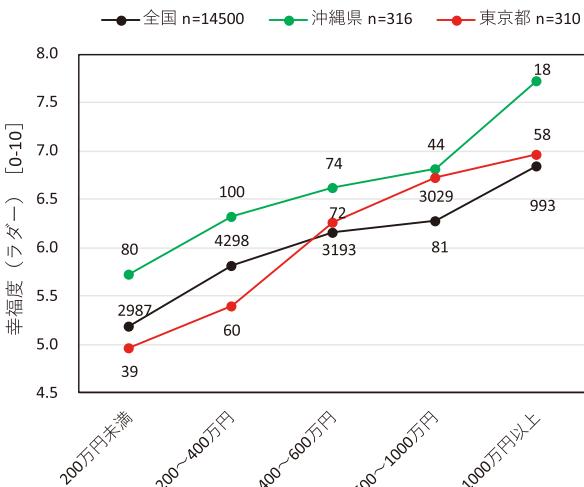


〔図7〕各年齢階層における各幸福度の平均値



〔図8〕年齢階層ごとの幸福度（ラダー）の平均値
(全国、沖縄県、東京都)

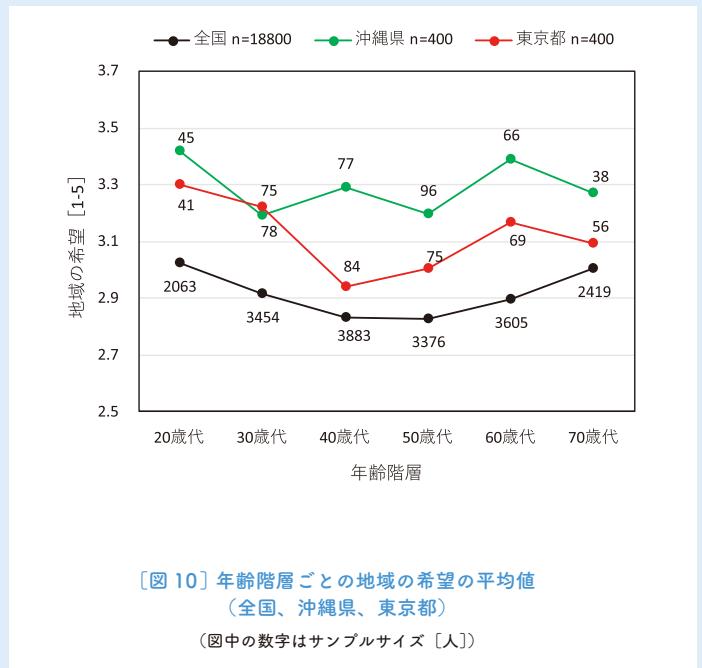
(図中の数字はサンプルサイズ [人])



〔図9〕所得階層ごとの幸福度（ラダー）の平均値
(全国、沖縄県、東京都)

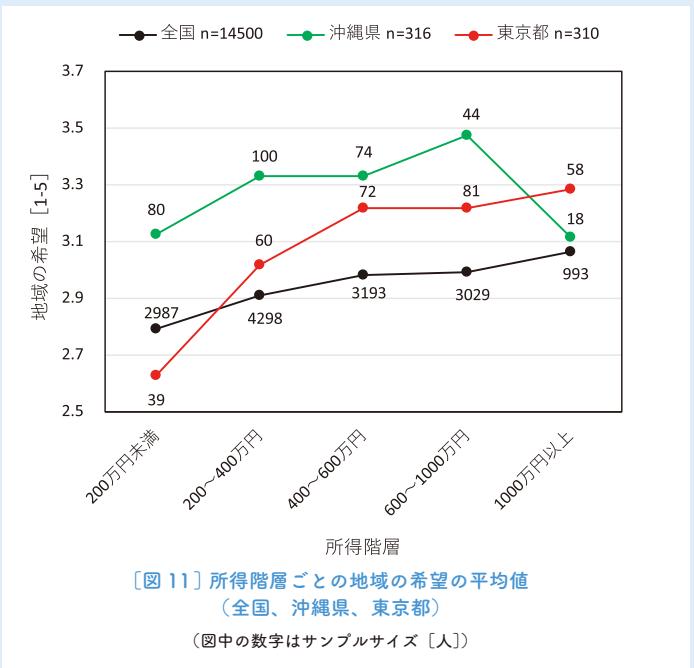
(図中の数字はサンプルサイズ [人])

「地域の希望」は年齢に対してU字カーブを描くが、沖縄県ではそうした傾向は見られず、全ての年齢階層を通じて高い平均値となっている。所得階層ごとの平均値では、東京都では「200万円未満」や「200～400万円」の所得階層で「地域の希望」が低くなっている



[図 10] 年齢階層ごとの地域の希望の平均値
(全国、沖縄県、東京都)
(図中の数字はサンプルサイズ [人])

るが、沖縄県では低い所得階層においても「地域の希望」は全国平均に比べて高い値となっている。幸福度と同様に、年齢や所得に関わらず地域に対して誰もが希望を抱ける状況が、沖縄県全体で見た高い地域の希望を支えているようである。



[図 11] 所得階層ごとの地域の希望の平均値
(全国、沖縄県、東京都)
(図中の数字はサンプルサイズ [人])

3

地域の希望と幸福度、及び地方創生に寄与する意識

3.1 幸福度に与える影響度 (重回帰分析)

「地域の希望」は個人の幸福度に対してどのくらい影響があるのだろうか。地域の希望が幸福度に与える影響度を重回帰分析で評価する。重回帰分析では着目している目的変数に対して、説明変数と呼ばれる各要因がどの程度の影響があるのか定量的に把握することが可能である。重回帰分析で推定される標準偏回帰係数は、ある説明変数が変化したとき、他の説明変数の影響を除いた目的変数に対する影響度の目安となる。目的変数は「ラダー」「感情」「エウダイモニア」の各種の幸福度に加えて、「希望」も考慮した。また、説明変数は「地域の希望」に加えて、「シビックプライド」と「生活の領域満足」を考慮した。尚、以下の重回帰分析では統制変数として、性別、年齢、結婚、子ども、無職、学歴、所得は全ての分析で考慮している^{注2}。分析で使用した変数の詳細については、「A. 分析の詳細」も参照を願う。

図12に各説明変数が幸福度に与える影響度として、「生活の領域満足」、「地域の希望」と「シビックプライド」の標準偏回帰係数

(β)を示す。先ず、「地域の希望」は幸福度に対して大きな影響度があることが確認でき、その強さは「シビックプライド」よりも相対的に大きいことが確認できる。特に、幸福度の中では「エウダイモニア」に対する「地域の希望」と「シビックプライド」からの影響が強いことが確認でき (β はそれぞれ0.28と0.15)、地域という生活の領域がエウダイモニアの重要な源泉となっている可能性が示唆されている。また、「地域の希望」の幸福度に対する影響度は、生活の領域満足と比較しても十分に大きいことが確認できる。これらの分析結果から、「地域の希望」は個人の幸福度や希望にとって小さくない役割を果たしている事がうかがえる。また、「地域の希望」は人生全般の「希望」に対する大きな影響度 ($\beta = 0.38$) が確認される一方で、「シビックプライド」の影響度は負の効果 ($\beta = -0.06$) となる。

3.2 地方創生に寄与する意識に与える影響度 (重回帰分析)

次に、「地域の希望」が地方創生に寄与する意識に与える影響度

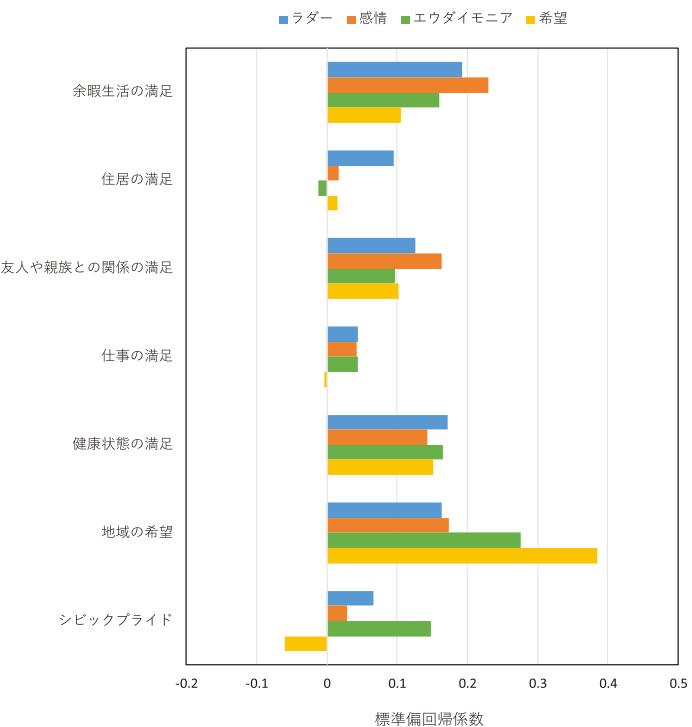
を分析する。重回帰分析で目的変数として「地域へのコミットメント」「挑戦意欲」「定住意向」を考慮した。説明変数は先の分析と同様である。

「地域へのコミットメント」は、「あなた自身は現在お住まいの地域への関わりについて、どのように考えていますか」という質問に対して、各項目を「全然あてはまらない(1点)」「どちらかといえばあてはまらない(2点)」「どちらともいえない(3点)」「どちらかといえばあてはまる(4点)」「とてもあてはまる(5点)」の5段階で評価した。項目は、「町内会や地域のボランティア活動があれば積極的に参加したい」「お祭りやイベントなど地域を盛り上げる活動があれば手伝いたい」「新しい事業を起こして、地域の活性化に役立ちたい」「地域に困っている人がいれば手助けをしたい」「地域の政治行政からの要請には積極的に協力したい」「買い物や飲食はできるだけ地元のお店にお金を落としたい」「若い人が始める新しいお店やプロジェクトに金銭的な支援をしたい」「地域づくりに関する寄付やクラウドファンディングは積極的にしたい」「この地域に投資案件があれば検討したい」「この地域を離れたとしても「ふるさと納税」をしたい」であり、これら10項目の平均値で「地域へのコミットメント」[1~5点]を算出した。

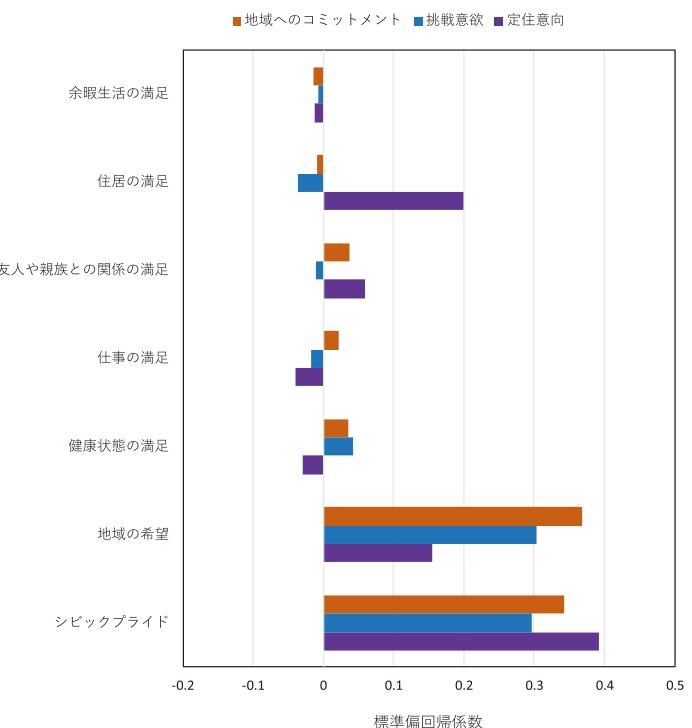
「挑戦意欲」[1~7点]は、「あなた自身は、お住まいの地域の「まちおこし・まちづくり」に関わる何か新しい活動を自ら始めるつもりがありますか」という質問に対して、「全然やりたいとは思わない(1点)」「やりたいとは思わない(2点)」「どちらかといえばやりたいとは思わない(3点)」「どちらともいえない(4点)」「どちらかといえばやりたい(5点)」「やりたい(6点)」「ぜひやりたい(すでにやっている)(7点)」の7段階で評価した。

「定住意向」[1~7点]は、「あなたはどの程度「いまお住まいの地域(市区町村)にこれからも住み続けたい」と思っていますか。現在のお気持ちをお答えください」という質問に対して、「まったく住み続けたいと思わない(1点)」「住み続けたいと思わない(2点)」「どちらかといえば住み続けたいと思わない(3点)」「どちらともいえない(4点)」「どちらかといえば住み続けたいと思う(5点)」「住み続けたいと思う(6点)」「ぜひ住み続けたいと思う(7点)」の7段階で評価した。

図13に、各説明変数が地方創生に寄与する意識に関する目的変数に与える影響度として、「生活の領域満足」「地域の希望」「シビックプライド」の標準偏回帰係数を示す。生活の領域満足では、「住居の満足」が「定住意向」に対して強い影響があることを除いて、地方創生に寄与する意識に対する強い影響は見られない。対して「地域の希望」と「シビックプライド」は、いずれも地



〔図12〕生活の領域満足、及び地域の希望とシビックプライドが幸福度に与える影響度
(表A5に記載のモデル2a～モデル2d)

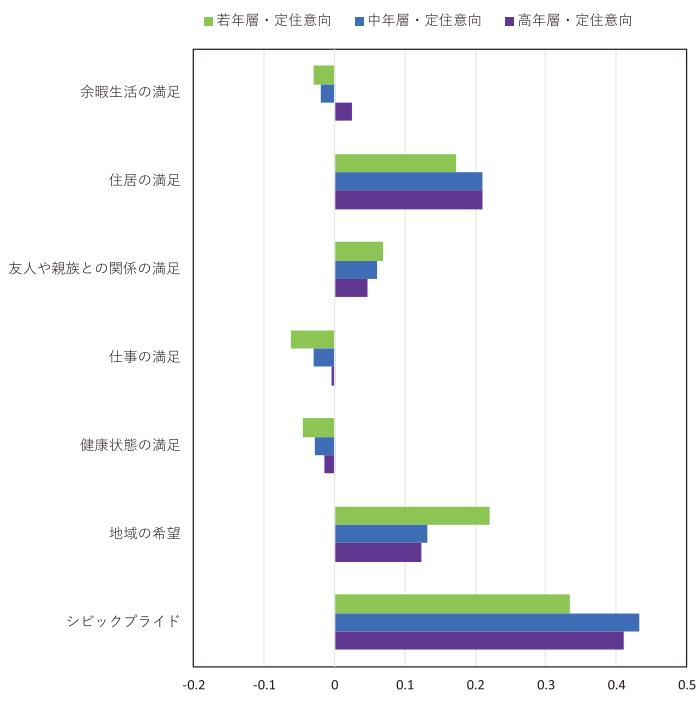


〔図13〕地域の希望とシビックプライドが地方創生に寄与する意識に与える影響度
(表A6に記載のモデル3a～モデル3c)

方創生に寄与する意識に強い影響があることが確認できる。「地域の希望」と「シビックプライド」が与える影響度を比較すると、「地域へのコミットメント」と「挑戦意欲」に対する影響度は同程度の大きさだが、「定住意向」に対しては「地域の希望」よりも「シビックプ

ライド」の影響度の方が大きいことが確認できる。

しかし、「定住意向」に対する影響度については、年齢層ごとで違いが確認された。図14に回答者を「若年層(20, 30歳代)」「中年層(40, 50歳代)」「高齢層(60, 70歳代)」の年齢層に分けて、各年齢層で重回帰分析を実施して得られた標準偏回帰係数を示す。「地域の希望」の「定住意向」に対する影響は「若年層」で最も強い傾向があることが確認できる。反対に、「シビックプライド」では「中年層」や「高齢層」の方が「定住意向」に対する影響度は大きい。「地域の希望」は特に若い年齢層において、「定住意向」をより高める要因として働いている可能性がある。



〔図14〕各年齢層における定住意向に対する影響度

(表A7に記載のモデル4a～モデル4c)

4

地域の希望を生み出す要因

4.1 地域の状態

地域の希望はどういった地域の状態に対して抱かれるものなのだろうか。「地域の希望」を目的変数、地域の状態を説明変数とする重回帰分析で要因を分析してみよう。ここでは、地域の状態を表す説明変数として、「生活領域別の環境」「地域の固有性」、「ひとの動き」「まちの動き」「社会の動き」、「政治・行政への関心・信頼」「ローカルモデルの存在」、及び「地域内の格差」「人口増減の認識」を考慮した。

「生活領域別の環境」は、「以下にあげる、あなたのお住まいの地域の生活環境について、あなたはどの程度評価していますか」という質問に対して、「趣味や娯楽、レジャーを楽しむ余暇環境」「森や海、公園などの自然に親しむ環境」「買い物や外食を楽しむ消費環境」「文化芸術に親しむ環境」「電車やバスなど公共交通機関の利便性」「地震や洪水など自然災害への強さや備え」「地域の住宅水準(家の良さや住宅価格・家賃)」「近隣の居住環境(街並み景観や治安の良さ)」「地域の雇用環境(仕事内容や賃金水準)」「地域の医療体制・介護環境」「地域の子育て・教育環境(制度や施設など)」の満足度を「まったく満足していない(1点)」「あまり満足していない(2点)」

「どちらともいえない(3点)」「ある程度満足している(4点)」「とても満足している(5点)」の5段階で評価した。

「地域の固有性(ローカルアイデンティティ)」は、シビックプライドにおける重要性がよく議論されている、その地域に固有な各種の特徴である。本調査では「歴史・名所」(「史跡・名勝など観光名所がある」など)、「自然・景観」(「山、海、川などの心の風景とも言える自然がある」など)、「都市景観」(「賑やかな商店街・繁華街がある」など)、「食べ物」(「老舗のレストラン・食事処がある」など)、「生活文化」(「古くからの地域のお祭りや伝統行事がある」など)の5領域(各3項目)について、あてはまりの程度を5段階で回答させて、計15項目の平均値を「地域の固有性」[1～5点]として算出した^{注3}。

本調査では、ひと・まち・社会などの地域における「動き」が、地域の希望にとって重要であるとする仮説を立てている。「希望学」を創設した社会科学者の玄田有史は、「幸福は持続を求めるものであるのに対して、希望は変化を求めるものだ」^[11]として、希望における「変化」の重要性を論じている。アメリカの元大統領バラク・オバマは、演説において「未来」や「希望」と共に「チェンジ(変化)」という言葉を多用したが、彼の「Change Yes We Can!」というスローガンは、人々に「ホープ(希望)」を抱かせる役割を担っていたに違い

ない。ひと・まち・社会の「動き」の認識が、地域の希望を抱かせるという仮説は、こうした希望学の考え方にもある。「ひとの動き」は、「移住者」「ジェンダー平等」「少数派」「世代交代」の領域における動きの程度を5段階で評価し、計15項目の平均値を「ひとの動き」[1～5点]とした^{注4}。「まちの動き」では、「街づくり」「子育て」「経済」「ブランドイメージ」の領域における動きの程度を5段階で評価し、計15項目の平均値を「まちの動き」[1～5点]とした^{注5}。また、DX（デジタルトランスフォーメーション）やSDGs（持続可能な開発目標）に関する地域の動きを5段階で評価して、計15項目の平均値を「社会の動き」[1～5点]として算出した^{注6}。

「政治・行政への関心・信頼」[1～5点]は、「政治・行政への関心」と「政治・行政への信頼」の平均値で算出した。「政治・行政への関心」は、「あなたは、お住まいの地域の自治体の政治行政について、どの程度関心がありますか」という質問に対して、「まったく関心がない（1点）」「あまり関心がない（2点）」「どちらともいえない（3点）」「ある程度関心がある（4点）」「とても関心がある（5点）」の5段階で評価した。「政治・行政への信頼」は、「あなたは、お住まいの地域の自治体の政治行政について、どの程度信頼していますか」という質問に対して、「まったく信頼していない（1点）」「あまり信頼していない（2点）」「どちらともいえない（3点）」「ある程度信頼している（4点）」「とても信頼している（5点）」の5段階で回答させた。

また、その地域で生き方が面白く、目標や憧れとなるような人（ロールモデル）の存在も、地域に希望を感じさせる要因になるものと推察できる。「ロールモデルの存在」[1～4点]は、二つの設問の得点の平均値で算出した。一つ目は「面識があるかどうかは別として、あなたのお住まいの地域に「生き方が面白い」と思う人はいますか」という質問、二つ目は「面識があるかどうかは別として、あなたのお住まいの地域に「目標としたい」「憧れる」と思う人はいますか」の質問に対して、「そのような人はいなさそう（1点）」「わからない（2点）」「いそうだ（3点）」「いる（4点）」の4段階で評価した。

地域における様々な格差は、地域の希望を失わせる一要因となるものと推察できる。「地域内の格差」は、「あなたが住んでいる地域についてお聞きします。以下にあげる項目は、現在どのような状態だと思いますか」という質問に対して、「生まれた家庭環境による格差」「若者と高齢者の世代間の格差」「性別による格差」「個人の能力や努力による格差」「全体的にみた社会の格差」について、「とても小さい（1点）」「小さい（2点）」「どちらともいえない（3点）」「大きい（4点）」「とても大きい（5点）」の5段階で回答させて、それらの平均値で「地域内の格差」[1～5点]を算出した。

そして、人口の増減についての認識は、地域の希望に影響する基礎的な要因であると推察される。「人口増減の認識」[1～5点]は、「あなたがお住まいの市区町村の人口はどのような状態ですか。正確でなくても、あなたがお感じになっている実感でお答えください」という質問に対して、「人口は大幅に減っている（1点）」「人口は緩

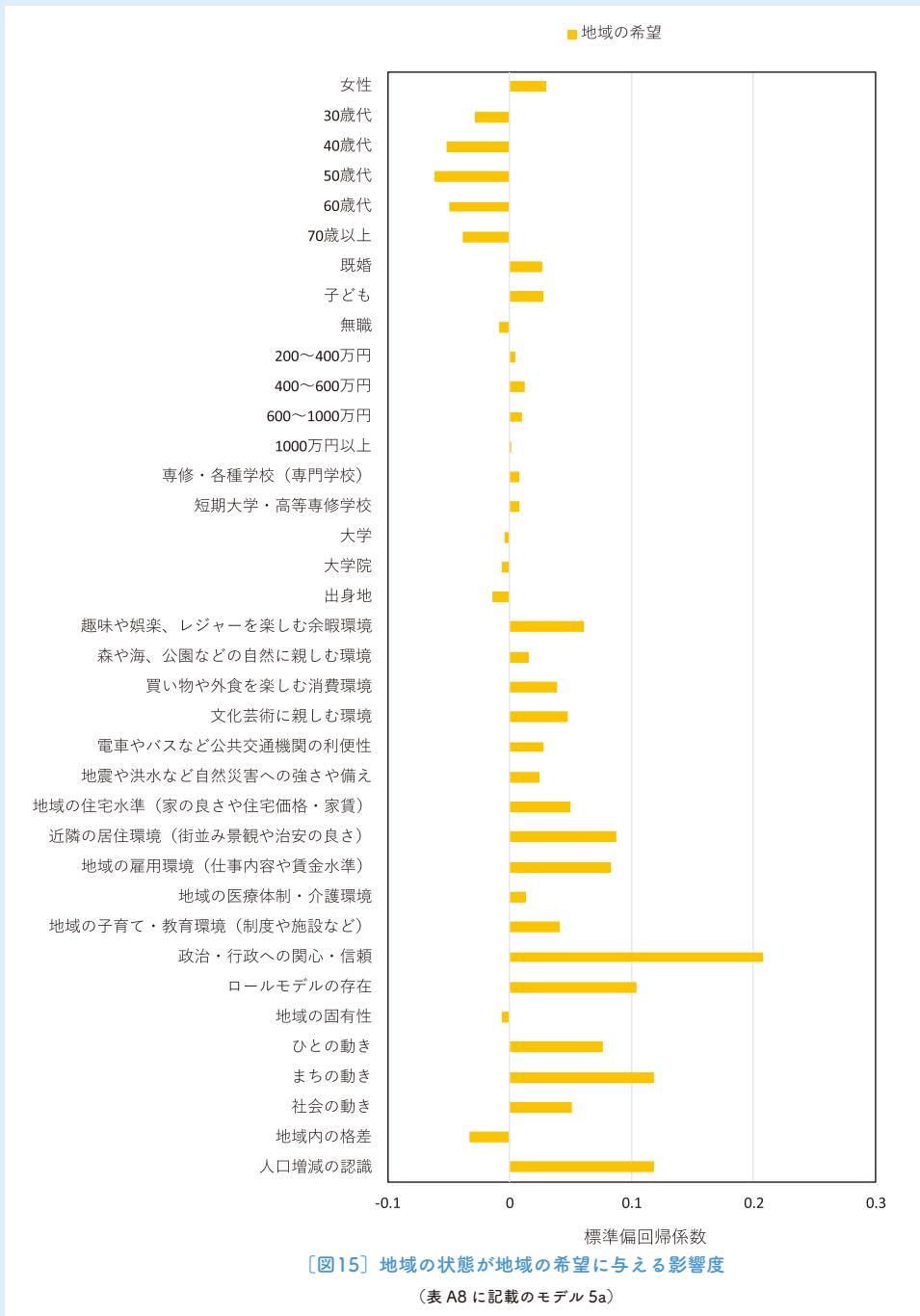
やかに減っている（2点）」「人口は横ばいである（3点）」「人口は緩やかに増えている（4点）」「人口は大幅に増えている（5点）」の5段階で評価した。

4.2 地域の希望・シビックプライドに与える影響度（重回帰分析）

図15に、地域の状態を表す各説明変数が「地域の希望」に与える影響度（標準偏回帰係数 β ）を示す。「生活領域別の環境」はおよよその説明変数で「地域の希望」に対して正の効果があることが確認される。特に「地域の雇用環境（仕事内容や賃金水準）」「近隣の居住環境（街並み景観や治安の良さ）」や「趣味や娯楽、レジャーを楽しむ余暇環境」の影響度が大きい。最も影響度が大きい説明変数は「政治・行政への関心・信頼」であり（ $\beta=0.21$ ）、政治・行政が「地域の希望」にとって重要な問題であることが分かる。また、「ロールモデルの存在」も「地域の希望」を高める効果がある。加えて、地域の「動き」を表す説明変数も全般的に強い正の効果があることが確認され、特に「まちの動き」「ひとの動き」の影響度が大きい。「地域内の格差」の増大は、「地域の希望」を下げる負の効果があることも確認できる。また、「地域の固有性」は「地域の希望」に対しては負の効果がある。

図16に、「シビックプライド」を目的変数とした各説明変数の影響度を示す。「政治・行政への関心・信頼」や「ロールモデルの存在」は「地域の希望」に対するのと同様に、「シビックプライド」に対しても強い正の影響がある。しかし、「地域の希望」と「シビックプライド」では影響に相違が見られる説明変数があることも確認できる。例えば、地域の「動き」に関する説明変数の影響度は、「地域の希望」に対する程度に比べて大きくなっている。また、「地域の希望」に対する影響とは異なり、「地域の固有性」は「シビックプライド」に対しては強い正の影響があることが確認できる。また、「個人の属性」の影響度の相違としては、「女性」は「地域の希望」に対して正の効果があるが、「シビックプライド」に対しては負の効果が見られ、女性は男性に比べて「地域の希望」は高く、「シビックプライド」は低い傾向にある。また、現在の居住地が自身の出身地であることを意味する「出身地」^{注7}が「地域の希望」に対してはやや負の効果があるのに対して、「シビックプライド」に対しては強い正の効果があることが確認できる。「出身地」で暮らす人の「シビックプライド」はそうでない人に比べて高い傾向にあるが、「地域の希望」にそうした相違は見られない。

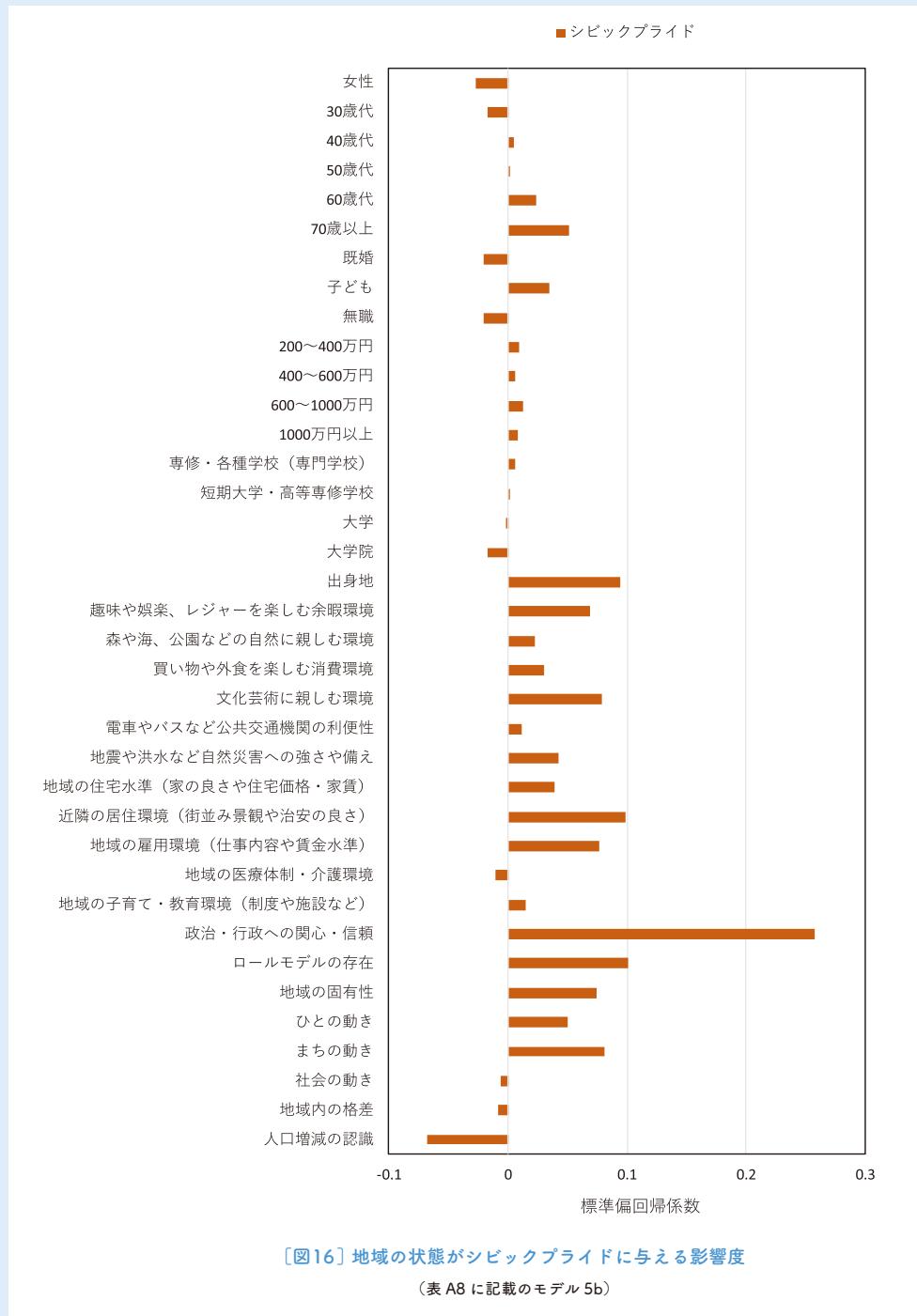
「地域の希望」と「シビックプライド」は、いずれも幸福度や地方創生に寄与する意識を高める正の効果がある。「政治・行政への関心・信頼」のように、「地域の希望」と「シビックプライド」のいずれにとっても重要な要因がある一方で、「地域の固有性」は「シビックプライド」に対してのみ、ひと・まち・社会の「動き」はより「地域の希望」



に対してというように、それぞれを生み出す地域の状態は少しづつ異なることが確認できる。

また、興味深いことに、「人口増減の認識」の効果は「地域の希望」と「シビックプライド」では正負が反転している。地域の人口が増加している認識がある人の地域の希望は高いが、シビックプライドは低い傾向にある。人口増減はその他の地域の状態と密接に関わる基底的な要因であるため解釈は困難だが、人口増減との関連を見

ても、地域の希望とシビックプライドはそれぞれに異なる地域の状態を反映することがよく分かる。また、「人口増減の認識」の「地域の希望」に対する効果の大きさ ($\beta = 0.12$) と比較して、「政治・行政への関心・信頼」の方が効果は大きく ($\beta = 0.21$)、「ロールモデルの存在」や「まちの動き」も同程度の正の効果であり、個人によって抱かれる地域の希望は人口増減のみで決まるものではないことが分かる。



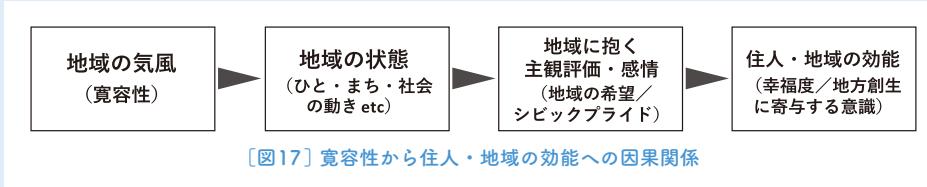
5.1 寛容性が育むもの

ここまで、地域の希望が幸福度や地方創生に寄与する意識を高めることや、ひと・まち・社会の「動き」などの地域の希望を生み出す要因について分析してきた。

それでは、地域の希望に繋がる地域の状態は、その地域にどういった土壌があれば生み出されるのだろうか。地域の希望に繋がる地域の状態を育む、地域の気風といったものが存在する可能性がある。ひと・まち・社会の「動き」や、ロールモデルとなる生き生きした人材を生み出す地域の気風とは、どういったものがあり得るのか。多様な生き方や価値観を許容する自由な空気、すなわち寛容性は、一つの答えである可能性がある。

「寛容性」は、『地方創生のファクターX——寛容と幸福の地方論』など以前の報告書から着目し続けてきた、多様な価値観を許容する地域の気風を表す概念である。学術的には、都市経済学者のリチャード・フロリダが都市の経済発展の要件として掲げた3Ts「才能（タレント）」「技術（テクノロジー）」「寛容（トーレンス）」の一角を成すものであり、フロリダはそれの中でも「寛容」を最も重要な要件として位置付けている^[12]。本調査における「寛容性」は、「女性の生き方」「家族のあり方」「若者信頼」「少数派包摶」「個人主義」「変化の受容」の6領域で構成された指標であり、各領域でその地域の空気の寛容さの程度を測定している。都道府県の寛容性指標の値は、その都道府県の人口増減率と強い正の相関があり、特に人口の移動に係る社会増減率との相関係数は0.80と極めて大きい^[13]。地域の寛容性の高さによって、様々な生き方が許容されるために「ロールモデルの存在」や、ひと・まち・社会の「動き」が活性化されて、地域の希望に繋がる状態が生み出される、そうした住人の幸福や地方創生を育む土壌として寛容性が機能している可能性がある。

そこで、寛容性という「地域の気風」が、ひと・まち・社会の動きなどの「地域の状態」を育み、これが地域の希望など「地域に抱く主観評価・感情」を生み出すことで、最終的に住人の幸福度や地方創生に寄与する意識が形成されるとする、因果関係を想定した。寛容性を土台とするこの因果関係を検証するため、本分析では構造方程式モデリング（SEM: Structural Equation Modeling）によるパス解析を実施する。図17に、本分析で想定した因果関係を示す。この因果関係における各階層で考慮する要素は、ここまで分析で得た知見を踏まえて決定する。

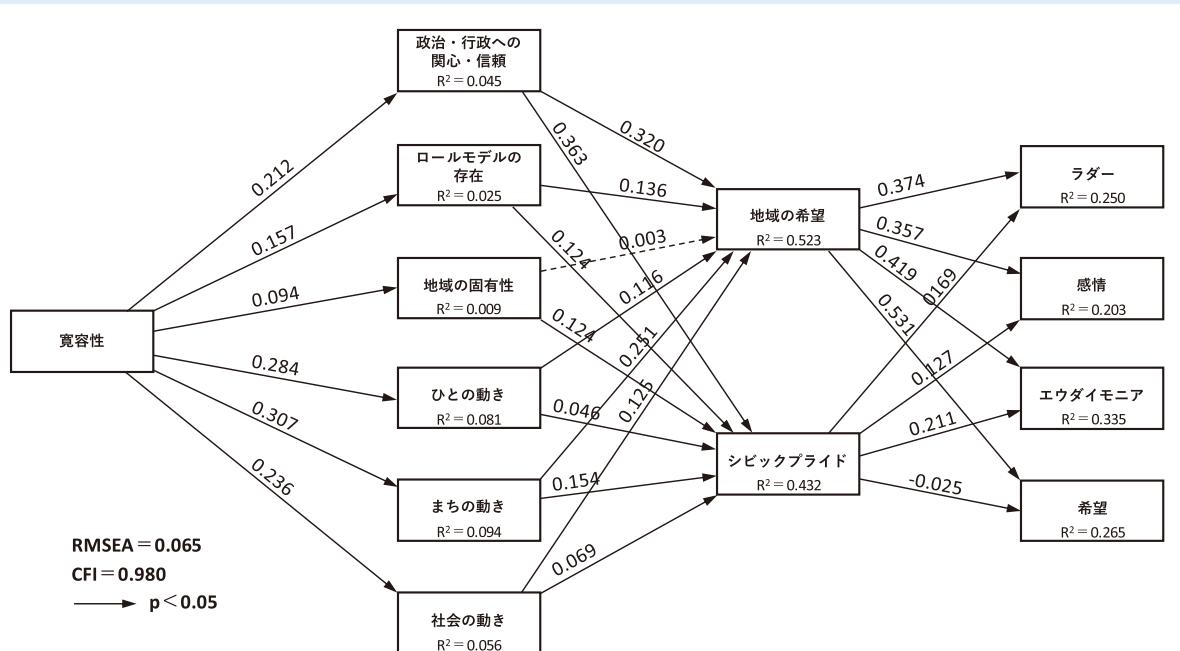


5.2 寛容性から住人・地域の効能への因果

「地域の気風」が「地域の状態」を育み、それが「地域に抱く主観評価・感情」を生み出し、最終的に「住人・地域の効能」へ繋がる因果関係を分析する。「地域の気風」として考慮するのは「寛容性」であり、「あなたがお住まいの地域の気風や社会の雰囲気にどのようなイメージをお持ちですか。以下にあげる項目について、それぞれどの程度あてはまるかお答えください」という質問に対して、各項目を「全然あてはまらない」「あまりあてはまらない」「ある程度あてはまる」「とてもあてはまる」の4段階で回答させた。6領域を各2項目で評価させており、「女性の生き方」は「結婚して子どもを持つことこそ女性の幸福だと考える人が多い（反転）」「政治や経済の場面で活躍している女性が多い」、「家族のあり方」は「年齢が来れば結婚して家庭を持つのが当たり前という考え方強い（反転）」「結婚しないで独身で生きてても肩身の狭い思いをすることはない」、「若者信頼」は「若者は年長者の言うことに逆らえない空気がある（反転）」「若者の挑戦を応援する気風がある」、「少数派包摶」は「相手の出自（出身地、血縁関係など）を気にする人が多い（反転）」「人種差別やマイノリティ差別に繊細な注意を払う人が多い」、「個人主義」は「場の空気を読まず己の主張をしがちな人は疎まれる（反転）」「他人のことにはあまり干渉しない雰囲気がある」、「変化の受容」は「成功している人を批判して足を引っ張る風潮がある（反転）」「リスクをとって新しい試みに挑戦する人が尊敬される」について、反転項目は得点を反転させて、計12項目の平均値として「寛容性」[1～4点]を算出した。

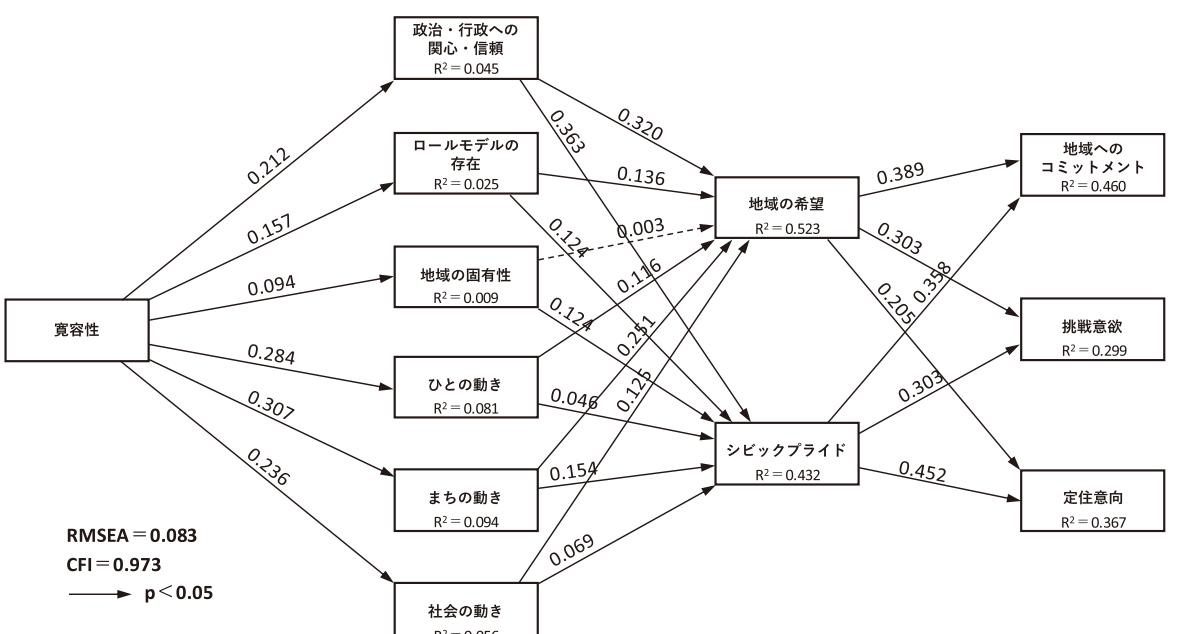
「地域に抱く主観評価・感情」として考慮するのは、「地域の希望」[1～5点]と「シビックプライド」[1～5点]である。「地域の状態」は、前の分析で「地域の希望」と「シビックプライド」への影響が確認された「政治・行政への関心・信頼」[1～5点]、「ロールモデルの存在」[1～2点]、「地域の固有性」[1～5点]、そして地域の「動き」を表す「ひとの動き」「まちの動き」「社会の動き」[1～5点]である。

「住人・地域の効能」として、幸福度は「ラダー」「感情」「エウディモニア」、そして「希望」を考慮した。「希望」は幸福度とは少し異なるものだが、幸福度との密接な関係が認められたため、ここでは幸福度と共に効能として考慮する。地方創生に寄与する意識は、「地域



〔図18〕 寛容性から幸福度へ向かう因果の影響度（標準化されたパス係数）

（各階層内の内生変数の誤差間の相関の記載は省略。表A9に記載のモデル6a）



〔図19〕 寛容性から地方創生に寄与する意識へ向かう因果の影響度（標準化されたパス係数）

（各階層内の内生変数の誤差間の相関の記載は省略。表A9に記載のモデル6b）

へのコミットメント」「挑戦意欲」「定住意向」の3種類を考慮した。

「宽容性」を土台とする、「住人・地域の効能」への因果の繋がりを表現した因果モデルを考える上で、「地域の状態」及び「地域に抱く主観評価・感情」は、宽容性の他の要因からの影響もあることが推察される。そのため、「地域の状態」と「地域に抱く主観評価・感情」の各階層では変数の誤差同士に相関を設けた。「幸福度」の各変数も互いに強い相関があり、地域に関連する以外の要因からも様々な影響があると推察されるため、誤差同士には相関を設けた。また、「地方創生に寄与する意識」では強い正の相関関係にある「地域へ

のコミットメント」と「挑戦意欲」の誤差同士に相関を設けた。「住人・地域の効能」は「幸福度」と「地方創生に寄与する意識」をそれぞれ別の因果モデルで考慮して、モデルの適合度は比較適合度指標（CFI）と平均二乗誤差平方根（RMSEA）で評価する。

図18に幸福度を効能とした因果モデルのSEMによるバス解析の結果を示す。適合度はCFI = 0.980, RMSEA = 0.065であり、十分な適合度がある。図中に記載された数字は標準化されたバス係数であり、因果関係の強さを表すものと解釈できる。バス係数は、「地域の固有性」から「地域の希望」を除く全ての経路において5% 有

意水準で有意な効果が確認された。「寛容性」から「地域の状態」の各変数への影響度を比較すると、「まちの動き」「ひとの動き」「社会の動き」への影響度が最も強く、それぞれのパス係数は0.307、0.284、0.236である。また、「寛容性」から「地域の固有性」への因果関係は相対的に弱いことも確認できる。「寛容性」から「地域の状態」を介した「地域の希望」と「シビックプライド」への総合的な効果は0.23と0.18であり、「寛容性」は「地域に抱く主観評価・感情」を高める正の効果がある。また、「地域の希望」と「シビックプライド」の「幸福度」に対する影響度を比較すると、「地域の希望」の方が強く、特に「エウダイモニア」のパス係数は0.419、「希望」に対しては0.531と影響度は大きい。「寛容性」の「幸福度」に対する総合的な効果は、「ラダー」は0.117、「感情」は0.105、「エウダイモニア」は0.135、そして「希望」は0.117であり、「寛容性」は想定された「地域の状態」と「地域の希望」「シビックプライド」を介して、個人の幸福度を高める効果があることが確認できる。

図19に「地方創生に寄与する意識」を効能とした因果モデルのパス解析の結果を示す。適合度はCFI = 0.973、RMSEA = 0.083であり、十分な適合度がある。「地域の希望」と「シビックプライド」は「地方創生に寄与する意識」に対して同程度の強さの影響があることが確認できる。「寛容性」から「地方創生に寄与する意識」に対する総合的な効果は、「地域へのコミットメント」は0.155、「挑戦意欲」は0.125、「定住意向」は0.130であり、「寛容性」は地方創生に寄与する意識を高める効果があることが確認できる。

「寛容性」は「政治・行政への関心・信頼」「ロールモデルの存在」「ひとの動き」「まちの動き」「社会の動き」を育み、「地域の希望」と「シビックプライド」を生み出し、個人の幸福度や地方創生に寄与する意識を高めることが確認された。「寛容性」が住人や地域にもたらす効能のこうした因果関係が、寛容性と人口動態の密接な関係性を生み出しているものと考えられる。

6

まとめ：人生における地域の希望の役割

6.1 本調査で得られた知見の整理

本分析では、希望が人間の幸福にとって重要な問題であることを確認した。また、地域の希望はシビックプライドと共に、個人の幸福度や地方創生に寄与する意識を高める影響があることを確認した。加えて、地域の希望を生み出す要因を分析し、寛容性が地域の希望を介して住人や地域に効能をもたらすことが確認された。本分析で得られた主な知見を以下に整理する。

① 人生における希望

- 10年後の未来の見通しで測定された希望の程度は、20歳代、30歳代などの若年層で高い。に対して、性格としての楽観主義は、年齢が増加するにつれて向上する傾向がある。
- 希望の有無は所得などの生活の状況以上に、幸福度と密接な関係性がある。例えば、所得1200万円以上の希望がない者の幸福度は、所得200万円未満の希望がある者の幸福度の平均値を下回る。
- 幸福度は希望の有無と密接な関係性があり、希望のある者の殆ど(7割)が高い幸福度(ラダーで7以上)を報告している。

② 地域の希望の特徴と効能

- 地域の希望と年齢の関係性は、若年層と高齢層で高い傾向がある(U字カーブ)。
- 地域の希望はシビックプライド以上に、個人の幸福度に対して強

い影響がある。

- 地域の希望はシビックプライドと同程度に、地域へのコミットメントなどの地方創生に寄与する意識を高める効果がある。
- 地域の希望が定住意向に与える影響は、シビックプライドと比較してやや弱いが、年齢層ごとで見た場合、年齢が若い者ほど地域の希望が定住意向に与える影響は強くなる。

③ 地域の希望を生み出す要因

- 政治・行政への関心・信頼、ロールモデルの存在、ひと・まち・社会の動きは、地域の希望を高める影響がある。
- ひと・まち・社会の動きの地域の希望に対する影響は、シビックプライドに対する影響に比べて強い。
- シビックプライドとの比較では、地域の固有性(ローカルアイデンティティ)はシビックプライドを高めるが、地域の希望を高める効果は見られない。
- 出身地で暮らす人たちのシビックプライドは高い傾向にあるが、地域の希望にそうした傾向は見られない。
- 地域の人口が増加している認識がある人の地域の希望は高く、反対にシビックプライドは人口が減少している認識がある人たちで高い傾向がある。

④ 寛容性から住人・地域の効能への因果

- 寛容性はひと・まち・社会の「動き」などの地域の状態を育み、地域の希望とシビックプライドが生み出されて、住人の幸福度や地方創生に寄与する意識を高める影響がある。

最後に、上述の知見を踏まえながら、地域の希望が地方創生に果たす役割について論じて本稿を終えよう。

6.2 地域の創造的な形能力

地方創生の問題を議論する際、シビックプライドについては従来から議論がなされてきた。地方創生の問題を議論するうえで、地域の希望という新しい側面に着目している点が本調査の特徴である。シビックプライドと地域の希望は、個人のレベルで互いに強い正の相関があり、地域の希望を高める地域の状態の多くは同時にシビックプライドの創出にも寄与している。例えば、地域の政治・行政への関心や信頼、或いはロールモデルの存在は、地域の希望とシビックプライドの双方に寄与する地域の特徴である。しかし、両者に寄与する要因には相違も見られ、ひと・まち・社会の「動き」は地域の希望に対する影響の方がシビックプライドに対する影響に比べて大きい。また、地域の固有性（ローカルアイデンティティ）はシビックプライドを高めるが、地域の希望に対する正の効果は見られない。また、地域の希望とシビックプライドでは、個人の幸福度や地方創生に寄与する意識など、住人・地域の効能の点においても相違が見られる。住人の幸福度に対しては、シビックプライド以上に地域の希望の方が影響は大きい。反対に、定住意向に対してはシビックプライドの方が地域の希望よりも強い影響がある。このように、地域

の希望とシビックプライドではそれを生み出す要因も、その効能も少しずつ異なるため、シビックプライドと共に地域の希望を育む意識をもつことが、地方創生につながる地域づくりにとって、そして何より、住人の幸福の創出にとっては重要であると言える。

希望学においては、希望という心理は「変化」に関わるものであると議論されてきた。こうした議論を裏付けるように、ひと・まち・社会の「動き」が地域の希望を抱くうえで重要な要因であることが本調査において示された。また、地域の希望は個人の幸福度や地方創生に寄与する意識に対して強い影響があることが確認された。哲学者の三木は「生命の形能力が希望である」と表現したが、地域に対して抱かれる希望もまた、地域を創造的に形成していく力であると表現してもよいだろう。

そして、多様な生き方や価値観を許容する地域の寛容性が、地域の希望に繋がる地域の状態を育み、住人や地域に効能をもたらすことが示された。希望学の実証的な調査において、挫折を経験したことがある人ほど希望を抱きやすい傾向にあるという、興味深い知見が報告されている^[10]。生物という存在の形能力をその根底において支えているのも、突然変異という遺伝子の試行錯誤にある。こうした事実から類推しても、地域における様々な試みを、その失敗も含めて受け入れる寛容な空気が、地域の希望を育むための不可欠な土壤であるのだろう。

【注釈】

注1:キャントリル・ラダーの得点[0～10点]は、「考えうる最高の人生と最低な人生があるとして、あなたの人生は現在どの位置にありますか。あなたにとっての「最高の人生」を10点、「最低の人生」を0点とした場合、現在のあなたの人生の位置が何点くらいになるかをお答えください」という質問で、「0点」「1点」「2点」「3点」「4点」「5点」「6点」「7点」「8点」「9点」「10点」の11段階の選択肢で回答させた。

注2:重回帰分析において、年齢は「20歳代(18歳以上を含む)」を基準として、「30歳代」「40歳代」「50歳代」「60歳代」「70歳代」をダミー変数として考慮した。学歴は「小中学校」「高校」「その他／答えたくない」を基準として、「専修・各種学校(専門学校)」「短期大学・高等専修学校」「大学」「大学院」をダミー変数として考慮した。所得は「収入はない」「200万円未満」「わからない／答えたくない」を基準として、「200～400万円」「400～600万円」「600～1000万円」「1000万円以上」をダミー変数として考慮した。

注3:「地域の固有性」[1～5点]は、「以下のことは、あなたのお住まいの地域にどの程度あてはまりますか」という質問に対して、計15項目の程度を「まったくあてはまらない(1点)」「あまりあてはまらない(2点)」「どちらともいえない(3点)」「ある程度あてはまる(4点)」「よくあてはまる(5点)」の5段階で評価した。評価した項目は、「古くからの歴史や伝統がある」「史跡・名勝など観光名所がある」「昔からの産業や商売が今でも元気である」「山、海、川など心の風景とも言える自然がある」「地域の歴史を感じる街並みが残っている」「豊かな自然に親しむ環境がある」「賑やかな商店街・繁華街がある」「中心街にビルやマンションが立ち並んでいる」「郊外のロードサイドに大型商業施設が立ち並んでいる」「有名な名物や特産品・土産物がある」「老舗のレストラン・食事処がある」「地酒や郷土料理など、この地域ならではの食文化がある」「古くからの地域のお祭りや伝統行事がある」「文化芸術に親しむ環境がある」「プロスポーツチームなど地域のスポーツが盛んである」である。

注4:「ひとの動き」[1～5点]は、「以下のことは、昨今の(ここ5、6年の)あなたの住まいの地域にどの程度あてはまりますか」という質問に対して、計15項目の程度を「まったくあてはまらない(1点)」「あまりあてはまらない(2点)」「どちらともいえない(3点)」「ある程度あてはまる(4点)」「よくあてはまる(5点)」の5段階で評価した。評価した項目は、「県外からの移住者が増えている」「若者のUターンが増えている」「二拠点生活で他所と往来する人が増えている」「地方議会に女性の議員が増えた」「活躍する地元企業の女性経営者が増えた」「男性と同等の地位で働く女性が増えた」「育児休暇を取る男性が増えた」「女性と同等に家事を分担する男性が増えた」「個人旅行の外国人観光客が増えた」「外国人の居住者が増えた」「社会で活躍する障害者が増えた」「政治家の若返りが進んでいる」「地元企業の経営者の若返りが進んでいる」「街で若者や子育て世代を見かける機会が増えた」「感性が若々しい元気な高齢者が増えた」である。

注5:「まちの動き」[1～5点]は、「昨今の(ここ5、6年の)あなたの住まいの地域について、以下のようない実感がありますか。どの程度あてはまるかお答えください」という質問に対して、計15項目の程度を「まったくあてはまらない(1点)」「あまりあてはまらない(2点)」「どちらともいえない(3点)」「ある程度あてはまる(4点)」「よくあてはまる(5点)」の5段階で評価した。評価した項目は、「中心市街地に若者向けのお店が増えた」「市街地に新しいマンションやビルが増えた」「リノベーションしたおしゃれなお店や施設が増えた」「街におしゃれな人が増えた」「地元にクラフトビール醸造所ができた」「街づくりのためのイベントやプロジェクトが開催されるようになった」「道路や公園などみんなが楽しめる公共の場所が整備されてきた」「子育て支援の施設やサービスが充実してきた」「子連れでも気兼ねなく楽しめるお店や場所が増えた」「企業の賃金やアルバイトの時給が上がってきた」「ベンチャー・スタートアップなど、新しい会社の起業が増えた」「成長して勢いのある地元企業がある」「ITやデザインなど新しい仕事が増えてきた」「低賃金で長時間労働のブラック企業が減った」「地域の知名度やブランドイメージが上がってきた」である。

注6:「社会の動き」[1～5点]は、「昨今の(ここ5、6年の)あなたの住まいの地域について、以下のようない実感がありますか。どの程度あてはまるかお答えください。」という質問に対して、計15項目の程度を「まったくあてはまらない(1点)」「あまりあてはまらない(2点)」「どちらともいえない(3点)」「ある程度あてはまる(4点)」「よくあてはまる(5点)」の5段階で評価した。評価した項目は、「スマートフォンが5Gで使えるようになった」「買い物や飲食でキャッシュレス決済が広がった」「オンラインでのショッピングやサービス利用が便利になってきた」「役所の情報がスマートフォンで入手しやすくなった」「役所の各種手続きがオンラインでできるようになった」「オンライン診療ができるようになった」「テレワークを認める職場が増えた」「コ・ワーキングスペースやリモートワーク施設ができた」「カーシェアやシェアサイクルが使いやすくなった」「SDGsという言葉を身近に感じるようになった」「太陽光パネルを備えた住宅が増えた」「電気自動車を見かけるようになった」「リサイクルやリユースなど環境問題への取り組みが増えた」「地元の食材を積極的に使う飲食店が増えた」「新築住居を買うのではなくリフォームやリノベーションをする人が増えた」である。

注7:「出身地」はダミー変数であり、「あなたが高校を卒業した時(17～18歳ごろ)、どこに住んでいましたか」という質問に対して、「今住んでいる市区町村」「同じ都道府県内の別の市区町村」「別の都道府県」「海外」で回答させて、「今住んでいる市区町村」「同じ都道府県内の別の市区町村」であれば1点、それ以外であれば0点とした。

【参考文献】

- [1] 三木清:人生論ノート.新潮文庫, 1978(改版)
- [2] Deaton, A.: What Do Self-Reports of Wellbeing Say About Life-Cycle Theory and Policy? *Journal of Public Economics*, 162, p.18-25, 2018
- [3] ダニエル・カーネマン, 村井章子(訳):ファスト&スロー あなたの意思はどのように決まるか? (下巻), 第24章 資本主義の原動力—楽天的な起業家.早川書房, 2014
- [4] Rand, K.L.: Hope, Self-Efficacy, and Optimism: Conceptual and Empirical Differences, In M.W. Gallagher, & S.J. Lopez (Eds.), *The Oxford Handbook of Hope* (p.45-58). Oxford University Press, 2018
- [5] Snyder, C.R.: Hope Theory: Rainbows in The Mind. *Psychological Inquiry*, 13(4), p.249-275, 2002
- [6] 伊藤香織:都市への思いをモデル化する. *計画行政*, 43(3), p.7-12, 2020
- [7] 経済協力開発機構(OECD)(編著), 高橋しのぶ(訳):主観的幸福を測るOECDガイドライン. 明石書店, 2015
- [8] 有馬雄祐:「遊び」から見るその人の幸せと寛容さ, 島原万丈(編)“遊び”から的地方創生 — 寛容と幸福の地方論Part2 (p.140-170). LIFULL HOME'S 総研, 2022
- [9] 有馬 雄祐:地方創生のための寛容性と幸福の分析, 島原万丈(編) 地方創生のファクターX — 寛容と幸福の地方論 (p.98-115). LIFULL HOME'S 総研, 2021
- [10] 有馬雄祐:人生満足度と年齢の関係性の再考 —所得と他者との交流が「中年の危機」を緩和する, 島原万丈(編) 住宅幸福論Episode3 Lonely happy libertiesひとり暮らしの時代 (p.174-179). LIFULL HOME'S 総研, 2020
- [11] 玄田有史:希望のつくり方. 岩波新書, 2010
- [12] 古澤慎一, 木南莉莉, 木南章:日本における都市の持続的発展とクリエイティブ・クラスター寛容性と多様性に着目してー. *地域学研究*, 49(2), p.231-252
- [13] Yusuke Arima, Manjo Shimahara, Masahumi Hashiguchi, Naoko Yoshinaga: Happiness, Tolerance, and Population Dynamics of 47 Prefectures in Japan. the 10th European Conference on Positive Psychology (ECPP 2022), 2022.07

A. 分析の詳細

A.1 統計モデルの一覧

本分析で実施した重回帰分析と構造方程式モデリングにおけるモデルの一覧を表A1と表A2に示す。

表 A1 重回帰モデルの一覧

モデル名	目的変数	説明変数
モデル 1a	ラダー	個人の属性、楽観主義、希望、生活の領域満足
モデル 1b	感情	個人の属性、楽観主義、希望、生活の領域満足
モデル 1c	エウダイモニア	個人の属性、楽観主義、希望、生活の領域満足
モデル 2a	ラダー	個人の属性、生活の領域満足、地域の希望、シビックプライド
モデル 2b	感情	個人の属性、生活の領域満足、地域の希望、シビックプライド
モデル 2c	エウダイモニア	個人の属性、生活の領域満足、地域の希望、シビックプライド
モデル 2d	希望	個人の属性、生活の領域満足、地域の希望、シビックプライド
モデル 3a	地域へのコミットメント	個人の属性、生活の領域満足、地域の希望、シビックプライド
モデル 3b	挑戦意欲	個人の属性、生活の領域満足、地域の希望、シビックプライド
モデル 3c	定住意向	個人の属性、生活の領域満足、地域の希望、シビックプライド
モデル 4a	定住意向	個人の属性、生活の領域満足、地域の希望、シビックプライド
モデル 4b	定住意向	個人の属性、生活の領域満足、地域の希望、シビックプライド
モデル 4c	定住意向	個人の属性、生活の領域満足、地域の希望、シビックプライド
モデル 5a	地域の希望	個人の属性（出身地を含む）、生活領域別の環境、地域の状態
モデル 5b	シビックプライド	個人の属性（出身地を含む）、生活領域別の環境、地域の状態

表 A2 構造方程式モデルの一覧

モデル名	外生変数	内生変数（地域の状態）	内生変数（地域に抱く主観評価・感情）	内生変数（住人・地域の効能）
モデル 6a	寛容性	政治・行政への関心・信頼、ロールモデルの存在、地域の固有性、人の動き、街の動き、社会の動き	地域の希望、シビックプライド	ラダー、感情、エウダイモニア、希望
モデル 6b	寛容性	政治・行政への関心・信頼、ロールモデルの存在、地域の固有性、ひとの動き、まちの動き、社会の動き	地域の希望、シビックプライド	地域へのコミットメント、挑戦意欲、定住意向

A.2 変数の要約統計量

本分析で使用した変数の要約統計量を表A3に示す。表A7に記載のモデルを除き、いずれもサンプルサイズは18800である。

表 A3 変数の要約統計量

	変数	平均値	標準偏差	最小値	最大値
幸福度	ラダー	5.841	2.297	0	10
	感情	3.071	0.684	1	5
	エウダイモニア	2.801	0.820	1	5
	希望	3.998	1.306	1	7
個人の性格	楽観主義	3.030	1.015	1	5
	地域に抱く	2.904	0.698	1	5
主観評価・感情	シビックプライド	2.921	0.931	1	5
	地域へのコミットメント	2.695	0.826	1	5
地方創生に寄与する意識	挑戦意欲	3.216	1.519	1	7
	定住意向	4.706	1.530	1	7
	女性*	0.500	0.500	0	1
個人の属性	結婚*	0.569	0.495	0	1
	子ども*	0.522	0.500	0	1
	30歳代*	0.184	0.387	0	1
	40歳代*	0.207	0.405	0	1
	50歳代*	0.180	0.384	0	1
	60歳代*	0.192	0.394	0	1
	70歳代*	0.129	0.335	0	1
	200～400万円*	0.229	0.420	0	1
	400～600万円*	0.170	0.376	0	1
	600～1000万円*	0.161	0.368	0	1
生活の領域満足	1000万円以上*	0.053	0.224	0	1
	無職*	0.193	0.394	0	1
	専修・各種学校（専門学校）*	0.115	0.319	0	1
	短期大学・高等専修学校*	0.113	0.317	0	1
	大学*	0.348	0.476	0	1
	大学院*	0.037	0.190	0	1
	出身地*	0.722	0.448	0	1
生活の領域満足	余暇生活の満足	3.202	1.034	1	5
	住居の満足	3.269	1.040	1	5
	友人や親戚との関係の満足	3.275	0.984	1	5
	仕事の満足	4.100	1.641	1	5
	健康状態の満足	3.089	1.031	1	5
生活領域別の環境	趣味や娯楽、レジャーを楽しむ余暇環境	2.844	1.005	1	5
	森や海、公園などの自然に親しむ環境	3.300	0.994	1	5
	買い物や外食を楽しむ消費環境	3.043	1.029	1	5
	文化芸術に親しむ環境	2.926	0.944	1	5
	電車やバスなど公共交通機関の利便性	2.725	1.136	1	5
	地震や洪水など自然災害への強さや備え	3.025	0.915	1	5
	地域の住宅水準（家の良さや住宅価格・家賃）	3.034	0.928	1	5
	近隣の居住環境（街並み景観や治安の良さ）	3.232	0.958	1	5
	地域の雇用環境（仕事内容や賃金水準）	2.731	0.938	1	5
	地域の医療体制・介護環境	3.035	0.961	1	5
地域の状態	地域の子育て・教育環境（制度や施設など）	2.992	0.882	1	5
	政治・行政への関心・信頼	3.002	0.866	1	5
	ロールモデルの存在	1.725	0.779	1	4
	地域の固有性	3.057	0.821	1	5
	ひとの動き	2.655	0.728	1	5
	まちの動き	2.645	0.782	1	5
	社会の動き	2.878	0.732	1	5
	地域内の格差	3.253	0.648	1	5
人口増減の認識	人口増減の認識	2.643	1.011	1	5

*はダミー変数を意味しており、平均値は割合を表す。

A.3 モデルの推定結果

本分析で実施されたモデルの推定値を表A4から表A9に示す。

表 A4 重回帰モデル（モデル 1a, モデル 1b, モデル 1c）の推定値

	モデル 1a	モデル 1b	モデル 1c
切片	-1.426 ***	-1.084 ***	-0.766 ***
女性	-0.026	-0.017 *	-0.119 ***
30 歳代	-0.005	-0.011	-0.056 **
40 歳代	-0.047	-0.049 ***	-0.064 ***
50 歳代	-0.113	-0.078 ***	-0.058 **
60 歳代	-0.347 ***	-0.147 ***	-0.067 ***
70 歳以上	-0.582 ***	-0.184 ***	-0.002
結婚	-0.289 ***	-0.015	-0.036 **
子ども	-0.206 ***	-0.028 **	-0.058 ***
無職	-0.353 ***	-0.044 ***	-0.222 ***
200～400 万円	-0.063 *	-0.013	-0.016
400～600 万円	-0.135 ***	-0.036 **	-0.018
600～1000 万円	-0.125 ***	-0.036 **	-0.008
1000 万円以上	-0.292 ***	-0.059 **	-0.058 *
専修・各種学校（専門学校）	-0.072	-0.006	-0.037 *
短期大学・高等専修学校	-0.060	-0.015	-0.048 **
大学	-0.142 ***	-0.006	-0.046 ***
大学院	-0.230 ***	-0.002	-0.099 ***
余暇生活の満足	-0.349 ***	-0.136 ***	-0.129 ***
住居の満足	-0.251 ***	-0.025 ***	-0.037 ***
友人や親戚との関係の満足	-0.221 ***	-0.095 ***	-0.091 ***
仕事の満足	-0.070 ***	-0.021 ***	-0.031 ***
健康状態の満足	-0.243 ***	-0.060 ***	-0.107 ***
楽観主義	-0.313 ***	-0.145 ***	-0.097 ***
希望	-0.521 ***	-0.083 ***	-0.142 ***
自由度修正済み決定係数 R ²	0.554	0.449	0.398
サンプルサイズ	18800	18800	18800

*** p < 0.001 (0.1%水準) ; ** p < 0.01 (1%水準) ; * p < 0.05 (5%水準)

表 A5 重回帰モデル（モデル 2a, モデル 2b, モデル 2c, モデル 2d）の推定値

	モデル 2a	モデル 2b	モデル 2c	モデル 2d
切片	-1.124 ***	-1.127 ***	-0.458 ***	-0.830 ***
女性	-0.036	-0.010	-0.106 ***	-0.023
30 歳代	-0.070	-0.004	-0.056 **	-0.154 ***
40 歳代	-0.090	-0.039 **	-0.079 ***	-0.313 ***
50 歳代	-0.039	-0.076 ***	-0.069 ***	-0.408 ***
60 歳代	-0.144 **	-0.150 ***	-0.083 ***	-0.575 ***
70 歳以上	-0.363 ***	-0.196 ***	-0.035	-0.645 ***
結婚	-0.377 ***	-0.028 *	-0.012	-0.143 ***
子ども	-0.259 ***	-0.042 ***	-0.056 ***	-0.096 ***
無職	-0.420 ***	-0.059 ***	-0.217 ***	-0.127 ***
200～400 万円	-0.062	-0.014	-0.028 *	-0.015
400～600 万円	-0.166 ***	-0.046 ***	-0.023	-0.037
600～1000 万円	-0.171 ***	-0.050 ***	-0.011	-0.063 **
1000 万円以上	-0.412 ***	-0.095 ***	-0.078 ***	-0.158 ***
専修・各種学校（専門学校）	-0.109 **	-0.000	-0.039 **	-0.074 **
短期大学・高等専修学校	-0.028	-0.026	-0.027	-0.020
大学	-0.138 ***	-0.003	-0.029 **	-0.053 **
大学院	-0.250 ***	-0.006	-0.104 ***	-0.074
余暇生活の満足	-0.425 ***	-0.152 ***	-0.127 ***	-0.133 ***
住居の満足	-0.211 ***	-0.011 *	-0.010	-0.019
友人や親戚との関係の満足	-0.294 ***	-0.113 ***	-0.081 ***	-0.136 ***
仕事の満足	-0.062 ***	-0.018 ***	-0.022 ***	-0.003
健康状態の満足	-0.383 ***	-0.095 ***	-0.131 ***	-0.193 ***
地域の希望	-0.535 ***	-0.170 ***	-0.324 ***	-0.719 ***
シビックプライド	-0.162 ***	-0.021 ***	-0.131 ***	-0.086 ***
自由度修正済み決定係数 R ²	0.492	0.409	0.447	0.369
サンプルサイズ	18800	18800	18800	18800

*** p < 0.001 (0.1%水準) ; ** p < 0.01 (1%水準) ; * p < 0.05 (5%水準)

表 A6 重回帰モデル（モデル 3a, モデル 3b, モデル 3c）の推定値

	モデル 3a	モデル 3b	モデル 3c	
切片	-0.484 ***	-0.241 ***	-0.406 ***	
女性	-0.126 ***	-0.263 ***	-0.049 **	
30 歳代	-0.067 ***	-0.245 ***	-0.237 ***	
40 歳代	-0.098 ***	-0.247 ***	-0.379 ***	
50 歳代	-0.107 ***	-0.278 ***	-0.409 ***	
60 歳代	-0.069 ***	-0.209 ***	-0.568 ***	
70 歳以上	-0.055 **	-0.225 ***	-0.587 ***	
結婚	-0.027 *	-0.093 ***	-0.029	
子ども	-0.043 ***	-0.087 ***	-0.095 ***	
無職	-0.097 ***	-0.134 ***	-0.123 ***	
200～400 万円	-0.018	-0.010	-0.145 ***	
400～600 万円	-0.015	-0.018	-0.129 ***	
600～1000 万円	-0.001	-0.005	-0.126 ***	
1000 万円以上	-0.044 *	-0.057	-0.051	
専修・各種学校（専門学校）	-0.013	-0.085 **	-0.028	
短期大学・高等専修学校	-0.019	-0.047	-0.068 *	
大学	-0.003	-0.073 **	-0.050 *	
大学院	-0.041	-0.105 *	-0.128 **	
余暇生活の満足	-0.012	-0.009	-0.018	
住居の満足	-0.007	-0.052 ***	-0.292 ***	
友人や親戚との関係の満足	-0.031 ***	-0.015	-0.093 ***	
仕事の満足	-0.011 **	-0.016	-0.036 ***	
健康状態の満足	-0.028 ***	-0.061 ***	-0.043 ***	
地域の希望	-0.435 ***	-0.660 ***	-0.339 ***	
シビックプライド	-0.305 ***	-0.485 ***	-0.643 ***	
自由度修正済み決定係数 R ²	0.471	0.315	0.425	
サンプルサイズ	18800	18800	18800	

*** p < 0.001 (0.1%水準) ; ** p < 0.01 (1%水準) ; * p < 0.05 (5%水準)

表 A7 重回帰モデル（モデル 4a, モデル 4b, モデル 4c）の推定値

	モデル 4a	モデル 4b	モデル 4c	
切片	-0.751 ***	-0.713 ***	-0.866 ***	
女性	-0.080 *	-0.016	-0.006	
結婚	-0.044	-0.021	-0.054	
子ども	-0.247 ***	-0.043	-0.073	
無職	-0.121	-0.063	-0.099 *	
200～400 万円	-0.080	-0.190 ***	-0.136 ***	
400～600 万円	-0.125 *	-0.103 *	-0.150 ***	
600～1000 万円	-0.156 **	-0.082 *	-0.165 ***	
1000 万円以上	-0.140	-0.015	-0.001	
専修・各種学校（専門学校）	-0.099	-0.021	-0.080	
短期大学・高等専修学校	-0.098	-0.061	-0.043	
大学	-0.036	-0.052	-0.061	
大学院	-0.113	-0.048	-0.224 **	
余暇生活の満足	-0.045	-0.030	-0.036	
住居の満足	-0.256 ***	-0.310 ***	-0.301 ***	
友人や親戚との関係の満足	-0.105 ***	-0.095 ***	-0.073 ***	
仕事の満足	-0.064 ***	-0.030 *	-0.004	
健康状態の満足	-0.068 **	-0.042 *	-0.019	
地域の希望	-0.473 ***	-0.290 ***	-0.265 ***	
シビックプライド	-0.536 ***	-0.723 ***	-0.656 ***	
自由度修正済み決定係数 R ²	0.379	0.426	0.423	
サンプルサイズ	5517	7259	6024	

*** p < 0.001 (0.1%水準) ; ** p < 0.01 (1%水準) ; * p < 0.05 (5%水準)

表 A8 重回帰モデル（モデル 5a, モデル 5b）の推定値

	モデル 5a	モデル 5b
切片	0.503 ***	-0.109 **
女性	0.041 ***	-0.051 ***
30 歳代	-0.051 ***	-0.042 *
40 歳代	-0.088 ***	0.010
50 歳代	-0.112 ***	0.003
60 歳代	-0.087 ***	0.057 **
70 歳以上	-0.079 ***	0.144 ***
結婚	0.037 ***	-0.038 **
子ども	0.039 ***	0.064 ***
無職	-0.015	-0.049 ***
200～400 万円	0.008	0.020
400～600 万円	0.024 *	0.014
600～1000 万円	0.019	0.032 *
1000 万円以上	0.001	0.036
専修・各種学校（専門学校）	0.017	0.017
短期大学・高等専修学校	0.018	0.006
大学	-0.007	-0.002
大学院	-0.025	-0.082 **
出身地	-0.022 **	0.197 ***
趣味や娯楽、レジャーを楽しむ余暇環境	0.042 ***	0.064 ***
森や海、公園などの自然に親しむ環境	0.011 *	0.021 ***
買い物や外食を楽しむ消費環境	0.026 ***	0.027 **
文化芸術に親しむ環境	0.035 ***	0.078 ***
電車やバスなど公共交通機関の利便性	0.017 ***	0.010
地震や洪水など自然災害への強さや備え	0.019 ***	0.043 ***
地域の住宅水準（家の良さや住宅価格・家賃）	0.038 ***	0.040 ***
近隣の居住環境（街並み景観や治安の良さ）	0.064 ***	0.096 ***
地域の雇用環境（仕事内容や賃金水準）	0.062 ***	0.076 ***
地域の医療体制・介護環境	0.010	-0.010
地域の子育て・教育環境（制度や施設など）	0.033 ***	0.016
政治・行政への関心・信頼	0.168 ***	0.277 ***
ロールモデルの存在	0.093 ***	0.121 ***
地域の固有性	-0.006	0.084 ***
ひとの動き	0.073 ***	0.065 ***
まちの動き	0.105 ***	0.097 ***
社会の動き	0.048 ***	-0.008
地域内の格差	-0.035 ***	-0.012
人口増減の認識	0.082 ***	-0.063 ***
自由度修正済み決定係数 R ²	0.625	0.520
サンプルサイズ	18800	18800

*** p < 0.001 (0.1%水準) ; ** p < 0.01 (1%水準) ; * p < 0.05 (5%水準)

表 A9 構造方程式モデル（モデル 6a, モデル 6b）の推定値

		モデル 6a	モデル 6b
寛容性 → 政治・行政への関心・信頼		0.594 ***	0.594 ***
寛容性 → ロールモデルの存在		0.395 ***	0.395 ***
寛容性 → 地域の固有性		0.250 ***	0.250 ***
寛容性 → ひとの動き		0.670 ***	0.670 ***
寛容性 → まちの動き		0.777 ***	0.777 ***
寛容性 → 社会の動き		0.560 ***	0.560 ***
政治・行政への関心・信頼 → 地域の希望		0.258 ***	0.258 ***
政治・行政への関心・信頼 → シビックプライド		0.390 ***	0.390 ***
ロールモデルの存在 → 地域の希望		0.122 ***	0.122 ***
ロールモデルの存在 → シビックプライド		0.148 ***	0.148 ***
地域の固有性 → 地域の希望		0.003	0.003
地域の固有性 → シビックプライド		0.140 ***	0.140 ***
ひとの動き → 地域の希望		0.111 ***	0.111 ***
ひとの動き → シビックプライド		0.059 ***	0.059 ***
まちの動き → 地域の希望		0.224 ***	0.224 ***
まちの動き → シビックプライド		0.183 ***	0.183 ***
社会の動き → 地域の希望		0.119 ***	0.119 ***
社会の動き → シビックプライド		0.087 ***	0.087 ***
地域の希望 → ラダー		1.229 ***	0.460 ***
地域の希望 → 感情		0.350 ***	0.659 ***
地域の希望 → エウダイモニア		0.492 ***	0.449 ***
地域の希望 → 希望		0.993 ***	0.318 ***
シビックプライド → ラダー		0.417 ***	0.489 ***
シビックプライド → 感情		0.094 ***	
シビックプライド → エウダイモニア		0.186 ***	
シビックプライド → 希望		-0.036 **	
シビックプライド → 地域へのコミットメント			0.744 ***
シビックプライド → 挑戦意欲			0.594 ***
シビックプライド → 定住意向			0.395 ***
e.政治・行政への関心・信頼 ↔ e.ロールモデルの存在		0.188 ***	0.188 ***
e.政治・行政への関心・信頼 ↔ e.地域の固有性		0.252 ***	0.252 ***
e.政治・行政への関心・信頼 ↔ e.人の動き		0.189 ***	0.189 ***
e.政治・行政への関心・信頼 ↔ e.街の動き		0.230 ***	0.230 ***
e.政治・行政への関心・信頼 ↔ e.社会の動き		0.226 ***	0.226 ***
e.ロールモデルの存在 ↔ e.地域の固有性		0.162 ***	0.162 ***
e.ロールモデルの存在 ↔ e.ひとの動き		0.139 ***	0.139 ***
e.ロールモデルの存在 ↔ e.まちの動き		0.156 ***	0.156 ***
e.ロールモデルの存在 ↔ e.社会の動き		0.146 ***	0.146 ***
e.地域の固有性 ↔ e.人の動き		0.333 ***	0.333 ***
e.地域の固有性 ↔ e.街の動き		0.372 ***	0.372 ***
e.地域の固有性 ↔ e.社会の動き		0.330 ***	0.330 ***
e.ひとの動き ↔ e.まちの動き		0.406 ***	0.406 ***
e.ひとの動き ↔ e.社会の動き		0.347 ***	0.347 ***
e.まちの動き ↔ e.社会の動き		0.406 ***	0.406 ***
e.地域の希望 ↔ e.シビックプライド		0.119 ***	0.119 ***
e.ラダー ↔ e.感情		0.605 ***	
e.ラダー ↔ e.エウダイモニア		0.436 ***	
e.ラダー ↔ e.希望		0.954 ***	
e.感情 ↔ e.エウダイモニア		0.125 ***	
e.感情 ↔ e.希望		0.191 ***	
e.エウダイモニア ↔ e.希望		0.209 ***	
e.地域へのコミットメント ↔ e.挑戦意欲			0.377 ***
RMSEA		0.065	0.083
CFI		0.980	0.973
SRMR		0.028	0.031
修正済み GFI		0.981	0.972
修正済み AGFI		0.933	0.899
サンプルサイズ		18800	18800

*** p < 0.001 (0.1%水準) ; ** p < 0.01 (1%水準) ; * p < 0.05 (5%水準) . "e."は誤差項を意味する.